

市町村行政事務監督ノ儀ニ付テハ是迄示達シタル儀モ有之各地方共漸次監督ノ方法ヲ設ケ實施シ來候處客年來已ニ郡制府縣制ヲ實施シタル地方モ不少又其他ノ府縣ニ在テモ不遠施行セラルヘキニ付從テ其下級團體タル市町村行政事務ノ監督ハ此際一層之ヲ嚴密ニシ以テ其事務ノ整理ヲ計リ新制度ノ實効ヲ舉クルコトニ注意セラル可シ今其監督ヲ行フヘキ事項ノ要領ヲ左ニ列舉ス其方法順序ノ詳細ニ至テハ各地方適宜酌量スルコトアル可シ

- 一 市町村ノ事務ハ國及府縣郡ノ行政ニ係ルモノハ勿論市町村ノ共同事務ニ屬スルモノト雖モ其事務報告ヲ徵シ之ニ依テ其事務ノ整理ヲ檢察シ其違法若クハ不當ナルモノアルトキハ夫々相當ノ處分ヲ施シ又將來ニ向テ訓戒ヲ加フルコトアルヘシ依テ各府縣ニ於テ市町村事務報告例ヲ定メ確實ノ報告ヲ徵スルヲ要ス尤モ定例報告ノ外ト雖モ必要ノ時ハ隨時報告ヲ徵スルコトアルヘシ又天災時變其他重要ノ事件アルトキハ監督官廳ノ命令ヲ埃タスシテ臨時報告スヘキハ當然ノ事ナリトス
- 二 市町村ノ行政事務ヲ監督スル爲メニ監督官廳ハ各市町村ノ巡視ヲ行フヘシ其巡視規程ハ各府縣ニ於テ適宜規定スルヲ要ス
- 三 市役所町村役場事務ノ整理ヲ計ルニハ其處務ノ順序一定ノ例式ニ依ルヲ要ス各府縣ニ於テハ其處務規程ノ準則ヲ示達シ各市町村ヲシテ此準則ニ依リ適宜之ヲ設定シ第一次監督官廳ノ認可ヲ受ケシム可シ
- 四 市町村會計ノ整理ヲ計ル爲メニ出納帳簿ノ例式ヲ一定スルヲ要ス依テ各府縣ニ於テ可成精密明白ノ簿式ヲ制定シ且出納檢閱例規ヲ設ケ漸次精密ノ檢査ヲ施行ス可シ
- 五 市町村長及收入役等交代ノ節事務引繼ノ事ハ最慎重ヲ要スルニ付特ニ視察ヲ加ヘ時宜ニ依リ主任官ヲシテ臨檢セシムルコトアルヘシ其事務引繼ノ順序ハ豫メ各府縣ニ於テ一定ノ例ヲ設ルヲ要ス

六 市町村ノ事務ヲ整理スルニハ簿冊ノ種類員數樣式ヲ一定スルヲ要ス依テ各府縣ニ於テ適宜其準則ヲ定メ漸次施行スヘシ

七 市町村ノ事務ハ最簡易誠實ヲ主トシ虛飾ニ流レズ繁細ニ涉ラサルヲ要ス其經濟ハ勤儉ヲ守リ勉テ資力ヲ充實スルノ法ヲ講シ冗費濫出ノ弊ヲ防制スヘシ

八 市町村基本財産ハ之ヲ維持保存シ之ヲ増殖スルヲ務ムヘキハ勿論市町村經濟ノ許ス限リハ力メテ之ヲ蓄積セシメンコトヲ誘導スルヲ要ス然レトモ其方法宜キヲ得サルトキハ却テ負擔ヲ加重シ經濟上ノ不利タルヲ免レヌ宜ク特ニ注意ヲ加フ可シ

九 市町村行政事務ノ舉否ハ主トシテ市町村長ノ責任ニ在リ故ニ其選任ニ付テハ最慎重ヲ加フヘク特ニ市長ハ其任重ク裁可ヲモ仰クヘキニ付其推薦ヲ誤サル様厚ク注意スヘキハ勿論町村長ハ知事ニ於テ之ヲ認可スルノ職權ヲ有スルニ付其選任ノ當否ハ詳ニ之ヲ監査シ犯罪不正ノ行爲アル者若クハ徵戒處分ヲ受ケタル者ノ如キハ言フヲ待タス(但徵戒處分ノ輕キモノハ別段ナリ)其經歷上其任ニ適セスト認ムルモノハ之ヲ認可セス又就職後ト雖モ職務ノ内外ニ拘ラス不都合ノ行爲アルモノハ嚴正ニ訓諭ヲ加ヘ再三ニ及テ猶之ヲ遵奉セサル者ノ如キニ至テハ假借スル所ナク處分ヲ行ヒ且以テ紀律ヲ嚴肅ニスルノ良習慣ヲ養成スルヲ要ス

十 市町村吏員タル者ハ政論ノ外ニ立テ一ニ市町村ノ公益ヲ計リ黨派ニ偏セス公平ヲ持スルヲ以テ最專要トス故ニ假令其人名ヲ政黨ニ列スルコトアルモ市町村行政ノ職務ヲ行フニ方テハ自治ノ本旨ヲ恪守シ毫モ黨派ノ關係ヲ及ホスコトアルヘカラス監督官廳ハ厚ク之ヲ監査シ其行爲公平ヲ失スト認ムル者ハ前項ト同ク嚴ニ訓諭ヲ加ヘ事實ニ依テハ相當ノ處分ヲ行フヘシ

十一 市町村吏員ノ任期アル者ハ其任期中ハ自己ノ意思ニ依リ法律ノ規定ニ從テ退職スルノ外他ヨリ容易ニ

進退セシムルヲ得ス然ルニ其任期内ニ在テ市長ノ俸給ヲ減額シ町村長助役ヲ有給吏員ト爲シ若クハ其有給ノ例ヲ廢シ以テ容易ニ吏員ノ交代ヲ促スカ如キコトナシトセス又法律ノ規定外特ニ議員ノ定數ヲ増減スルコト往々アリ是或ハ黨派ノ私ニ起因シ其實吏員議員ヲ進退スルノ意ニ出ツルコトアラシモ知ル可カラス若シ右等ノ事アルニ於テハ獨リ法律ノ旨趣ニ戾ルノミナラス其弊少カラサルニ付嚴ニ其實ヲ審明シ事宜ニ依リ一面ハ訓誡ヲ加ヘ一面ハ事狀ヲ具申スヘシ

十二 各府縣ニ於テ本訓令ニ依リ事務報告例巡視規程處務規定準則出納帳簿式出納檢閱例規市町村吏員事務引繼順序其他諸簿冊ノ種類員數樣式等ヲ設クルトキハ本省ニ報告スヘシ

○市町村巡視規程概則

明治二十五年五月九日
內務省訓第三四九號

市町村巡視規程ハ左ノ概則ニ準シ適宜制定セラレヘシ

郡長ハ少クモ毎年一度部内各町村ヲ巡視ス可シ其他郡書記府縣官ノ巡視スルハ便宜知事郡長ノ指揮スル所ニ依ル

巡視ス可キ事項ハ各府縣適宜之ヲ定ム可シト雖モ今左ノ概例ヲ舉ケテ其標準ヲ示ス

- 一 市町村內全體ノ狀況(平穩無異ナリヤ否ヤ黨派軌轢ノ弊アリヤ否ノ類)
- 二 吏員ノ勤惰能否及事務ノ成績(土木事業教育勸業ノ舉否若クハ兵事戶籍等ノ整否ノ類)
- 三 市役所町村役場事務分課及執務ノ體裁
- 四 市町村事務ノ狀況(事務ノ繁簡便否ノ類)
- 五 市町村吏員ノ處置法律命令ノ規定ニ違背スル所ナキヤ否

- 六 吏員ノ部民ニ對スル接遇
 - 七 市町村會議ノ景況
 - 八 市町村會議員選舉ノ景況
 - 九 豫算決算ノ整理
 - 十 營造物及財産ノ管理
 - 十一 簿書ノ整頓並保存
 - 十二 出納ノ正否及現金ノ保管
 - 十三 市町村經濟ノ狀況(負擔ノ輕重課稅ノ適否財産及負債多寡等ノ類)
- 以上ハ巡視スヘキ事件ノ綱領ヲ舉クルノミ其細節目ハ各府縣ニ於テ便宜之ヲ規定スヘシ
- 視巡ノ時檢査スヘキ簿冊及事業ノ成績ヲ視察スルニ付注意スヘキ事項ハ各府縣ニ於テ之ヲ規定スルコトアルヘシ
- 巡視復命書ノ樣式ハ豫メ各府縣ニ於テ之ヲ一定シ置クヘシ
- 郡長郡吏員ヲ派遣シテ巡視セシメ其復命ヲ受ケタル片ハ郡長ニ於テ之ヲ勘査シ將來ノ處分ニ付意見アル者ハ之ヲ付シ共ニ府縣知事ニ報告スヘシ府縣知事ハ其重要ト認ムル事項ヲ內務大臣ニ報告スヘシ
- 府縣及郡ニ於テ屬員ヲ派遣シテ巡視セシムルトキハ管内ヲ數區ニ分チ豫メ巡視ノ擔當區ヲ定ムルコトヲ得ヘシ
- 巡視員巡視シタル事項ニ付テハ知事郡長ニ復命スルノ外秘密ニ取扱ヒ漏泄スルコト無之様注意スヘシ
- 府縣知事郡長ニ於テ職權ヲ以テ指揮スルハ格別其他巡視員ニ於テ巡視事項ヲ視察スルノ外知事郡長ノ命令ヲ待タスシテ直ニ指揮スルコトヲ得ス但法律命令ニ違ヒ又錯誤アルコトヲ發見シ事輕微ニシテ直

ニ更正シ得ヘキモノハ市町村長ニ注意ヲ與フルコトヲ得若シ錯誤違法ノ廉輕微ナラスシテ差置キ難キモノハ即時知事郡長ニ報告セシムヘシ

○市町村事務報告例概則 明治二十五年五月九日
内務省訓令第三五〇號

- 市町村事務報告例ハ左ノ概則ニ準シ適宜制定セラレヘシ
- 市町村事務報告例ハ特別ニ規定スルモノ、外即報トシ其事件ノ生シタル即日報告スルモノトス但必要ト認ムルトキハ豫報ヲ爲サシムルコトアルヘシ
- 市ノ報告ハ府縣知事ニ町村ノ報告ハ郡長ニ提出スルヲ例トス但別段ノ規定アルモノハ其規定ニ依ル町村ノ報告ヲ郡長ヨリ更ニ府縣知事ニ報告シ市町村及郡長ヨリ提出シタル報告ヲ府縣知事ヨリ更ニ内務大臣ニ報告スルハ別段ノ規定アル事項ニ限ル但天災時變等異常ノ事項ハ隨時必要ノ報告ヲ爲スヘシ
- 市町村事務報告ノ項目ハ各府縣ニ於テ適宜規定スヘシト雖モ今左ニ概例ヲ舉ケテ其標準ヲ示ス
- 一 市町村會議員選舉ノ結果及其選舉錄謄本
 - 二 市町村會議員ノ退任辭職
 - 三 市町村會開閉及其議事ノ事項並其議事錄謄本
 - 四 市町村會ノ決議諸件
 - 五 市町村會議決ノ執行停止及再議ニ付シタル事件
 - 六 市町村會議員選舉ノ効力ニ關スル處分
 - 七 市町村公民權ノ特免停止及市町村費増課處分

- 八 市町村内ニ區ヲ設置シ區長及代理者ヲ置クコト及之ヲ廢スル事
 - 九 常設及臨時ノ委員ヲ設置シ及廢止スル事
 - 十 市町村吏員ノ選舉ノ結果
 - 十一 市町村長助役及收入役ノ就任及退任
 - 十二 市町村助役及市參事、會員分掌事項
 - 十三 市町村會議事細則及役場内諸規定
 - 十四 市町村吏員事務引繼ノ顛末
 - 十五 市町村吏員ノ徵戒處分
 - 十六 市町村歳入歳出豫算及決算
 - 十七 市町村事務報告書寫及市町村財產明細表
 - 十八 一時借入金及三年以内ノ公債募集
 - 十九 學藝美術ニ關スル物品ノ異動
 - 二十 市町村稅滯納處分ニ係ル人員及金額
- 前項類目ノ外法律命令ニ規定アルモノ並國及府縣郡ノ行政事務（戶籍兵事學事勸業等）ニシテ法律命令ヲ以テ報告ヲ徵スルモノハ各其規定ニ依ルヘシ

○區町村會法 明治十七年五月七日太政官布告
第十四號

明治十三年四月第十八號布告區町村會法左ノ通改正ス

區町村會法

- 第一條 區町村會ハ區町村費ヲ以テ支辨スヘキ事件及其經費ノ支出徵收方法ヲ議定ス
- 第二條 區町村會ノ會期、議員ノ員數、任期、改選及其他ノ規則ハ府縣知事「縣令」之ヲ定ム
- 第三條 區會ハ區長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス町村會ハ戶長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス
- 第四條 區會ノ評決ハ區長之ヲ施行シ町村會ノ評決ハ戶長之ヲ施行ス若シ其評決ヲ不適當ナリトスルトキハ其施行ヲ止メ府知事「縣令」ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ
- 第五條 區長ニ於テ區會、郡區長戶長ニ於テ町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ害スルコトアリト認ムルトキハ其會議ヲ中止シ府知事「縣令」ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ
- 第六條 府知事「縣令」ニ於テ區町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ害スルコトアリト認ムルトキハ何時タリトモ區町村會ヲ停止シ又ハ之ヲ解散シテ改選セシムルコトヲ得
- 第七條 前條ノ場合ニ於テ停止又ハ解散ヲ命シタルトキハ更ニ開會ヲ命シ又ハ改選スル迄ノ間區長戶長ハ經費ノ支出徵收方法ヲ定メ府知事「縣令」ノ認可ヲ得テ施行スルコトヲ得
- 第八條 區町村ニ於テ議員ヲ選舉セス又ハ議員招集ニ應セスシテ會議ヲ開クヲ得ス及議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期內ニ於テ議案ヲ評決シ終ラサルトキハ前條ノ例ニ依ル
- 第九條 議員ヲ選舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ其區町村ニ住居シ其區町村內ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款ニ觸ル、者及海陸軍人現役ノ者ハ選舉人タルコトヲ得ス
- 第十條 議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歲以上ノ男子ニシテ其區町村ニ住居シ其區町村內ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款第四款ニ觸ル、者ハ議員タルコトヲ得ス

- 第十一條 區會ノ議長ハ區長町村會ノ議長ハ戶長ヲ以テ之ニ充ツ區長戶長若シ事故アルトキハ區長戶長ニ於テ議員中ヨリ議長ヲ指定スルコトヲ得
- 第十二條 府知事「縣令」其管轄內ニ於テ町村會ヲ開設シ得ヘカラサル狀況アルヲ認ムルトキハ「內務卿」ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ
- 第十三條 府知事「縣令」ハ數區町村ニ關涉スル事件アルトキ其區域ヲ定メテ聯合區町村會ヲ開設スルコトヲ得
- 第十四條 府知事「縣令」ハ水利土功ニ關スル事項ニシテ區町村會若クハ聯合區町村會ニ於テ評決スルヲ得サルモノアルトキハ特ニ其區域ヲ定メテ水利土功會ヲ開設スルコトヲ得
- 第十五條 聯合區町村會及水利土功會ハ總テ本法ニ準據ス其區域區長戶長數人ノ所轄ニ涉ルモノハ府知事「縣令」便宜郡區長ヲシテ之ヲ管理セシム但戶長ヲシテ其評決ヲ施行セシムルコトアルヘシ

○區町村費及土木費意納者處分

明治十七年五月七日太政官布告第十五號

區町村會ニ於テ評決シタル區町村費及ヒ水利土功會ニ於テ評決シタル土木費ノ意納者ハ總テ明治十年十一月第七十九號布告ニ據リ處分ス可シ若シ財產公賣ノ際買受望人ナキトキハ官沒ノ手續ヲ爲サス郡區長又ハ戶長ニ於テ之ヲ管掌シ會議ノ評決ヲ取リ府知事「縣令」ノ認可ヲ得テ處分スヘシ

但明治十四年四月第二十四號布告ハ廢止ス

○市町村制施行後水利土功及學事ニ關スル會議存續ノ件

明治二十二年三月二十一日
法律第十一號

朕水利土功及學事ニ關スル會議存續ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

從來開設シタル水利土功會又ハ水利土功若クハ學事ニ關スル町村聯合會ハ明治十七年五月第十四號布告區町村會法ニ依リ又學區會ハ同法第十四條第十五條ニ準據シ市制町村制施行後ト雖モ別ニ規定ヲ設クルマテ之ヲ存續スルコトヲ得

○各府縣下ニ存在スル公共財產等ニ關スル件

明治二十二年一月二十四日
內務省令第一號

第一條 從來各府縣下ニ存在スル公共ノ財產ニシテ府縣會區町村會及水利土功會ノ議定ニ付セサルモノハ其管理方法又ハ名義ノ如何ニ拘ラス府縣知事ニ於テ其管理者又ハ關係者ノ意見ヲ聞キ其所屬ヲ定メ自今府縣會若クハ區町村會ノ議定ヲ經テ府縣知事若クハ郡區長戸長ニ於テ之ヲ管理スヘシ
第二條 前條ノ財產ニシテ地方稅又ハ區町村費ト經濟ヲ異ニスルノ必要アルモノハ議會ノ決議ニヨリ別ニ經濟ヲ立ツルコトヲ得
第三條 公益ニ供スル爲メ有志人民ノ協力ヲ以テ設立シタル學校病院ノ類ハ府縣立ノ名義ヲ附シ府縣知事ニ於テ之ヲ管理スルモ本令第一條ニ據ルノ限ニ在ラス

○水道條例

二十三年二月十二日
法律第九號

朕水道條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水道條例

- 第一條 水道トハ市町村ノ住民ノ需要ニ應ジ給水ノ目的ヲ以テ布設スル水道ヲ云ヒ水道用地トハ水源
地、貯水池、濾水場、唧水場及水道線路ニ要スル地ヲ云フ
- 第二條 水道ハ市町村其公費ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ布設スルコトヲ得ス
- 第三條 市町村ニ於テ水道ヲ布設セントスルトキハ其目論見書ニ左ノ事項ヲ詳記シ地方長官ヲ經テ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
 - 第一 水道事務所ノ所在地
 - 第二 水源ノ位置河川池湖又ハ掘井及其水量ノ概算但圖面及水質ノ分析表ヲ添フヘシ
 - 第三 水道線路及水道線路ニ沿フタル地名貯水池、濾水場、唧水場ノ位置但圖面ヲ添フヘシ
 - 第四 給水ノ區域其人口及其一人一日ニ對スル平均給水量
 - 第五 人口増殖及多量ノ水ヲ用フル製造場等ニ對スル給水量増加ノ見込
 - 第六 水壓ノ概算
 - 第七 工事方法
 - 第八 起工並竣工期限
 - 第九 工費ノ總額其收入支出ノ方法及其豫算

市町村制施行後水利土功及學事ニ關スル會議存續ノ件 各府縣下ニ存在スル公共財產等ニ關スル件
水道條例

- 第十 水料ノ等級、價格、水料徴收ノ方法及經常收支ノ概算
- 第四條 内務大臣ハ前條ノ圖面書類ヲ審査シ不都合ナシト認ムルトキハ水道布設ノ認可狀ヲ與フヘシ
- 第五條 水道用地ハ國稅地方稅ヲ免除ス
- 第六條 官有ノ土地ニシテ水道用地ニ必要ナルモノハ之ヲ拂下ケ又ハ貸付スヘシ
- 第七條 水管ヲ官有地又ハ公道ノ地下ニ布設セントスルトキハ當該官廳ノ許可ヲ受クヘシ
- 第八條 地方長官ハ隨時當該官吏又ハ技術官ヲ派遣シテ水道工事及水質水量ヲ検査セシメ其改築修理ヲ要シ又ハ水質不良水量不足ナリト認ムルトキハ地方衛生會ノ議定ヲ經相當ノ猶豫期日ヲ定メテ之ヲ改良ヲ市町村ニ命スヘシ
- 第九條 市町村ハ工事落成又ハ改築修理ヲ了リタルトキハ地方官廳ニ届出監査ヲ受クヘシ
- 第十條 水道ノ給水ヲ受クル者ハ水質水量ノ検査ヲ市町村長ニ請求スルコトヲ得
- 第十一條 家屋内ノ給水用具及本支水管ヨリ之ニ接続スル細管ハ市町村ノ所定ニ從ヒ之ヲ設置シ其費用ハ水道ノ給水ヲ受クル家主ノ負擔トス
- 第十二條 市町村ノ水道掛ハ午前八時ヨリ午後五時迄ノ内ニ於テ家屋内ノ給水用具ヲ検査スルコトヲ得但水道掛ハ其證票ヲ携帶スヘシ
- 第十三條 市町村長ハ水道掛ノ報告ニ依リ家屋内ノ給水用具不完全ナリト認ムルトキハ相當ノ猶豫期日ヲ定メテ之ヲ修繕ヲ爲サシムヘシ
- 第十四條 家主若シ其修繕ヲ怠ルトキハ市町村ニ於テ之ヲ修繕シ其費用ヲ徴收スルコトヲ得
- 第十五條 家主ハ家屋内給水用具ノ設置又ハ其修繕ヲ了リタルトキハ市町村ノ水道掛ニ届出ツヘシ水道掛ハ速ニ之ヲ検査スヘシ

- 第十五條 市町村ハ一家専用ノ給水用具ヲ設クル能ハサルモノ、爲メニ共用給水器ヲ設クヘシ
- 第十六條 市町村ハ消防用ノ爲メニ消火栓ヲ設置スヘシ消防用ニ消費シタル水ハ水料ヲ徴收スヘカラス

○水利組合條例

明治二十三年六月廿日
法律第四十六號

朕水利組合條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水利組合條例

第一章 總則

- 第一條 府縣稅又ハ郡費ノ支辨ニ屬セサル水利土功ニ關スル事業ニシテ其利害關係ノ區域市町村ノ區域ト符合セサルモノ又ハ符合スト雖ニ市町村以上ニ渉ルモノニシテ特別ノ事情ニ依リ市町村若ハ町村組合ノ事業トナスコトヲ得サルモノアル場合ニ於テハ此法律ニ依リ水利組合ヲ設置スルコトヲ得
- 第二條 水利組合ハ分テ左ノ二種トス
 - 一 普通水利組合
 - 二 水害豫防組合
- 第三條 普通水利組合ハ用惡水等專ラ土地保護ニ關スル事業ノ爲設置スルモノトス
- 第四條 水害豫防組合ハ水害防禦ノ爲ニスル堤防浚渫砂防等ノ工事ニシテ普通水利組合ノ事業ニ屬セサルモノ、爲設置スルモノトス

第五條 水利組合ハ組合規約ヲ設ケ其組合ニ關スル重要ノ事項ヲ規定スヘシ
第六條 二府縣以上ニ涉リテ水利組合ヲ設クルノ必要アルトキハ此法律中府縣知事ノ職權ニ屬スル事項ハ其關係ノ府縣知事協議ノ上之ヲ處分スヘシ若シ互ニ意見ヲ異ニスルトキハ内務大臣ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第二章 組合ノ設置及廢止

第七條 普通水利組合ハ組合事業ノ爲利益ヲ受クル土地ヲ以テ區域トシ其土地所有者ヲ以テ組合員トス但舊慣アルモノハ其舊慣ニ依リ區域ヲ畫スルコトヲ得

第八條 普通水利組合ハ左ノ場合ニ於テ第十條乃至第十二條ノ手續ニ從ヒ之ヲ設置スルモノトス

一 組合員タルコトヲ得ル者五名以上ノ情願アリタルトキ

二 組合事業ニ關係アル土地ノ郡長又ハ市町村長ノ具狀アリタルトキ

第九條 前條ノ情願ニハ市町村長ニ於テ意見ヲ付シ町村長ハ郡長ヲ經、市長ハ直ニ之ヲ府縣知事ニ差出スヘシ

第十條 第八條ノ情願又ハ具狀ニ依リ府縣知事ニ於テ公益上設置スヘキモノト認ムルトキハ假ニ組合關係ノ區域ヲ指定シ其土地ノ郡長又ハ市町村長ノ内一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘシ

第十一條 創立委員ハ組合規約案ヲ調製シ關係者ノ總會議ニ付スヘシ關係者百人以上ニ及フトキハ府縣知事ノ認可ヲ經テ便宜總代人ヲ選ハシメ其集會ヲ以テ總會議ニ充ルコトヲ得

前項ノ總會議ハ關係者若ハ總代人ノ全員三分ノ二以上出席スルトキハ議決ヲ爲スコトヲ得其議決ハ過半数ニ依ル

第十二條 創立委員ハ關係者ノ總會議ニ於テ組合規約ノ議決ヲ經タルトキハ府縣知事ノ認可ヲ請フヘシ

府縣知事ニ於テ前項ノ認可ヲ爲ストキハ同時ニ組合設置ノ旨並其管理者タルヘキ郡長若ハ市町村長ヲ告示スヘシ

第十三條 普通水利組合ハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ認可ヲ經テ之ヲ廢止スルコトヲ得此場合ニ於テ府縣知事ハ組合廢止ノ旨ヲ告示スヘシ但組合ニ於テ猶民法上ノ義務ヲ負フトキハ其義務ヲ完了スルカ又ハ完了ノ方法ヲ確定スル迄廢止スルコトヲ得ス

第十四條 水害豫防組合ハ府縣知事ニ於テ第十六條第十七條ノ手續ニ從ヒ水害ヲ受クヘキ地ニ就キ區域ヲ畫シテ之ヲ設置スルモノトス但舊慣アルモノハ舊慣ニ依リ其區域ヲ畫スルコトヲ得

前項ノ區域内ニ土地家屋ヲ所有スル者ハ總テ其組合員トス

第十五條 水害ヲ受ケサル土地ト雖水害ヲ受クヘキ地ニ接近シ組合事業ノ爲直接ノ利益ヲ受クルモノハ之ヲ組合區域内ニ編入スルコトヲ得但此場合ニ於テハ其部分ニ限リ土地所有者ノミ組合員タルモノトス

第十六條 府縣知事ニ於テ水害豫防組合ノ區域ヲ畫セントスルトキハ關係アル郡市參事會ノ意見ヲ聞き之ヲ定ムヘシ區域ノ變更ヲ要スルトキ亦同シ

第十七條 府縣知事ニ於テ水害豫防組合ノ區域ヲ定メタルトキハ其事業ニ關係アル土地ノ郡長又ハ市町村長ノ内一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘシ

創立委員ハ組合規約案ヲ調製シ之ヲ組合員ノ總會議ニ付スヘシ其他ハ第十一條及第十二條ヲ適用ス
第十八條 水害豫防組合ハ府縣知事ニ於テ組合會ノ意見ヲ聞き之ヲ廢止スルコトヲ得此場合ニ於テ府縣知事ハ組合廢止ノ旨ヲ告示スヘシ但組合ニ於テ猶民法上ノ義務ヲ負フトキハ第十三條但書ノ例ニ依ル

第三章 水利組合ノ會議

第十九條 水利組合ニ組合會ヲ置ク

第二十條 組合會議員ハ其組合員ニ於テ之ヲ選舉スヘシ議員ノ數、資格、任期及選舉ノ方法ハ組合規約ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條 組合會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一 組合規約ヲ改正追加シ及普通水利組合區域ヲ變更スル事但其議決ハ議員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルヲ要ス

二 組合費ノ豫算ヲ定メ及決算報告ヲ認定スル事

三 組合費及夫役現品ノ賦課徴收方法ヲ定ムル事

四 組合ニ屬スル財産ノ賣買、交換、讓渡、讓受並質入、書入ヲ爲ス事

五 豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

第二十二條 組合會ハ組合事業ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ管理者ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ施行並收入支出ノ正否ヲ監査スルコトヲ得

第二十三條 議員選舉ノ効力若ハ議員ノ資格ニ關スル異議ハ組合會之ヲ議決スヘシ組合會ノ議決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願スルコトヲ得其組合ノ區域、郡市又ハ數郡ニ涉ル場合ニ於テ組合會ノ議決ニ不服アル者及郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

前項ニ依リ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
組合ノ區域ニ府縣以上ニ涉ル場合ニ於テ府縣參事會ニ訴願スル者アルトキハ其關係參事會ニ於テ協議ノ上主管ヲ定ムヘシ若シ協議調ハサルトキハ內務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第二十四條 組合會ハ管理者ヲ以テ議長トシ管理者故障アルトキハ其代理者ヲ以テ之ニ充ツ

第二十五條 組合會ハ毎年一回若ハ二回通常會ヲ開キ其他臨時ノ必要アル毎ニ臨時會ヲ開ク但通常會ノ時期及度數ハ組合規約ノ定ムル所ニ依ル
組合會ハ管理者之ヲ招集ス若シ議員四分ノ一以上ノ請求アルトキハ必ス之ヲ招集スヘシ

招集狀ハ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外遅クモ會議ノ三日前ニ之ヲ發スヘシ

第二十六條 組合會ハ議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ス

第二十七條 組合會ノ議決ハ過半数ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十八條 組合員少數ノ組合ニ於テハ組合會ヲ設ケス組合規約ノ規定ニ依リ組合員總會ヲ以テ之ニ充ルコトヲ得

第四章 組合ノ管理

第二十九條 水利組合ハ其組合ノ區域一市町村內ニ止ルトキハ其市町村長之ヲ管理シ數市町村又ハ郡市若ハ數郡ニ涉ルトキハ府縣知事ニ於テ便宜郡長又ハ市町村長ノ內一名ヲ指定シ之ヲ管理セシムヘシ

第三十條 水利組合ノ收入及會計ノ事務ハ郡長ニ於テ管理者タル場合ハ郡ノ會計吏ヲシテ兼掌セシメ市町村長ニ於テ管理者タル場合ハ其市町村收入役ヲシテ兼掌セシムヘシ

組合區域數市町村ニ涉ルトキハ各市町村收入役ハ管理者ノ求ニ依リ組合費ノ徵收ヲ爲スヘシ
第三十一條 管理者タル郡長又ハ市町村長ニ於テ行フ職務ニ關シ組合ノ爲特ニ要スル費用ハ其組合ノ負擔トス組合ノ收入及會計事務ヲ兼掌スル郡會計吏又ハ市町村收入役ニ於テ行フ職務ニ關スル費用亦同シ

第三十二條 管理者職務ノ概目左ノ如シ

一 組合一切ノ事務ヲ管理スル事

二 組合會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ組合會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メサルトキハ郡參事會ノ裁決ヲ請フヘシ郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得但權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其組合ノ區域郡市若ハ數郡ニ涉ルトキ又ハ郡長ニ於テ管理者タルトキハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得但權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

三 組合ノ權利ヲ保護シ收入金其他ノ財産ヲ管理シ歳入出豫算其他組合會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事

四 諸證書及其他書類ヲ保管スル事

五 外部ニ對シテ組合ヲ代表スル事

第三十三條 管理者ハ特ニ組合會ノ委任ヲ受ケ又ハ其議決ヲ經タル事件ニ非サレハ組合ノ爲契約ヲ結ヒ又ハ義務ヲ負擔スヘキ證書若ハ委任狀ヲ發スルコトヲ得ス

第三十四條 組合ハ必要ナル委員又ハ附屬ノ僱員ヲ置クコトヲ得委員ハ組合會之ヲ選任シ僱員ハ管理者之ヲ任用ス

委員又ハ僱員ノ爲ニ要スル費用ハ其組合ノ負擔トス

第五章 組合ノ會計

第三十五條 普通水利組合費ハ土地ニ賦課シ水害豫防組合費ハ土地及家屋ニ賦課スルモノトス但舊慣アルモノハ專ラ土地ニ賦課スルコトヲ得又第十五條ノ組合員ニ對シテハ土地ニ限リ之ヲ賦課スヘシ

第三十六條 組合費ハ組合規約中ニ豫メ連年措置ノ賦課額ヲ設ケ之ヲ徵收スルコトヲ得

第三十七條 組合費豫算額ノ剩餘ハ之ヲ積金ト爲スノ方法ヲ設クルコトヲ得其積立並支出ノ方法ハ組合會ノ議決スル所ニ依ル

第三十八條 組合ハ其事業ノ爲夫役現品ヲ組合員ニ賦課スルコトヲ得但水害豫防組合ニ在テハ夫役ニ限リ其區域内ニ住居スル一般ノ人民ニ賦課スルコトヲ得

夫役現品ニ關スル規定ハ組合規約中ニ之ヲ定ムヘシ

第三十九條 普通水利組合費ノ賦課額ハ組合會ノ議決ニ依リ水害豫防組合費ノ賦課額ハ府縣知事ニ於テ其關係郡市參事會ノ意見ヲ聞キ其事業ヨリ受クル利益ノ厚薄ニ依リ區域ヲ限リ其割合ニ差等ヲ設クルコトヲ得

第四十條 組合費ノ徵收及滯納處分ハ市町村稅ノ例ニ依ル

第四十一條 組合ハ天災事變ノ爲止ムヲ得サル支出若ハ組合永久ノ利益トナルヘキ事業ニ付通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ其組合員ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限リ負債ヲ起スコトヲ得

組合ニ於テ負債ヲ起スコトヲ議決スルトキハ其借入及償還ノ方法及期限並利足ノ定率ヲ定ムヘシ年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキ一時ノ借入金ハ前項ノ例ニ依ルノ限ニアラス但組合會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第四十二條 管理者ハ毎會計年度ノ歲入出豫算ヲ調製シ會計年度前ノ通常組合會ノ議決ニ付スヘシ
 第四十三條 歲入出豫算ハ組合會ノ議決ヲ經タル後之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ
 第四十四條 決算ハ第三十條ノ會計吏又ハ收入役ニ於テ會計年度ノ終ヨリ三箇月以内ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併テ之ヲ管理者ニ提出シ管理者ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シ之ヲ次回ノ通常組合會ノ認定ニ付スヘシ

決算報告書並之ニ關スル議決ハ管理者ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第六章 水利組合ノ監督

第四十五條 水利組合ハ第一次ニ郡長第二次ニ府縣知事第三次ニ内務大臣之ヲ監督ス其郡長又ハ市長ニ於テ管理スル場合ニ於テハ第一次ニ府縣知事第二次ニ内務大臣之ヲ監督ス

第四十六條 此法律中別段ノ規定アルモノ、外管理者ノ處分ニ不服アル者ハ組合所在地ノ郡參事會ニ訴願シ郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得其組合ノ區域郡市又ハ數郡ニ涉ル場合ニ於テ管理者ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

前條ニ依リ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得
 組合ノ區域ニ府縣以上ニ涉ル場合ニ於テ府縣參事會ニ訴願スル者アルトキハ第二十三條第三項ノ例ニ依ル

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第四十七條 賦課金納付ノ義務ニ關スル訴願ハ其徵收令書ヲ交付シタル日ヨリ三箇月以内ニ提出スヘシ
 前項ノ場合ニ屬セサル事件ニ關シ訴願セントスル者ハ處分若ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内

ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出スヘシ

第四十八條 水利組合會ハ内務大臣ニ於テ之ヲ解散セシムルコトヲ得解散ヲ命スルトキハ同時ニ三箇月以内更ニ議員ヲ選舉スヘキコトヲ命スヘシ

第四十九條 監督官廳ハ組合事務ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事業ノ公益ヲ害セサルヤ否ヤヲ監視シ兼テ其會計事務ヲシテ錯雜セサラシムルコトヲ務ムヘシ監督官廳ハ之カ爲組合事務ノ報告ヲ爲サシメ並實地ニ就テ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルコトヲ得

組合ニ於テ公益ヲ害スヘキ工事ヲ執行スルカ又ハ正當爲スヘキ工事ヲ執行セサルカ爲公益ヲ害スルノ虞アルトキハ府縣知事ハ其工事ノ變更又ハ執行ヲ命スルコトヲ得若シ其命令ニ服從セサルトキハ府縣知事ニ於テ之ヲ執行シ其實費ヲ追徵スルコトヲ得

第五十條 組合會ニ於テ組合規約ノ改正追加及普通水利組合區域變更ノ議決ヲ爲シ又ハ不動産ノ賣却、交換、讓渡又ハ質入、書入ノ議決ヲ爲シ又ハ第三十九條ニ依リ普通水利組合費ノ賦課額ニ差等ヲ設クルノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

組合會ニ於テ負債ヲ起スコトヲ議決シタルトキハ借入及償還ノ方法及期限並利息ノ定率ヲモ併テ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

其他組合規約中ニ監督官廳ノ認可ヲ受クヘキ事項ヲ增加スルコトヲ得

第五十一條 水害豫防組合關係者總會議又ハ水害豫防組合會ニ於テ其議決スヘキ事項ヲ議決セサルカ爲公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ府縣參事會若ハ郡參事會ニ付シテ決定セシムルコトヲ得關係者總會議ニ出席セス又ハ議員ヲ選舉セス若ハ議員ノ當選ヲ承諾セサル爲總會議又ハ組合會成立ニ至ラサルトキ亦同シ

水害豫防組合會ニ於テ組合事業ノ爲必要ナル費用ヲ否決シ又ハ議決スト雖必要ノ給需ヲ缺クトキハ
管理者ハ府縣知事ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但府縣知事ハ原案金額ヲ不相當ト
認ムルトキハ原案金額以內ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第五十二條 水利組合關係者總會議ニ於テ議決シタル組合規約法律命令ニ背キ又ハ公益ニ害アリト認
ムルトキハ府縣知事ハ其理由ヲ示シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ請
フヘシ

第五十三條 監督官廳ハ出水ノ爲危險アルトキ水利組合ニ對シ防禦ニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ郡長市町村長又ハ警察官ハ組合區域內ニ住居スル一般ノ人民ヲ指揮シテ防禦ニ從
事セシメ及必要ナル現品ヲ收用スルコトヲ得但現品ハ追テ組合ノ費用ヲ以テ相當ノ賠償ヲ爲サシム
ヘシ

第五十四條 水利組合管理者及其事務ニ服從スル者ニ對シ懲戒處分ヲ要スルトキハ町村制第二百十八
條ヲ適用シ其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル爲組合ニ賠償スヘキコトアルトキハ町村制第二百十
九條ヲ適用ス

第七章 附則

第五十五條 府縣參事會、郡參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間郡參事會ノ職務ハ郡長府縣參事會
ノ職務ハ府縣知事行政裁判所ノ職務ハ從來ノ慣行ニ依リ控訴院ニ於テ之ヲ行フヘシ

第五十六條 此法律ニ依リ初テ議員ヲ選舉スル場合ニ於テ組合會ノ議決スヘキ事項ハ其成立ニ至ル迄
ノ間管理者ニ於テ之ヲ行フヘシ

第五十七條 此法律ニ依リ設置スル水利組合ニ於テ舊町村會又ハ水利土功會ノ事業ヲ繼續スルトキハ

其既成ノ工事及所屬ノ財産ハ總テ其組合ニ引繼クヘキモノトス
第五十八條 此法律ハ市制町村制ヲ施行スル地方ニ於テ府縣知事ハ内務大臣ニ具狀シ其指揮ニ依リ之
ヲ施行ス

○郡制 明治廿三年五月十七日
法律第三十六號

朕郡制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郡制

第一章 總則

第一條 郡ノ廢置分合及郡界ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
郡界ニ當ル市町村ノ境界ヲ變更スルトキハ郡界モ亦自ラ變更スルモノトス

第二條 郡內ノ町村ヲ變シテ市ト爲シ若ハ市ヲ變シテ郡內ノ町村ト爲スハ其市會町村會ノ申請ニ依リ
内務大臣之ヲ定ム

第三條 第一條第二條ノ處分ニ付其財産處分ヲ要スルトキハ府縣參事會之ヲ議決スヘシ但特ニ法律ノ
規定アルモノハ此限ニアラス

第二章 郡會

第四條 郡會ハ郡內町村ニ於テ選舉シタル議員及大地主ニ於テ選舉シタル議員ヲ以テ之ヲ組織ス
第五條 町村ニ於テ選舉スヘキ郡會議員ノ數ハ每町村各一名トス

郡會議員ノ數二十名以上ニ及フトキハ二十名ヲ以テ制限トス此場合ニ於テ議員配當法ハ首トシテ人口ヲ標準トシ郡會ニ於テ議決シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ
 郡會議員ノ數十名ニ滿タサルトキハ郡會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ認可ヲ經其數ヲ増シテ十名ニ至ル
 フヲ得其配當法ハ首トシテ人口ヲ標準トシ郡會ニ於テ議決シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ
 本條議員配當法ハ郡内ノ町村數ニ増減アリタル場合ノ外初回ハ三年間爾後ハ十二年以上ニ至リ町村ノ人口ニ著シキ増減アルニ非サレハ改正セサルモノトス
 議員配當法ヲ改正スルトキハ議員全數ヲ改選スヘシ

第六條 一町村ニ於テ一名以上ノ議員ヲ選舉スルハ其町村會之ヲ行ヒ數町村ニ於テ一名若ハ一名以上ノ議員ヲ選舉スルハ其各町村會同シテ之ヲ行フヘシ

第七條 町村組合ニシテ組合會ヲ設ケ其町村一切ノ事務ヲ共同處分スルモノハ第四條乃至第六條ノ規定ニ關シテハ之ヲ一町村ト同視シ其組合會ニ於テ議員選舉ヲ行フヘシ

第八條 大地主ハ町村ニ於テ選舉スヘキ議員定數ノ外其定數ノ三分ノ一ヲ互選スルモノトス若端數ヲ生スルトキハ之ヲ棄却スヘシ

選舉ヲ行フコトヲ得ヘキ大地主ニシテ其員數町村ニ於テ選舉スヘキ議員定數ノ三分ノ一以下ナルトキハ其大地主ハ選舉ニ依ラスシテ郡會議員タルモノトス但定期改選ノ期限内ニ於テハ大地主ノ員數減シテ三分ノ一以下ニ至ルト雖モ解散ノ爲改選スル場合ヲ除クノ外ハ本項ヲ適用スルノ限ニ在ラス
 第九條 大地主トハ郡内ニ於テ町村税ノ賦課ヲ受クル所有地ニシテ地價總計一萬圓以上ヲ有スル地主ヲ云フ

第十條 郡内町村公民ニシテ町村會ノ選舉ニ參與スルコトヲ得ヘキ者及大地主中自ラ選舉ニ加ハルコトヲ得ヘキ者ハ總テ郡會ノ被選權ヲ有ス

住居ヲ移シタル爲町村ノ公民權ヲ失ヒタル者其住居同郡内ニ在リ且他ノ要件ヲ失ハサルトキハ仍郡會ノ被選權ヲ有ス
 左ニ掲クル者ハ選舉ニ係ルト否トヲ問ハス郡會議員タルコトヲ得ス

- 一 所屬府東京府ハ警視廳トモ縣並ニ其郡ノ官吏
- 二 其郡ノ有給吏員
- 三 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師
- 四 小學校教員

前項ノ外ノ官吏ニシテ當選ニ應シ又ハ第八條第二項ノ權利ヲ行ハントスルトキハ本屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 大地主ニシテ選舉權ヲ有スルハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル男子ニ限ル
 年齡二十歳未滿ノ者及治産ノ禁ヲ受ケタル者ハ選舉權ヲ有セサルモノトス

大地主ノ選舉權ハ身代限處分中又ハ租稅滯納處分中又ハ公權ノ剝奪若ハ停止ヲ附加スヘキ重輕罪ノ爲裁判上ノ訊問若ハ勾留中ハ之ヲ停止ス

本條ノ規定ハ選舉ニ依ラスシテ郡會議員タル者ニモ適用ス
 第十二條 選舉權ヲ有スル大地主ハ代人ヲ以テ選舉ヲ行フコトヲ得

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ代人ヲ以テスルニ非サレハ選舉ヲ行フコトヲ得ス
 代人ハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ町村制ニ定メタル獨立ノ男子ニ限ル但一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス且代人ハ委任狀ヲ以テ代理ノ證トスヘシ

本條ノ規定ハ第八條第二項ノ權利ヲ行フ場合ニモ適用スルモノトス但其代人ハ郡會ニ被選權ヲ有スル者ニシテ郡會議員タラサル者ニ限ル

第十三條 郡會議員ハ名譽職トス

町村ニ於テ選舉シタル議員ノ任期ハ六年トシ毎三年其半數ヲ改選ス若其員數二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回ニ於テ解任スヘキ者ハ郡會議長郡會ニ於テ自ラ抽籤シテ之ヲ定ム

大地主ニ於テ選舉シタル議員ノ任期ハ三年トシ毎三年其全數ヲ改選ス

解任ノ議員ハ再選セラルコトヲ得

第十四條 議員中關員アルトキハ遅クトモ六箇月以内ニ補闕選舉ヲ行フヘシ

補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第十五條 郡長ハ郡會議員改選前選舉權アル大地主ノ名簿ヲ製シ之ニ其資格ヲ記載シ其氏名ヲ告示スヘシ

關係者ニ於テ大地主名簿ノ正否ニ關シ異議アルトキハ告示後二十一日以内ニ郡長ニ申立テ其郡長ノ裁決ニ不服ナル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

大地主名簿ニ登錄セラレザル者ハ選舉ニ參與シ及第八條第二項ニ依リ郡會議員タルコトヲ得ス

大地主名簿ハ次ノ定期改選前ニ行フヘキ補闕選舉ニモ亦適用スルモノトス但大地主ノ資格ヲ失ヒ又ハ選舉權ノ要件ヲ失ヒタル者ハ之ヲ削除シ其氏名ヲ告示スヘシ其處分ニ對シ異議アルトキハ本條第二項ノ例ニ依ル

定期改選ノ期限内新ニ選舉權ヲ得又ハ選舉ニ依ラスシテ郡會議員タルノ權利ヲ得タル者ハ解散ノ爲改選スル場合ヲ除ク外期限内ニ於テ其名簿ニ登錄セサルモノトス

第十六條 郡會議員ノ選舉ハ郡長ノ告示ニ依リ之ヲ行フヘシ其告示ハ遅クトモ選舉ノ日ヨリ七日前ニ之ヲ發スヘシ

第十七條 選舉ノ順序ハ先ツ町村之ヲ行ヒ次ニ大地主之ヲ行フヘシ

町村ニ於テ行フ選舉ハ町村制第四十六條ノ規定ニ從フヘシ但數町村會會同シテ行フ選舉ハ郡長又ハ郡長ノ指定スル町村長ヲ選舉會長トシテ之ヲ行フヘシ

大地主ニ於テ行フ選舉ハ郡長ヲ選舉會長トシテ之ヲ行フヘシ

第十八條 大地主ニ於テ選舉ヲ行フトキハ左ノ規定ニ依ルヘシ

- 一 郡長ハ遅クトモ選舉ノ日ヨリ七日前選舉人ニ招集狀ヲ發シ選舉ノ場所日時ヲ告知スヘシ
- 二 選舉掛ハ選舉會長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ選任シタル立會人二名若ハ四名及選舉會長ヲ以テ之ヲ組織ス

選舉會長ハ選舉會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ス

三 選舉開會中ハ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス

四 投票ハ選舉人自ラ選舉會長ノ面前ニ於テ之ヲ投票函ニ投入ス

投票ハ匿名トス

五 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 記載セル人名ノ讀ミ難キモノ

二 被選人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三 被選權ナキ人名ヲ記載スルモノ
 四 被選人氏名ノ外他ノ文字ヲ記入スルモノ但爵位職業身分住所又ハ敬稱ハ此限ニ在ラス本項一ヨリ三ニ至ルノ場合ニ於テ票中他ニ列記ノ被選人ニ付テハ仍其効アリトス
 投票ノ受理並ニ効力ニ關スル事項ハ選舉掛假ニ之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選舉會長之ヲ決ス
 六 有効投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キモノハ年長者ヲ取り年齡相同キトキハ選舉會長自ラ抽籤シテ其當選ヲ定ム
 七 選舉掛ハ選舉録ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記錄シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シテ署名スヘシ
 八 投票ハ選舉ノ効力確定スル迄之ヲ保存スヘシ
 第十九條 選舉ヲ終リ當選人定マリタルトキハ町村會ニ於テ行フ選舉ニ在テハ町村長數町村會會同シテ行フ選舉及大地主ニ於テ行フ選舉ニ在テハ選舉會長直ニ當選人ニ通知シ町村長ハ之ヲ郡長ニ報告スヘシ
 當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ其當選ヲ承諾スルヤ否ヲ郡長ニ届出ヘシ
 一人ニシテ數箇所ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内ニ何レノ選舉ニ應スヘキコト及選舉ニ依ラスシテ郡會議員タルヘキ大地主ニシテ町村ノ選舉ニ當選シタルトキハ其選舉ニ應スルコト又ハ應セザルコトヲ同期限内ニ郡長ニ届出ヘシ
 前二項ノ届出ヲ其期限内ニ爲サ、ルトキハ選舉ヲ辭スル者ト視做スヘシ
 町村ノ選舉ニ應スル大地主ハ第八條第二項ノ權利ヲ有スル者ト雖モ二重ニ其權ヲ行フコトヲ得ザルモノトス

第二十條 議員ノ當選ヲ辭シ又ハ承諾ノ届出ヲ爲サ、ル者アルトキハ郡長ハ七日以内ニ更ニ選舉ヲ行ヒ又ハ町村長ニ命シテ更ニ選舉ヲ行ハシムヘシ
 第二十一條 當選人確定シタルトキハ郡長ハ直ニ當選證書ヲ付與シ及管内ニ告示スヘシ
 第二十二條 選舉人選舉ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ郡長ニ申立ツルコトヲ得
 第二十三條 當選人其當選ノ際資格ノ要件ヲ有セザリシコト發覺スルトキハ其當選ハ無効トス
 當選人當選後資格ノ要件ヲ失フトキハ議員ノ職ヲ失フモノトス
 第二十四條 郡會ニ於テ其議員中議員ノ資格ヲ有セザル者アルコトヲ發見スルトキハ其議決ヲ以テ之ヲ郡長ニ通知スヘシ
 第二十五條 郡會議員被選權ノ有無及選舉ノ効力ハ郡參事會之ヲ裁決ス
 郡參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 第二十六條 郡會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ
 一 郡ノ歳入出豫算ヲ定ムル事
 二 決算報告ヲ認定スル事
 三 郡有不動産ノ賣買交換讓渡讓受並ニ質入書入ノ事
 四 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事
 五 郡有財産ノ管理及營造物ノ維持方法ヲ定ムル事
 其他法律命令ニ依リ郡會ノ權限ニ屬スル事項ヲ議決ス

第二十七條 郡會ハ其權限ニ屬スル事件ヲ郡參事會ニ委任スルコトヲ得

第二十八條 郡會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述スヘシ

郡會ハ其郡ノ全部又ハ一部ノ公益ニ關スル事件ニ付郡長又ハ府縣知事ニ建議スルコトヲ得

第二十九條 郡會議員ハ選舉人ノ指示若ハ委囑ヲ受クヘカラサルモノトス

第三十條 郡會ハ郡長ヲ以テ議長トス

郡會ハ改選後ノ初會ニ於テ議長代理者一名ヲ互選スヘシ

議長及議長代理者共ニ故障アルトキハ臨時議長代理ヲ互選スヘシ

第三十一條 郡長若ハ特ニ郡長ノ委任ヲ受ケタル郡吏員ハ郡會ノ議事ニ參與スルコトヲ得但議決ニ加

ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ何時ニテモ之ヲ許スヘシ

第三十二條 郡會ハ毎年一回通常會ヲ開クヘシ其他必要アルトキハ其事件ニ限り臨時會ヲ開クコトヲ得

郡會ハ郡長之ヲ招集ス若議員三分ノ一以上ニ於テ臨時ノ招集ヲ請求スルトキハ之ヲ招集スヘシ招集ハ開會ノ日ヨリ十四日前迄ニ告示スヘシ但急施ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス

郡會ハ郡長之ヲ開閉ス

第三十三條 郡會ハ議員半数以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス但同一ノ議事

ニ付開會再回ニ至ルモ議員猶其半数ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス

第三十四條 郡會ノ議決ハ過半数ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十五條 議員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ會議ノ承諾ヲ經ルニ非

サレハ郡會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

第三十六條 郡會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ第十八條四ヨリ六ニ至ル規定ニ依ルヘシ

第三十七條 郡會ノ會議ハ公開ス但左ノ場合ハ此限ニ在ラス

一 郡長ヨリ傍聴禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長又ハ議員三名以上ノ發議ニ由リ傍聴禁止ヲ可決シタルトキ

議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ用キスシテ其可否ヲ決スヘシ

第三十八條 議長ハ議事ノ順序ヲ定メ會議及選舉ノ事ヲ總理シ其日ノ會議ヲ開閉シ並ニ延會シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第三十九條 議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第四十條 會議中此法律若ハ議事規則ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ

又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又

ハ議場ノ外ニ退去セシムヘシ若強抗ニ涉ル者アルトキハ警察官ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第四十一條 會議ノ傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其他議事ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第四十二條 郡長若ハ特ニ其委任ヲ受ケタル吏員及議員ハ議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第四十三條 郡會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ掌理セシム

書記ハ議長之ヲ選任ス但郡吏員ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第四十四條 郡會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シ議決及選舉ノ顛末並ニ出席議員ノ氏名ヲ記録セシムヘシ
議事録ハ議長及議員二名以上之ニ署名スヘシ其議員ハ會議ノ前郡會ニ於テ豫メ之ヲ定メ議事録中ニ
其氏名ヲ記載シ置クヘシ

第四十五條 郡會ハ議事規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ府縣知事ノ認可ヲ受ケテ之ヲ施行スシ

第三章 郡參事會、吏員及委員

第四十六條 郡ニ郡參事會ヲ置キ郡長及名譽職參事會員四名ヲ以テ之ヲ組織ス
名譽職參事會員中三名ハ郡會ニ於テ其議員中ヨリ互選シ一名ハ府縣知事ニ於テ郡會議員若ハ郡内町
村ノ公民中ヨリ選任スヘシ

第四十七條 郡參事會ハ郡長ヲ以テ議長トス議長故障アルトキハ會員ニ於テ臨時議長代理ヲ互選スヘ
シ

第四十八條 郡會ハ毎通常會ニ於テ郡會ノ互選シタル名譽職參事會員ノ補充員三名ヲ互選シ其名譽職
參事會員ノ闕員アルトキハ郡長ニ於テ補充員中投票多數ノ順次ニ依リ之ヲ補充スヘシ但其既ニ補充
シタル者ハ前任者ノ任期中在職スルモノトス

第四十九條 名譽職參事會員ノ任期ハ議員ノ任期ニ從フ但任期限滿ノ後ト雖後任者就職ノ日迄在職ス
ルモノトス

郡會ノ互選シタル名譽職參事會員ハ補充員ヲ以テ其闕員ヲ補充シ仍闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ二
箇月以内ニ臨時其選舉ヲ行フヘシ

第五十條 郡參事會ノ職務權限左ノ如シ

一 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

二 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ郡長ニ於テ郡會ヲ招集スルノ暇ナシト認ルトキ
郡會ニ代テ議決ヲ爲ス事

三 郡會ノ定メタル方法ノ範圍内ニ於テ郡有財産ノ管理又ハ營造物ノ維持ニ關シ必要ナル事件ニ付
議決ヲ爲ス事

四 郡ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ノ次第順序其他必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事

五 郡長其他官廳ノ諮問ニ對シ意見ヲ述フル事

六 郡長ヨリ發スル郡會議案ニ付郡長ニ意見ヲ述ヘ及會議ニ報告スル事

七 臨時必要アルトキ郡ノ出納ヲ檢査スル事

其他法律命令ニ依リ郡參事會ノ權限ニ屬スル事務ヲ處理ス

第五十一條 郡參事會ハ郡長之ヲ招集ス

會員半數以上ノ請求アルトキハ郡長ハ郡參事會ヲ招集スヘシ

第五十二條 郡參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第五十三條 郡參事會ハ議長又ハ其代理者及會員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲ス
コトヲ得ス

郡參事會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ登記シ議長及名譽職參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第五十四條 郡參事會員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付郡參事會ノ議事ニ參

與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ規定ノ爲出席ノ參事會員減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ郡長ハ補充員ヲ以テ臨時之ニ充テ仍其數ヲ得サルトキハ郡會議員ニシテ該事件ニ關係ナキ者ノ内ヨリ臨時ニ指名シ名譽職參事會員ノ不足ヲ補充シテ第四十六條ノ定數ニ滿タシムヘシ

第五十五條 町村制ノ規定ニ依リ郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ二郡以上ノ町村ニ交渉スルモノアルトキハ其郡長ノ具狀ニ依リ府縣知事ニ於テ其事件ヲ管理スヘキ郡參事會ヲ指定スヘシ二府縣以上ノ町村ニ交渉スルモノアルトキハ其府縣知事ノ具狀ニ依リ内務大臣ニ於テ之ヲ指定スヘシ

第五十六條 郡長ハ郡會及郡參事會ノ議決ヲ施行シ及郡有ノ財産及營造物ヲ管理シ並ニ郡ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ヲ執行ス

郡ニ於テ他人ニ對シ義務ヲ負擔スヘキ證書及委任狀ニハ郡長ノ外名譽職參事會員二名以上之ニ署名捺印スヘシ

前項ノ文書中郡會又ハ參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其議決ヲ經タル者ハ其旨ヲ記入スヘシ

第五十七條 郡會ニ於テ名譽職參事會員ヲ選舉セス又ハ參事會成立セス又ハ召集ニ應セサルトキハ參事會成立シ又ハ召集ニ應スル迄郡長ハ郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得

非常事變ニ際シ郡參事會ヲ召集スルノ暇ナク又ハ名譽職參事會員ノ出席半數以上ニ至ラサルトキハ郡長ハ郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次回ノ郡會會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第五十八條 郡ハ府縣稅ヲ以テ支辨スル郡吏員ノ外郡會ノ議決ニ依リ郡ノ費用ヲ以テ郡有財産又ハ營造物ノ管理若ハ土木工事ニ必要ナル有給郡吏員ヲ置クコトヲ得但其郡吏員ハ他ノ郡吏員ニ準シ府縣

知事ニ於テ之ヲ任免監督ス

前項郡吏員ノ給料手當退隱料等ハ郡會ノ議決スル所ニ依ル其身元保證金ヲ要スルトキ其金額ヲ定ムルモ亦同シ

第五十九條 郡長ハ郡會ノ議決ヲ經テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置キ郡事務ノ一部ヲ調査セシメ又ハ郡有財産及營造物ノ一部ヲ管理セシムルコトヲ得

委員ハ郡會ニ於テ之ヲ選舉ス其選舉ノ方法及任期ハ郡會ノ議決スル所ニ依ル委員ハ名譽職トス

第四章 郡ノ會計

第六十條 郡有財産及營造物管理ノ費用郡會郡參事會及委員ノ費用第五十八條ノ郡吏員ノ給料退隱料其他諸給與及法律勅令ニ依リ郡ノ負擔ト定ムル事件ノ費用ハ其郡ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第六十一條 郡會議員名譽職參事會員及委員ニハ旅費及日當ヲ給スルコトヲ得但日當ハ一日五十錢ヲ超ユルコトヲ得ス

第六十二條 郡ノ支出ニ充ツル費用ハ郡有財産ヨリ生スル收入其他雜收入ヲ以テ充ツルモノ、外ハ郡内各町村ニ分賦ス各町村分賦ノ割合ハ各町村前年度ノ直接間稅府縣稅ノ徵收額ニ據ル

各町村分賦ノ額ハ各町村ニ於テ之ヲ町村ノ豫算ニ編入シ町村稅トシテ徵收シ其總額ヲ郡金庫ニ納ムヘシ

第六十三條 郡内ノ或ル部分ニ對シ特ニ利益アル土木事業ヲ起ストキハ郡會ノ議決ニ依リ該部分ノ町村ニ對シ通常分賦額ノ外其利益ノ厚薄ニ應シ特ニ夫役現品ヲ増課スルコトヲ得

第六十四條 郡ハ天災事變ノ爲已ムヲ得サル支出又ハ其郡ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スルニ方

リ通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ郡内町村ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限り勅令ノ定ムル所ニ依リ郡會ノ議決ヲ以テ郡債ヲ起スコトヲ得

郡債ヲ起スノ議決ヲ爲ストキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ムヘシ
郡債償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々ノ償還歩合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スヘシ
歳入出豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲必要ナル一時ノ借入金ニシテ其年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノハ本條ノ例ニ依ルノ限ニ在ラス但郡參事會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第六十五條 郡長ハ毎年其翌年度ニ係ル歳入出豫算ヲ調製スヘシ但郡ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ハ郡會ノ議決ニ付スルノ前郡參事會ノ審査ニ付スヘシ若郡長ト郡參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ郡長ハ參事會ノ意見ヲ豫算ニ添ヘ郡會ニ提出スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ニ付テモ亦同シ内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算調製ノ式ヲ定メ並ニ費目流用ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第六十六條 豫算ハ毎年郡會ノ議決ヲ取り之ヲ府縣知事ニ報告シ並ニ郡慣行ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ヲ議決シタル場合ニ於テモ亦同シ

郡ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其費用ヲ支出スヘキモノハ郡會ノ議決ヲ以テ其年各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

豫算ヲ郡會ニ提出スルトキハ郡長ハ併セテ其郡有財產表ヲ提出スヘシ

第六十七條 歳入出豫算中ニ豫備費ヲ設クヘシ豫備費ハ郡長ニ於テ郡參事會ノ議決ヲ經テ已ムヲ得サル豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツルコトヲ得但郡會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス
第六十八條 郡ノ收支命令ハ郡長之ヲ發スヘシ

第六十九條 會計事務ヲ管理スル郡役所會計吏ハ前條ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス及其命令アルモ支出ノ豫算ナキカ又ハ豫備費支出及費目流用ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第七十條 郡ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ及毎年少クトモ一回臨時検査ヲ爲スヘシ検査ハ郡長又ハ其代理者之ヲ爲シ臨時検査ニハ郡參事會員一名以上ノ立會ヲ要ス

第七十一條 決算ハ會計事務ヲ管理スル郡役所會計吏ニ於テ會計年度後三箇月以内ニ之ヲ郡長ニ提出シ郡長ハ郡參事會ヲシテ之ヲ検査セシメ次回ノ通常郡會ノ認定ニ付スヘシ

決算報告書竝ニ之ニ關スル郡會ノ議決ハ郡長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告シ並ニ決算ハ郡慣行ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ

第五章 監督

第七十二條 郡ノ行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第七十三條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外郡ノ行政ニ關スル府縣知事又ハ府縣參事會ノ處分若ハ裁決ニ不服ナル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

郡ノ行政ニ關スル訴願ハ其事件ノ處分若ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出スヘシ

此法律ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事ノ處分又ハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決ヲ受タル日ヨリ二十一日以内ニ出訴スヘシ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス
第七十四條 監督官廳ハ郡ノ行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視スヘシ監

督官廳ハ之カ爲政行事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ竝ニ實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第七十五條 郡會又ハ郡參事會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ郡長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ直ニ府縣知事ノ裁決ヲ請フヘシ其權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣知事ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第七十六條 郡會又ハ郡參事會ニ於テ法律命令又ハ慣行ニ依テ郡ノ負擔ニ屬スル行政上又ハ公益上必要ノ費用ヲ否決シ又ハ議決スト雖必要ノ給需ヲ缺クトキハ郡長ハ府縣知事ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但府縣知事ハ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金額以內ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第七十七條 郡會招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ郡長ハ府縣知事ノ指揮ヲ請ヒ處分スルコトヲ得前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第七十八條 郡會又ハ郡參事會ニ於テ其議決スヘキ議案ヲ議決セサル場合ニ於テ其事緊急ヲ要スルトキハ郡長ハ府縣知事ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但其議決セサル議案歳入出豫算ニ係ハリ府縣知事ニ於テ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金額以內ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第七十九條 府縣知事ハ郡ノ歳入出豫算中不適當ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除シ及其郡ノ資力ニ比シ不急ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除若ハ減殺スルコトヲ得此場合ニ於テハ收入科目中ニ就キ之ニ相當スル收入額ヲ減殺スヘシ

第八十條 郡會ハ内務大臣之ヲ解散セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ三箇月以內ニ議員ヲ改選スヘシ前項解散ノ場合ニ於テハ名譽職參事會員モ亦解職スルモノトス

郡委員ハ郡會ノ解散ニ依リ解職スルノ限ニ在ラス但改選郡會ノ議決ヲ以テ之ヲ改選スルコトヲ得郡會解散ノ後改選了ニ至ル迄ノ間急施ヲ要スル事件アルトキハ郡長之ヲ專決處分スルコトヲ得前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第八十一條 左ノ事件ニ關スル郡會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 新ニ郡債ヲ起シ又ハ其額ヲ増加シ若ハ償還ノ方法ヲ變更スル事

二 郡有不動産ノ賣却讓渡並ニ質入書入ノ事

三 第六十三條ニ依リ郡内ノ或ル部分ニ對シ特ニ夫役現品ヲ増課スル事

第六章 附則

第八十三條 郡内總町村ノ共有ニ屬スル財産及營造物ハ郡内總町村ノ聯合又ハ組合ヲ以テ設立セル小學校ヲ除クノ外此法律施行ノ日ヨリ郡ノ所有ニ歸シ其權利義務トモ同時ニ郡ニ移ルモノトス

第八十四條 府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間此法律ニ依リ府縣參事會ニ屬スル職務ハ府縣知事、行政裁判所ニ屬スル職務ハ現行ノ行政裁判手續ニ從ヒ控訴院ニ於テ之ヲ行フヘシ

第八十五條 島司ヲ置ケル嶋嶼ニ於テハ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第八十六條 此法律ニ依リ始メテ議員ヲ選舉スルニ付郡會及郡參事會ノ職務ハ郡長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第八十七條 町村制施行ノ爲ニ定ムル直接税ノ種類ハ此法律ノ施行ニ付テモ亦適用ス
 第八十八條 此法律施行ノ後ハ町村制第百二十六條第三ニ定ムル附加税徴收ノ許可ハ地租七分ノ一、
 五(十四分ノ二)ヲ超過スルトキ之ヲ要スルモノトス
 第八十九條 此法律ハ町村制ヲ施行シタル各府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申
 ニ依リ内務大臣之ヲ定ム
 第九十條 明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法其他此法律ニ抵觸スル成規ハ此法律施行ノ地
 ニ於テ其施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス
 第九十一條 内務大臣ハ此法律施行ノ責ニ任シ之カ爲必要ナル命令ヲ發布スヘシ

○郡歳入歳出豫算調製式並費目流用規定 二十四年四月十三日 内務省令第二號

郡制第六十五條第三項ニ依リ郡歳入歳出豫算調製ノ式ヲ定メ並ニ費目流用ノ規定ヲ設ク
 第一條 郡歳入歳出豫算ハ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分シ第一號ノ式ニ依リ
 之ヲ調製スヘシ
 第二條 歳入歳出豫算ニハ郡會參考ノ爲各項ヲ各目ニ區別シ各其豫算ノ基ク所ヲ詳記シタルモノヲ添
 付スヘシ
 第三條 數年繼續費 郡制第六十 六條第二項ノ年期及支出方法ハ第二號ノ式ニ依ルヘシ
 夫役現品ヲ増課スル場合ニ在テハ第三號ノ式ニ依ルヘシ
 第四條 歳入歳出中更ニ科目ヲ設クルコトヲ要スルトキ其款項ハ此書式ニ依準スルモノトス

第五條 各款ノ豫算金額ハ彼此流用スルヲ得サルモノトス
 各項目豫算金額ニシテ不得已流用ヲ要スルノ必用アルトキハ郡參事會ノ決議ヲ經テ之ヲ流用スルコト
 ヲ得 (二十四年八月省令第 十三號ヲ以テ改正)
 (書式ハ略ス)

○府縣制 明治二十三年五月十七日 法律第三十五號

朕府縣制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣制

第一章 總則

第一條 府縣ノ廢置分合及府縣境界ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
 府縣境界ニ當ル郡市町村ノ境界ヲ變更スルトキハ府縣境界モ亦自ラ變更スルモノトス
 本條ノ處分ニ付其財產處分ヲ要スルトキハ内務大臣之ヲ定ム但特ニ法律ノ規定アルモノハ此限ニ在
 ラス

第二章 府縣會

第二條 府縣會ハ府縣内郡市ニ於テ選舉シタル議員ヲ以テ之ヲ組織ス
 郡市ニ於テ選舉スヘキ府縣會議員ノ定數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但各郡市ヲシテ少クトモ一人ノ議員
 ヲ選舉セシムヘシ

第三條 府縣會議員ノ選舉ハ市ニ在テハ市會及市參事會同シ市長ヲ會長トシ郡ニ在テハ郡會及郡參事會同シ郡長ヲ會長トシ左ノ規定ニ依リ之ヲ行フヘシ但會長ハ投票ニ加ハラサルモノトス

一 投票ハ選舉人自ラ會長ノ面前ニ於テ之ヲ投票函ニ投入ス
投票ハ匿名トス

二 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 記載セル人名ノ讀ミ難キモノ

二 被選人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三 被選權ナキ人名ヲ記載スルモノ

四 被選人氏名ノ外他ノ文字ヲ記入スルモノ但爵位職業身分住所又ハ敬稱ハ此限ニ在ラス

本項一ヨリ三ニ至ルノ場合ニ於テ票中他ニ列記ノ被選人ニ付テハ仍其効アリトス

三 有効投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キモノハ年長者ヲ取リ年齡相同キトキハ會長自ラ抽籤シテ其當選ヲ定ム

第四條 府縣内市町村ノ公民中選舉權ヲ有シ其府縣ニ於テ一年以來直接國稅十圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會ノ被選權ヲ有ス

住居ヲ移シタル爲市町村ノ公民權ヲ失ヒタル者其住居同府縣内ニ在リ且他ノ要件ヲ失ハサルトキハ仍府縣會ノ被選權ヲ有ス

其府^{東京府ハ警視廳トモ}縣ノ官吏及有給吏員神官諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ府縣會議員タルコトヲ得ス

前項ノ外ノ官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ本屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第五條 府縣會議員ハ名譽職トス其任期ハ四年トシ每二年其半數ヲ改選ス若其員數二分シ難キトキハ初會ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初會ニ於テ解任スヘキ者ハ府縣會議長府縣會ニ於テ自ラ抽籤シテ之ヲ定ム

解任ノ議員ハ再選セラル、コトヲ得

第六條 議員中闕員アルトキハ遲クトモ六箇月以内ニ補闕選舉ヲ行フヘシ

補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第七條 府縣會議員ノ選舉ハ府縣知事ノ告示ニ依リ之ヲ行フヘシ其告示ハ遲クトモ選舉ノ日ヨリ十四日前ニ之ヲ發スヘシ

第八條 選舉ヲ終リ當選人ノ定マリタルトキハ郡長市長ハ直ニ當選人ニ通知シ及府縣知事ニ報告スヘシ

當選人其當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ其當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

一人ニシテ數箇所ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内ニ何レノ選舉ニ應スヘキコトヲ府縣知事ニ届出ヘシ

前二項ノ届出ヲ其期限内ニ爲サ、ルトキハ總テ選舉ヲ辭スル者ト視做スヘシ

第九條 當選人其當選ヲ辭シ又ハ承諾ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ府縣知事ハ其郡市ヲシテ十日以内ニ更ニ選舉ヲ行ハシムヘシ

第十條 當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ直ニ當選證書ヲ付與シ及管内ニ告示スヘシ

第十一條 選舉人選舉ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ府縣知事ニ申立ルコトヲ得

第十二條 當選人其當選ノ際資格ノ要件ヲ有セザリシコト發覺スルトキハ其當選ヲ無効トス

當選人當選後資格ノ要件ヲ失フトキハ議員ノ職ヲ失フモノトス

第十三條 府縣會ニ於テ其議員中議員ノ資格ヲ有セサル者アルコトヲ發見スルトキハ其議決ヲ以テ之ヲ府縣知事ニ通知スヘシ

第十四條 府縣會議員被選權ノ有無及選舉ノ効力ハ府縣參事會之ヲ裁決ス

府縣參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十五條 府縣會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

- 一 府縣ノ歲入出豫算ヲ定ムル事
 - 二 決算報告ヲ認定スル事
 - 三 府縣稅ノ賦課徵收方法ヲ定ムル事
 - 四 府縣有不動産ノ賣買交換讓渡讓受並ニ質入書入ノ事
 - 五 歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事
 - 六 府縣有財産ノ管理及營造物ノ維持方法ヲ定ムル事
- 其他法律命令ニ依リ府縣會ノ權限ニ屬スル事項ヲ議決ス

第十六條 府縣會ハ其權限ニ屬スル事件ヲ府縣參事會ニ委任スルコトヲ得

第十七條 府縣會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述スヘシ

府縣會ハ其府縣ノ全部又ハ一部ノ公益ニ關スル事件ニ付府縣知事又ハ內務大臣ニ建議スルコトヲ得

第十八條 府縣會議員ハ選舉人ノ指示若ハ委嘱ヲ受クヘカラサルモノトス

第十九條 府縣會ハ改選後ノ初會ニ於テ議長及副議長各一名ヲ互選スヘシ其任期ハ議員ノ任期ニ從フ

議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時議長ヲ互選スヘシ

第二十條 府縣知事若ハ特ニ知事ノ委任ヲ受ケタル府縣ノ官吏若ハ吏員ハ府縣會ノ議事ニ參與スルコトヲ得但議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ何時ニテモ之ニ許スヘシ

第二十一條 府縣會ハ毎年一回秋季ニ於テ通常會ヲ開ク通常會ノ會期ハ三十日以内トス其他必要アルトキハ其事件ニ限リ七日以内ヲ會期トシテ臨時會ヲ開クコトヲ得

府縣會ハ府縣知事之ヲ招集ス其招集ハ開會ノ日ヨリ十四日前迄ニ告示スヘシ但急施ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス

府縣會ハ府縣知事之ヲ開閉ス

第二十二條 府縣會ハ議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 府縣會ノ議決ハ過半数ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第二十四條 議員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ會議ノ承諾ヲ經ルニ非サレハ府縣會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

第二十五條 府縣會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ第三條ノ規定ニ依ルヘシ

第二十六條 府縣會ノ會議ハ公開ス但左ノ場合ハ此限ニ在ラス

一 府縣知事ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長又ハ議員五名以上ノ發議ニ由リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ用キスシテ其可否ヲ決スヘシ

第二十七條 東京府京都府大阪府府會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ專ラ東京市京都市大阪市ニ關スルモ

ノト専ラ其他ノ部分ニ關スルモノト分別スルコトヲ要スルモノアルトキハ府會ノ議決ニ依リ之ヲ分別スルコトヲ得

前項ノ分別ニ依リ専ラ東京市京都市大坂市ニ關スルモノハ其郡部議員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス其他ノ部分ニ關スルモノハ市部議員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス此場合ニ於テハ郡部議員市部議員ニ於テ各臨時議長ヲ互選スヘシ

此法律中東京府京都市大坂府會ノ市部議員トアルハ東京市京都市大坂市市會ニ於テ選舉シタル議員ヲ云ヒ郡部議員トアルハ東京市京都市大坂市ヲ除キ其他ノ部分ニ於テ選舉シタル議員ヲ云フ

市部會郡部會ヲ置キタル縣ニ於テ縣會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ専ラ市ニ關スルモノト専ラ其他ノ部分ニ關スルモノト分別スルコトヲ要スルモノアルトキハ縣會ノ議決ニ依リ之ヲ分別スルコトヲ得但分別シタル縣ニ於テハ此法律中特ニ東京府京都市大坂府ニ關シ定メタル各條項ハ之ヲ適用ス

第二十八條 議長ハ議事ノ順序ヲ定メ會議及選舉ノ事ヲ總理シ其日ノ會議ヲ開閉シ並ニ延會シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第二十九條 議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第三十條 會議中此法律若ハ議事規則ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムヘシ若強抗ニ涉ル者アルトキハ警察官ニ命シテ之ヲ退去セシムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第三十一條 議員中議場ノ秩序ヲ紊ルコト二回以上ニ及フ者アルトキハ議長又ハ議員ノ發議ニ依リ議會ノ議決ヲ以テ七日以内其出席ヲ停止スルコトヲ得

第三十二條 會議ノ傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其他議事ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若命ニ從ハサルトキハ警察官ニ命シテ之ヲ退場セシムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第三十三條 府縣知事若ハ特ニ其委任ヲ受ケタル官吏若ハ吏員及議員ハ議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第三十四條 第三十條、第三十二條ニ依リ議長ノ命ニ應セシムル爲府縣知事東京府ハ警視總監ハ每會期警察官ニ議場掛專務ヲ命スヘシ

第三十五條 府縣會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ掌理セシム

書記ハ議長之ヲ選任ス

第三十六條 府縣會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シ議決及選舉ノ顛末並ニ出席議員ノ氏名ヲ記錄セシムヘシ議事録ハ議長及議員二名以上之ニ署名スヘシ其議員ハ會議ノ前議會ニ方テ豫メ之ヲ定メ議事録中ニ其氏名ヲ記載シ置クヘシ

第三十七條 府縣會ハ議事規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ内務大臣ノ認可ヲ受テ之ヲ施行スヘシ

第三章 府縣參事會吏員及委員

第三十八條 府縣ニ府縣參事會ヲ置キ府縣知事高等官二名及名譽職參事會會員ヲ以テ之ヲ組織ス

府ノ名譽職參事會會員ハ八名トス郡部議員ニ於テ其議員中ヨリ四名ヲ互選シ市部議員ニ於テ其議員中ヨリ四名ヲ互選スヘシ

縣ノ名譽職參事會會員ハ四名トス縣會ニ於テ其議員中ヨリ之ヲ互選スヘシ

第三十九條 府縣參事會會員タル高等官ハ府縣廳ニ奉職ノ高等官中ヨリ内務大臣之ヲ命ス

第四十條 府縣參事會ハ府縣知事ヲ以テ議長トス議長故障アルトキハ高等官會員之ヲ代理ス

第四十一條 府縣會ハ毎通常會ニ於テ名譽職參事會員ノ補充員府ハ八名縣ハ四名ヲ互選シ其名譽職參事會員ノ闕員アルトキハ府縣知事ニ於テ補充員中投票多數ノ順次ニ依リ之ヲ補充スヘシ但其既ニ補充シタル者ハ前任者ノ任期中在職スルモノトス

第四十二條 名譽職參事會員ノ任期ハ議員ノ任期ニ從フ但任期滿限ノ後ト雖後任者就職ノ日マテ在職スルモノトス
名譽職參事會員ハ補充員ヲ以テ其闕員ヲ補充シ仍闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ二箇月以内ニ臨時其選舉ヲ行フヘシ

第四十三條 府縣參事會ノ職務權限左ノ如シ

- 一 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事
 - 二 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ府縣會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキ府縣會ニ代テ議決ヲ爲ス事
 - 三 府縣會ノ定メタル方法ノ範圍内ニ於テ府縣有財産ノ管理又ハ營造物ノ維持ニ關シ必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事
 - 四 府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ノ次第順序其他必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事
 - 五 府縣知事及其他官廳ノ諮問ニ對シ意見ヲ述フル事
 - 六 府縣知事ヨリ發スル府縣會議案ニ付府縣知事ニ意見ヲ述ヘ及會議ニ報告スル事
 - 七 臨時必要アルトキ府縣ノ出納ヲ檢査スル事
- 其他法律命令ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事務ヲ處理ス

第四十四條 府縣參事會ハ府縣知事之ヲ招集ス

會員半數以上ノ請求アルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ヲ招集スヘシ

第四十五條 府縣參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第四十六條 府縣參事會ハ議長又ハ其代理者及名譽職會員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス但第四十三條第二ノ議決ヲ爲ストキハ高等官會員ハ其議決ニ加ハラサルモノトス

府縣參事會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ登記シ議長及名譽職參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第四十七條 府縣參事會員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付府縣參事會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項規定ノ爲出席ノ參事會員減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ府縣知事ハ補充員ヲ以テ臨時之ニ充テ仍其數ヲ得サルトキハ府縣會議員ニシテ該事件ニ關係ナキ者ノ内ヨリ臨時ニ指名シ名譽職參事會員ノ不足ヲ補充シテ第三十八條ノ定數ニ滿タシムヘシ

第四十八條 市制町村制ノ規定ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ二府縣以上ノ郡市町村ニ交渉スルモノアルトキハ其府縣知事ノ具狀ニ依リ內務大臣ニ於テ其事件ヲ管轄スヘキ府縣參事會ヲ指定スヘシ

第四十九條 東京府京都府大阪府參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ專ラ東京市京都市大阪市ニ關スルモノハ其郡部名譽職參事會員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス其東京市京都府大阪市外ノ市町村若ハ郡ニ關スルモノハ市部名譽職參事會員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決

ニ加ハルコトヲ得ス

此法律中東京府京都府大阪府會ノ市部名譽職參事會員トアルハ市部議員ニ於テ選舉シタル名譽職參事會員ヲ云ヒ郡部名譽職參事會員トアルハ郡部議員ニ於テ選舉シタル名譽職參事會員ヲ云フ

第五十條 府縣知事ハ府縣會及府縣參事會ノ議決ヲ施行シ及府縣有財產及營造物ヲ管理シ並ニ府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ヲ執行ス

府縣ニ於テ他人ニ對シ義務ヲ負擔スヘキ證書及委任狀ニハ知事ノ外名譽職參事會員二名以上之ニ署名捺印スヘシ

前項ノ文書中府縣會又ハ參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ其議決ヲ經タルモノハ總テ其旨ヲ記入スヘシ

第五十一條 府縣會ニ於テ名譽職參事會員ヲ選舉セス又ハ參事會成立セス又ハ招集ニ應セサルトキハ參事會成立シ又ハ招集ニ應スル迄府縣知事ハ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得

非常事變ニ際シ府縣參事會ヲ招集スルノ暇ナク又ハ名譽職參事會員ノ出席半數以上ニ至ラサルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次回ノ府縣會會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第五十二條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ニ依リ府縣ノ費用ヲ以テ府縣有財產又ハ營造物ノ管理若ハ土木工事ニ必要ナル有給ノ府縣吏員ヲ置クコトヲ得但府縣吏員ハ府縣知事ニ於テ之ヲ任免監督ス

府縣吏員ノ給料手當退隱料等ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル其身元保證金ヲ要スルトキ其金額ヲ定ムルモ亦同シ

第五十三條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置キ府縣事務ノ一部ヲ調査セシメ

又ハ府縣有財產及營造物ノ一部ヲ管理セシムルコトヲ得其選舉又ハ選任ノ方法及任期ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル

委員ハ名譽職トス

第四章 府縣ノ會計

第五十四條 府縣有財產及營造物管理ノ費用府縣會府縣參事會及委員ノ費用府縣吏員ノ給料退隱料其他諸給與及從來法律命令若ハ慣例ニ依リ並ニ將來法律勅令ニ依リ府縣ノ負擔ト定ムル事件ノ費用ハ府縣ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第五十五條 名譽職參事會員及委員ニハ旅費滞在手當及出務日當ヲ給スルコトヲ得府縣會議員ニハ旅費及滞在手當ニ限り之ヲ給スルコトヲ得但滞在手當出務日當ヲ併セ一日一圓五十錢ヲ超ユルコトヲ得ス

第五十六條 府縣ノ支出ハ府縣稅其他府縣ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第五十七條 府縣稅目及其賦課徵收方法ニ關スル規定ハ此法律ニ依リ變更シタルモノヲ除クノ外從前地方稅ニ關スル規定ニ依ル

第五十八條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ニ依リ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ其府縣ノ全部若ハ市制施行ノ地ニ家屋稅ヲ賦課スルコトヲ得但家屋稅賦課ノ地ニ於テハ戶數割ヲ賦課スルコトヲ得ス

第五十九條 府縣内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ店舗ヲ定メテ營業ヲ爲ス者ハ其土地家屋營業ニ對シテ賦課スル府縣稅ヲ納ムル者トス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限ニ在ラス

府縣内ニ一戸ヲ構ヘ三箇月以上ニ及フ者ハ其戶數ニ對シテ府縣稅ヲ納ムルモノトス但其課稅ハ一戸

ヲ構ヘタル初ニ遡リ徵收スヘシ

第六十條 府縣稅ノ賦課ニ付テハ納稅者其府縣外ニ於テ店舖ヲ定メタル營業ノ收入ヲ其標準ニ算入スルコトヲ得ス

第六十一條 府縣會ハ各市町村內ニ於テ徵收スル府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ヲ關係市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得

前項市町村會ノ議決ハ法律命令又ハ府縣會ノ議決ニ牴觸スルコトヲ得ス

市町村會ニ於テ府縣會ノ指定シタル期限内ニ其議決ヲ爲サ、ルトキハ府縣參事會之ヲ議決スヘシ

第六十二條 營業ノ狀況又ハ收入ヲ標準トシテ賦課スル府縣稅ニ付テハ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ賦課額調査ノ爲其府縣內郡市ニ調査委員ヲ置クコトヲ得

第六十三條 府縣稅ノ免除ハ市町村稅免除ノ規定ニ依ル

第六十四條 府縣會ハ府縣內郡市町村ノ土木工事又ハ府縣內ノ教育衛生勸業及慈善ノ事業若ハ營造物ニ對シ補助金ヲ與フルコトヲ議決スルコトヲ得

第六十五條 府縣會ハ家屋稅又ハ戸數割ノ全部又ハ一部ノ代納トシテ府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニ對シ夫役又ハ現品ヲ出スヲ許スコトヲ議決スルコトヲ得

第六十六條 府縣稅ハ納稅義務ノ起リタル翌月ノ初ヨリ免稅理由ノ生シタル月ノ終迄月割ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ但日割ヲ以テ徵收スルモノハ此限ニ在ラス

納稅義務消滅シ又ハ變更スルトキハ納稅者ヨリ之ヲ當該官廳ニ届出ヘシ其届出ヲ爲シタル月ノ終迄ハ從前ノ稅ヲ徵收スヘシ

物件ヲ目的トシ納期ヲ定メテ一定ノ額ヲ賦課スル府縣稅ハ其納期ニ於テ納稅義務ヲ負フ者其額ヲ納

ムヘシ

府縣稅ノ前納ニ係ルモノハ其義務ノ消滅シ又ハ他人ニ移轉シタル場合ト雖之ヲ還付セス但其義務ノ移轉ヲ受ケタル者ハ其前納期限ノ終迄納稅セサルモノトス

第六十七條 府縣稅ハ法律命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノヲ除クノ外各市町村長ニ於テ市町村稅徵收ノ手續ニ依リ之ヲ徵收スヘシ

第六十八條 府縣稅ノ賦課ニ對シ錯誤アルコトヲ發見シタル者ハ徵稅傳令書ノ交付後三箇月以内ニ之ヲ其傳令書ヲ發シタル廳ニ申立ルコトヲ得但申立ノ爲其納稅ヲ拒ムコトヲ得ス

第六十九條 前條ノ申立ヲ爲シタル後二十一日以内ニ其更正ヲ得サルトキ又ハ其更正ヲ得ルモノ之ニ不服ナルトキハ十四日以内ニ郡參事會ニ訴願シ郡參事會ノ裁決ニ不服ナルトキハ其裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ府縣參事會ニ訴願シ府縣參事會ノ裁決ニ不服ナルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但市ニ在テハ府縣參事會ニ訴願シ府縣參事會ノ裁決ニ不服ナルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十條 府縣稅ノ免稅若ハ納稅延期ハ特別ノ事情アルモノニ限リ府縣知事ニ於テ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ許スコトヲ得

府縣稅ノ滯納處分ハ國稅滯納處分法ニ依ル

第七十一條 東京府京都府大坂府ニ在テハ府ノ支出ニ充ツヘキ府稅ヲ市部及郡部ニ分賦ス其分賦ノ割合ハ府會ニ於テ之ヲ議決シ内務大臣ノ認可ヲ受ケテ施行スヘシ

前項市部ノ分賦額ハ市ニ於テ之ヲ市ノ豫算ニ編入シ市稅トシテ徵收シ其總額ヲ府金庫ニ納ムヘシ郡部ノ分賦額ハ此法律ノ規定ニ依リ之ヲ徵收ス但市部議員ハ其徵收ニ關スル議事ニ參與シ及議決ニ加ハラサルモノトス此場合ニ於テ若議長副議長市部議員ナルトキハ郡部議員ニ於テ臨時議長ヲ互選ス

府縣制

第七十二條 市制施行ノ府縣ニ在テハ郡廳舎建築修繕費郡吏員給料旅費及廳費ハ市ヲ除キ其他ノ部分
ノミヲシテ其負擔ニ任セシムヘシ

前項ノ府縣ニ在テハ其府縣ノ支出費目中市ト其他ノ部分ト利害ノ厚薄ヲ異ニシ均一ノ負擔ニ任セシ
ムルコトヲ得サルモノアルトキハ其費目ニ限リ其一方ノ負擔ヲ增加スルコトヲ得但負擔ノ割合ハ府
縣會ニ於テ之ヲ議決シ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ若之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ内務大臣之
ヲ確定ス

第一項ノ負擔ニ任セシメ及第二項ニ依リ一方ノ負擔ヲ增加スルハ賦課ノ稅率ヲ增加スルニ止メ其會
計ヲ異ニスルコトヲ得ス但東京府京都府大坂府ニ在テハ前條ニ依ル

前項ニ依リ稅率ヲ增加スヘキ稅目ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル

第七十三條 府縣内ノ或ル部分ニ對シ特ニ利益アル土木事業ヲ起ストキハ府縣會ノ議決ニ依リ該部分
ニ對シ通常府縣稅賦課ノ外其利益ノ厚薄ニ應シ特ニ夫役現品ヲ增課スルコトヲ得

第七十四條 府縣ハ其舊債元額ヲ償還スル爲又ハ天災事變ノ爲已ムヲ得サル支出又ハ府縣ノ永久ノ利
益ト爲ルヘキ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歲入ヲ增加スルトキハ府縣ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限リ
勅令ノ定ムル所ニ依リ府縣會ノ議決ヲ以テ府縣債ヲ起スコトヲ得

府縣債ヲ起スノ議決ヲ爲ストキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ムヘシ
府縣債償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々ノ償還歩合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スヘシ
歲入出豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲必要ナル一時ノ借入金ニシテ其年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノ
ハ本條ノ例ニ依ルノ限ニ在ラス但府縣參事會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第七十五條 府縣知事ハ毎年其翌年度ニ係ル歲入出豫算ヲ調製スヘシ但府縣ノ會計年度ハ政府ノ會計
年度ニ同シ

豫算ハ府縣會ノ議決ニ付スルノ前府縣參事會ノ審査ニ付スヘシ若府縣知事ト府縣參事會ト意見ヲ異
ニスルトキハ知事ハ參事會ノ意見ヲ豫算ニ添ヘ府縣會ニ提出スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ニ付テモ亦
同シ

内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算調製ノ式ヲ定メ並ニ費目流用ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第七十六條 豫算ハ毎年府縣會ノ議決ヲ取り之ヲ内務大臣ニ報告シ並ニ府縣ノ公告式ニ依リ其要領ヲ
告示スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ヲ議決シタル場合ニ於テモ亦同シ

府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニシテ數年ヲ期シ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其費用ヲ支出ス
ヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ以テ其年各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

豫算ヲ府縣會ニ提出スルトキハ府縣知事ハ併セテ其府縣有財產表ヲ提出スヘシ

第七十七條 歲入出豫算中ニ豫備費ヲ設クヘシ豫備費ハ府縣知事ニ於テ府縣參事會ノ議決ヲ經テ已ム
ヲ得サル豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツルコトヲ得但府縣會ノ否決シタル費途ニ充ツルコ
トヲ得ス

第七十八條 府縣ノ收支命令ハ府縣知事之ヲ發スヘシ

第七十九條 會計事務ヲ管理スル官吏ハ前條ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス及其命令ア
ルモ支出ノ豫算ナキカ又ハ豫備費支出及費目流用ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第八十條 決算ハ會計事務ヲ管理スル官吏ニ於テ會計年度後三箇月以内ニ之ヲ府縣知事ニ提出シ府縣
知事ハ府縣參事會ヲシテ之ヲ檢査セシメ次回ノ通常府縣會ノ認定ニ付スヘシ

決算報告書並ニ之ニ關スル府縣會ノ議決ハ府縣知事ヨリ之ヲ内務大臣ニ報告シ並ニ決算ハ府縣ノ公
告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ

第五章 監督

第八十一條 府縣ノ行政ハ内務大臣之ヲ監督ス

第八十二條 府縣ノ行政ニ關スル訴願ハ其事件ノ處分若ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ其理
由ヲ具シテ内務大臣ニ提出スヘシ

此法律ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事ノ處分又ハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴
セントル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴スヘシ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第八十三條 内務大臣ハ府縣行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視スヘシ

内務大臣ハ之カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並ニ實地ニ就テ
事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第八十四條 府縣會又ハ府縣參事會ノ議決公益ヲ害スト認ムルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ議決ノ
執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メサルトキハ直ニ内務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

府縣會又ハ府縣參事會ノ議決其權限ヲ超エ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキハ府縣知事ハ其議決ヲ
取消スヘシ此場合ニ於テ府縣知事ノ處分ニ不服ナルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十五條 府縣會又ハ府縣參事會ニ於テ法律命令又ハ慣行ニ依テ府縣ノ負擔ニ屬スル行政上又ハ公
益上必要ノ費用ヲ否決シ又ハ議決スト雖必要ノ給需ヲ缺クトキハ府縣知事ハ内務大臣ニ具狀シ其指
揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但内務大臣ハ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金額以内ニ於

テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第八十六條 府縣會招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ府縣知事ハ内務大臣ノ指揮ヲ請ヒ處分スルコ
トヲ得

前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第八十七條 府縣會又ハ府縣參事會ニ於テ其議決スヘキ議案ヲ議決セス又ハ府縣會ニ於テ招集前正當
ノ手續ヲ以テ告知セラレタル議案ヲ第二十一條第一項ニ定メタル期限内ニ議了セサル場合ニ於テ其
事緊急ヲ要スルトキハ府縣知事ハ内務大臣ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但其議決
セス又ハ議了セサル議案歳入出豫算ニ係リ内務大臣ニ於テ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金
額以内ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第八十八條 内務大臣ハ府縣ノ歳入出豫算中不適當ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除シ及其府
縣ノ資力ニ比シ不急ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除若ハ減殺スルコトヲ得此場合ニ於テハ
收入科目中ニ就キ之ニ相當スル收入額ヲ減殺スヘシ

第八十九條 府縣會ノ解散ハ勅令ヲ以テス此場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ改選スヘシ

前項解散ノ場合ニ於テハ名譽職參事會員モ亦解職スルモノトス

府縣會解散ノ後改選結了ニ至ル迄ノ間急施ヲ要スル事件アルトキハ府縣知事ハ專決處分スルコトヲ
得

前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第九十條 左ノ事件ニ關スル府縣會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 新ニ府縣債ヲ起シ又ハ其額ヲ増加シ若ハ償還ノ方法ヲ變更スル事

二 地租四分ノ一ヲ超過スル府縣稅ヲ土地ニ賦課スル事
三 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ下渡ス歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事
第九十一條 左ノ事件ニ關スル府縣會ノ議決ハ內務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 府縣有不動産ノ賣却讓渡竝ニ質入書入ノ事
- 二 第七十二條第二項ニ依リ市若ハ其他ノ部分ノ負擔ヲ增加スル事
- 三 第七十三條ニ依リ府縣内ノ或ル部分ニ對シ特ニ夫役現品ヲ增課スル事
- 四 第七十六條第二項ニ依リ繼續費ヲ定メ及其年期内ニ議決ヲ變更スル事

第六章 附則

第九十二條 行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間此法律ニ依リ行政裁判所ニ屬スル職務ハ現行ノ行政裁判手續ニ從ヒ控訴院ニ於テ之ヲ行フヘシ

第九十三條 市制町村制施行ノ爲定ムル直接稅ノ種類ハ此法律ノ施行ニ付テモ亦之ヲ適用ス

市制町村制郡制及此法律施行ノ爲將來ノ諸稅ニ付直接稅ト爲スヘキモノハ內務大臣及大藏大臣之ヲ告示スヘシ

第九十四條 此法律ハ郡制市制ヲ施行シタル各府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ內務大臣之ヲ定ム

第九十五條 此法律施行ノ後ハ市制第二百二十二條第三ニ定ムル附加稅徵收ノ許可ハ東京市京都市大坂市ニ在テハ地租七分ノ三、二五(二十八分ノ十三)其他ノ市ニ在テハ其七分ノ一、五(十四分ノ三)ヲ超過スルトキ之ヲ要スルモノトス

第九十六條 府縣内ニ在ル島嶼ノ其本地ニ對スル關係ニ付テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設ク

郡制ヲ施行セサル島嶼ヨリ選出スヘキ府縣會議員ノ選舉ニ關シテハ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第九十七條 明治十三年四月第十五號布告府縣會規則明治十四年二月第八號布告區郡部會規則明治二十二年二月法律第六號府縣會議員選舉規則其他此法律ニ抵觸スル成規ハ此法律施行ノ府縣ニ於テ其施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第九十八條 內務大臣ハ此法律施行ノ責ニ任シ之カ爲必要ナル命令ヲ發布スヘシ

○府縣歲入歲出豫算調製式 明治二十四年八月一日 內務省令第十二號

府縣制第七十五條第三項ニ依リ府縣歲入歲出豫算調製ノ式ヲ定メ竝ニ費目流用ノ規定ヲ設ク

第一條 府縣歲入歲出豫算ハ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分シ第一號ノ式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 歲入歲出豫算ニハ府縣會參考ノ爲各項ヲ各目ニ區別シ各其豫算ノ基ク所ヲ詳記シタルモノヲ添付スヘシ

第三條 數年繼續費府縣制第七十條第六項ノ年期及支出方法ハ第二號ノ式ニ依ルヘシ
夫役現品ヲ增課府縣制第七十三條スル場合ニ在テハ第三號ノ式ニ依ルヘシ

第四條 歲入歲出中更ニ科目ヲ設クルコトヲ要スルトキ其款項ハ此書式ニ依準スルモノトス

第五條 各款ノ金額ハ彼此流用スルヲ得サルモノトス
各項目ノ豫算金額ニシテ不得止流用ヲ要スルノ必要アルトキハ府縣參事會ノ決議ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得

第六條 市制施行ノ縣ニ在テ府縣制第七十二條第一項ノ負擔ニ任セシメ及同條第二項ニ依リ一方ノ負擔ノ増加スル場合ハ第一號書式中ヘ第四號ノ式ノ如ク之レヲ記載スヘシ

第七條 東京府京都府大坂府ニ在テハ府縣制第二十七條第一項ニ依リ專ラ東京市京都市大坂市ニ關スルモノト專ラ其他ノ部分ニ關スルモノトヲ分別スルトキ府縣制第七十一條ノ豫算ハ第一號書式ニ基キ第五號ノ式ノ如ク之レヲ調製シ其市郡部限リ郡部限リノ豫算ハ第一號書式ニ準シ第六號第七號ノ式ノ如ク之レヲ記載スヘシ

第八條 府縣ノ歲入歲出中會計ヲ異ニスルモノ、豫算モ總テ本令ノ式ニ準シテ之ヲ調製スヘシ

附則

第九條 年度央ニ於テ府縣制ヲ施行シタル府縣ニ在テ明治二十三年法律第八十五號第三條ニ依リ從前府縣會ノ議決尙其効ヲ存シタル各款ニ於テ從前ノ小科目ニシテ本令書式ノ項ト名稱ノ異ナルモノ又ハ消滅ニ歸シタルモノハ其細目ニ就キ金員ヲ區別シ各相當ノ項ニ編入整理スヘシ

第十條 第九條ニ依リ組替ヲ爲シタルモノハ府縣會ニ報告スヘシ
(書式畧ス)

○府縣會議員定數規則

明治二十四年六月九日
勅令第五十九號

朕府縣會議員定數規則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣會議員定數規則

第一條 府縣制第二條ニ依リ府縣會議員ノ數ヲ定ムルコト左ノ如シ

管内ノ人口七十萬迄ハ議員三十人ヲ以テ定員トシ七十萬以上百萬迄ハ五萬ヲ加フル毎ニ一人ヲ増シ百萬以上ハ七萬ヲ加フル毎ニ一人ヲ増ス

第二條 前條定ムル所ノ議員ハ人口ニ應シテ每郡市ニ割當選舉スルモノトス

第三條 人口増減ノ爲メ議員ノ定數又ハ郡市ノ割當ニ異動ヲ生スルトキハ其改選期ヲ待テ之ヲ増減ス可シ

第四條 府縣制第二十七條ニ依リ府縣會ノ職權ニ屬スル事件ヲ市郡ニ分別シタル府縣ニ於テ本規則ニ依リ市若クハ郡ヨリ選出スヘキ議員ノ數十名ニ滿タサルトキハ其定數ヲ十名ト爲スヘシ

廿五年九勅令
第七十六號ヲ
以テ本條追加

○府縣會議員定數規則ニ關スル人口計算方心得

明治二十四年六月十一日
內務省訓令第十號

本年六月勅令第五十九號ニ掲クル人口ハ毎年十二月末日ノ現住人口ヲ云フ但在營在艦ノ現役軍人ハ其營所又ハ定繫港所在地ノ人口ニ算入セス其本籍地ノ人口ニ加フヘキ儀ト心得ラルヘシ

○府縣制郡制施行ニ際シ衆議院議員並府縣會議員ノ選舉區域等ニ關スル件

明治二十三年九月十九日
法律第八十五號

朕府縣制郡制施行ニ際シ衆議院議員並府縣會議員ノ選舉區域地方稅收支豫算地方稅財產備荒儲蓄金處分方郡費支辨方法及府縣ノ急施事業ニ關スル諸件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣會議員定數規則ニ關スル人口計算方心得
府縣制郡制施行ニ際シ衆議院議員並府縣會議員ノ選舉區域等ニ關スル件

- 第一條 郡制施行ニ付郡ノ廢置分合若ハ郡市ノ境界ヲ變更スルコトアルモ衆議院議員ノ選舉ハ仍ホ從前ノ區域ニ依ル
- 第二條 郡制施行ニ際シ郡ノ廢置分合若ハ郡市ノ境界ヲ變更スルコトアルモ府縣會議員ハ次回ノ定期改選ニ至ルマテ之ヲ改選セス又其ノ定數ヲ増減セス其ノ補缺選舉ヲ行フヘキトキハ仍ホ從前ノ區域ニ依ル
- 第三條 府縣制施行前府縣會ニ於テ議定シタル歲入出豫算中府縣制施行ニ至リ法律命令ノ結果ニ依リ異動ヲ生シ更正ヲ要スルモノアルトキハ新ニ組織スル府縣會ニ於テ之ヲ更正スヘシ其ノ他ハ總テ從前府縣會議決ノ効ヲ存ス
- 第四條 東京府京都府大坂府ヲ除キ其ノ他ノ縣ニ在テ從來郡市地方稅ノ經濟ヲ異ニシ其ノ地方稅經濟ニ屬スル財產ヲ郡市ニ分屬セルモノハ府縣制施行ノ日ヨリ之ヲ共同ノ縣有財產トス
- 第五條 東京府京都府大坂府ヲ除キ其ノ他ノ縣ニ在テ從來備荒儲蓄金ヲ郡市ニ分別セルモノハ府縣制施行ノ日ヨリ之ヲ共同ノ備荒儲蓄金トス
- 第六條 郡制施行ノ後郡費ヲ收入スルニ至ルノ間必要ナル郡ノ支出ハ郡長ニ於テ概算ヲ設ケ府縣知事ノ認可ヲ得テ假ニ地方稅ヲ以テ支辨シ追テ郡費ヲ以テ償還スヘシ
- 第七條 府縣制郡制施行ノ後府縣參事會郡參事會就職ニ至ルマテノ間其ノ職務ニ屬スル事項ニシテ急施ヲ要スルモノアルトキハ府縣參事會ノ職務ハ府縣知事郡參事會ノ職務ハ郡長代テ之ヲ執行スヘシ

○府縣會規則

明治十三年四月八日太政官布告第十五號

明治十一年七月第十八號布告府縣會規則左ノ通改正候條此旨布告候事

第一章 總則

- 第一條 府縣會ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定ス
- 第二條 府縣會ハ通常會ト臨時會トノ二類ニ分ツ其定期ニ於テ開ク者ヲ通常會トナシ臨時ニ開ク者ヲ臨時會トナス
- 第三條 通常會臨時會ヲ論セス會議ノ議案ハ總テ府知事「縣令」ヨリ之ヲ發ス
- 第四條 臨時會ハ其特ニ會議ヲ要スル事件ニ限リ其他ノ事件ヲ議スルヲ得ス
- 第五條 府縣會ノ議決ハ府知事「縣令」認可ノ上之ヲ施行スヘキ者トス若シ府知事「縣令」其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スルトキハ其事由ヲ「內務卿」ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ
- 第六條 府縣會ハ每年通常會議ノ初メニ於テ地方稅ニ係ル前年度ノ出納決算ノ報告書ヲ受ケ府知事「縣令」ニ說明ヲ求ムルコトヲ得若シ異見アルトキハ議長ノ名ヲ以テ直チニ「內務大藏兩卿」ニ上申スルコトヲ得
- 第七條 出納決算ノ報告書ニ付府縣會ヨリ說明ヲ求ムルトキハ府知事「縣令」若シクハ其代理人之ヲ説明スヘシ(十五年第六十八號布告ヲ以テ本項追加)
- 第七條 通常會期中議員ノ内二人以上ノ發議ヲ以テ其府縣内ノ利害ニ關スル事件ニ付建議ヲナサントスル者アラハ先ツ議會ノ許可ヲ得テ之ヲ會議ニ付シ可決スルトキハ其會ノ所見トシ議長ノ名ヲ以テ直チニ「內務卿」ニ建議シ又ハ府知事「縣令」ニ建議スルヲ得(十五年第十號布告ヲ以テ本條改正但書追加)

但臨時會ニ於テハ其會議ヲ要シタル事件ニ限リ建議スルヲ得

第八條 府縣會ハ府知事「縣令」ヨリ其府縣内ニ施行スヘキ事件ニ付會議ノ意見ヲ問フコトアルトキハ之ヲ議ス

第九條 府縣會ハ議事ノ細則ヲ議定シ府知事「縣令」ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得
府縣會ハ議員ノ内召集ニ應セヌ又ハ事故ヲ告ケスシテ參會セサル者ヲ審査シ其退職者タルヲ決スルヲ得

府知事「縣令」ト府縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニシ又ハ權限ヲ爭フコトアルトキハ雙方ヨリ其事由ヲ具狀シ政府ノ裁定ヲ請フヘシ此場合ニ於テ府知事「縣令」ハ其議事若クハ會議ヲ中止スルコトヲ得(十四年第四號布告)
(十四年第四號布告)

第二章 選舉

第十條 府縣會ノ議員ハ郡區ノ大小ニ依リ每郡區ニ五人以下ヲ選フ

每郡區議員定數ノ外補闕員トシテ十人以下ヲ増選スルヲ得(十五年第十號布告)

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ公選シ之ヲ府知事「縣令」ニ報告シ府知事「縣令」ハ之ヲ「內務卿」ニ報告スヘシ

議長副議長及ヒ議員ハ俸給ナシ但會期中滞在日當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ會議ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム第十二條書記ハ議長之ヲ選ヒ庶務ヲ整理セシム其俸給ハ會費ノ中ヨリ之ヲ支給ス

第十三條 府縣ノ議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歲以上ノ男子ニシテ其府縣内ニ本籍ヲ定メ滿三年以上住居シ其府縣内ニ於テ地租拾圓以上ヲ納ムル者ニ限ル但左ノ各款ニ觸ル、者ハ議員タルコトヲ得ス

十七年第十九號布達ヲ以テ廢ス
神佛敎導職ヲ

第一款 瘋癲白痴ノ者

第二款 舊法ニ依リ一年以上懲役及國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期後五年ヲ經サル者(十五年第十號布告)

正(項改)

新法ニ依リ公權ヲ剝奪及停止セラレタル者又ハ一年以上輕重禁錮ノ刑ニ處セラレ主刑滿期後五年ヲ經サル者(十五年第十號布告)

第三款 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四款 官吏「教導職」及陸海軍諸卒現役ノ者(十五年第十號布告)

第五款 府縣會ニ於テ退職者トセラレタル後四年ヲ經サル者

第十四條 議員ヲ選舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ本籍ヲ定メ其府縣内ニ於テ地租五圓以上ヲ納ムル者ニ限ルヘシ

但前條ノ第一款第二款第三款第五款ニ觸ル、者及陸海軍人現役ノ者ハ選舉人タルコトヲ得ス(十五年第十號布告)

第十五條 (二十二年法律第六號)

第十六條 選舉ノ投票ハ豫定ノ日ニ郡區廳ニ於テ之ヲ爲シ郡區長之ヲ調査シ選舉會中ノ取締ヲ爲スヘシ但便宜ニ因リ郡區廳外ニ於テ選舉會ヲ開クコトヲ得

第十七條 (二十二年法律第六號)

第十八條 (二十二年法律第六號)

第十九條 (二十二年法律第六號)

第二十條 一人ニシテ數郡區ノ選ニ當ルトキハ其何レノ郡區ニ屬スヘキハ當人ノ好ニ任スヘシ

第二十一條 議員ノ任期ハ四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改選ス第一回二年期ノ改選ヲ爲スハ抽籤法ヲ以テ其退任ノ人ヲ定ム

第二十二條 議長副議長ノ任期ハ二年トシ議員ノ改選毎ニ之ヲ公選スヘシ

第二十三條 前二條ノ場合ニ於テハ前任ノ者ヲ再選スルコトヲ得

第二十四條 議員中第十三條ニ掲クル諸款ノ場合ニ遭遇スルカ其府縣外ニ轉籍スルカ其他總テ關員アルトキハ更ニ之ニ代ル者ヲ選舉ス(十五年第十號布告ヲ以テ轉住ヲ轉籍ト改メ)

但補缺員アルトキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ取り尙缺員アルトキハ本條末文ノ手續ニ據ル(十五年第十號布告ヲ以テ但查追加)

第三章 議則

第二十五條 議員半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第二十六條 會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十七條 府知事「縣令」若クハ其代理人ハ會議ニ於テ議案ノ趣旨ヲ辨明スルヲ得但決議ノ數ニ入ルコトヲ得ス

第二十八條 會議ハ傍聽ヲ許ス但府知事「縣令」ノ要メニ依リ又ハ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルヲ得

第二十九條 議員ハ會議ニ方リ充分討論ノ權ヲ有ス然レトモ人身上ニ付テ褒貶毀譽ニ涉ルコトヲ得ス

第三十條 議場ヲ整理スルハ議長ノ職掌トス若シ規則ニ背キ議長之ヲ制止シテ其命ニ順ハサル者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退去セシムルヲ得其強暴ニ涉ル者ハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルヲ得

第四章 開閉

第三十一條 府縣會ハ毎年一度十一月ニ於テ之ヲ開ク其開閉ハ府知事「縣令」ヨリ之ヲ命ス會期ハ三十

日以内トス但區部郡都會ヲ開ク地方ニ於テハ七日以内延期スルコトヲ得(十五年第六十八號布告ヲ以テ改正月ヲ十一月ト改メ十八年十一月ヨリ施行ス)

第三十二條 通常會期ノ外會議ニ付スヘキ事件アルトキ府知事「縣令」ハ臨時會ヲ開クコトヲ得其會期ハ七日以内トス但該會ヲ要スル事由ヲ直ニ「內務卿」ニ報告スヘシ(十五年第六十八號布告ヲ以テ改正)

第三十三條 會議ノ論說國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ府知事「縣令」ハ會議ヲ中止セシメ「內務卿」ニ具狀シテ其指揮ヲ請フヘシ

府縣會ニ於テ若シ法律上議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ期會内ニ於テ議案ヲ議決シ終ラサルトキハ府知事「縣令」ハ更ニ其議定ヲ要セス「內務卿」ニ具狀シテ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得(十四年第六十八號布告ヲ以テ改正)

議員召集ニ應セサル者半數ヲ過キ議會ヲ開クヲ得サルコトアルトキハ府知事「縣令」ハ其事由ヲ「內務卿」ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ(十四年第四號布告ヲ以テ改正)

第一項ノ場合ニ於テ「內務卿」ハ府縣會ヲ停止スルコトヲ得而シテ更ニ開會ヲ命スル迄ノ間ハ府知事「縣令」ニ於テ地方稅ノ經費豫算及徵收方法ヲ定メ「內務卿」ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得(十五年第六十八號布告ヲ以テ改正)

第二十四條 會議中國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ「內務卿」ハ何レノ時ヲ問ハス議員解散ヲ命スルコトヲ得(十四年第四號布告ヲ以テ改正)

前項ノ場合ニ於テ前議員ノ未タ議定セサル議案アルトキハ後任議員ヲシテ之ヲ議定セシムヘシ(十四年第四號布告ヲ以テ改正)

第二十五條 「內務卿」ヨリ解散ヲ命シタルトキハ其解散ヲ命シタル日ヨリ九十日以内ニ更ニ議員ヲ改

選スヘシ

第五節 常置委員(十三年第四十九號布告ヲ以テ本章追加)

第三十六條 府縣會ハ其議員中五人以上七人以下ノ常置委員ヲ選任スヘシ
常置委員定數ノ外數名ヲ増選シ缺員アルトキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ補充スルヲ得(十五年第十號布告ヲ以テ本章追加)

區部會郡部會ヲ開設シタル府縣ニ在テハ區郡各部ニ之ヲ選任スヘシ(十五年第十號布告ヲ以テ本章追加)

第三十七條 常置委員ハ府縣會ノ議定ニ依リ事業ヲ執行スルノ方法順序及豫備費ノ支出ニ付府知事
「縣令」ヨリ諮問アルトキハ其意見ヲ述フ(十五年第六十八號布告ヲ以テ本章改正)

常置委員ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テハ其經費ノ豫算及徵收
方法ヲ議決シ追テ府縣會ニ報告スルヲ得(十五年第六十八號布告ヲ以テ本章追加)

第三十八條 常置委員ハ通常府縣會議ノ初メ委員會議ニ於テ議決シタル事件ノ要領ヲ報告シ且通常會
ト臨時會トヲ論セス府知事「縣令」ヨリ發スヘキ議案ヲ前以テ請取リ會議ニ向テ其意見ヲ報告スヘシ

第三十九條 常置委員會議所ハ府縣廳内ニ置キ定日ニ會議スヘシ

第四十條 常置委員ノ諮問會議ハ別ニ議案書ヲ用ユルヲ要セス(十五年第十號布告ヲ以テ常置委員ノ下諮問ノ二字ヲ加フ)

第四十一條 諮問會ハ府知事「縣令」ヲ以テ議長トナシ其他ノ會議ハ委員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ(十五年第十號布告ヲ以テ改正)

第四十二條 常置委員ハ半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス會議ハ過半數ニ依テ決ス可否
同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十三條 常置委員會議ノ議事ハ書記ヲシテ筆記セシムヘシ

第四十四條 府知事「縣令」ハ主務ノ僚屬ヲ委員會議ニ出シ其會議ニ係ル事件ニ付辯明ヲ爲サシムルヲ
得

第四十五條 常置委員會議ハ傍聽ヲ許サス

第四十六條 常置委員ノ任期ハ二ケ年トシ議員ノ改選毎ニ之ヲ改選ス但期限ニ至リ再選スルヲ得
(十五年第十號布告ヲ以テ二ケ年トシノ下議員云々ノ十三字ヲ加フ)

第四十七條 常置委員會議所ノ書記ハ府縣ノ屬官中ヨリ府知事「縣令」之ヲ選任ス(十五年第十號布告ヲ以テ議長ヲ府知事縣令ト改ム)

第四十八條 常置委員ハ三拾圓以上八拾圓以下ノ月手當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ府縣會ノ議決ヲ以
テ定ム

第四十九條 常置委員ノ月手當旅費其他委員會議所ノ費用ハ地方稅ヨリ支給ス

○府縣會ニテ議定スヘキ事件ノ細目ヲ區町村會等ノ議決ニ付スルヲ
得 明治十四年二月十四日
太政官布告第六號

府縣會ハ其議定スヘキ事件中細目ニ係ル事項ヲ以テ區町村會若クハ水利土功會ノ議決ニ付スルヲ得ヘ
シ此旨布告候事

○府縣會議員聯合集會等ヲ禁ス 明治十五年十二月二十八日
太政官布告第七十號

府縣會議員會議ニ關スル事項ヲ以テ他ノ府縣會議員ト聯合集會シ又ハ往復通信スルコトヲ許サス

府縣會規則 府縣會ニテ議定スヘキ事件ノ細目ヲ區町村會等ノ議決ニ付スルヲ得
府縣會議員聯合集會等ヲ禁ス

其集會スル者何等ノ名義ヲ以テスルモ府知事「縣令」ニ於テ此禁令ヲ犯ス者ト認ムルトキハ直ニ解散ヲ命スヘシ
前項ノ場合ニ於テ解散ノ命ニ從ハサルモノハ集會條例第十三條ニ依テ處分ス

○開會中議員建議書携帶上京等ヲ許サス 明治十五年二月二日 太政官達第十一號

府縣會規則第七條ニ依リ内務卿ニ建議スルノ場合ニ於テ開會中議員自ラ其建議書ヲ携帶上京等ノ儀ハ不相成筋ニ候條此旨相違候事
但本文ノ趣府縣會ヘ相違シ置クヘシ

○府縣會規則第十三條第十四條ノ地租納額計算方 二十三年一月二十三日 內務省訓第二七號

府縣會規則第十三條第十四條ノ地租納額ヲ計查スルニ數人共有地ノ地租ハ其共有人員ニ平分シ之ヲ各自ノ納額ト見做シ算入スヘキモノトス尤モ土地臺帳又ハ其附屬連名簿ニ各自所有權ノ歩合又ハ納租額ノ割合アルモノハ其額ニ依ル可キ儀ト心得ラルヘシ
但市町村制ニ就テモ本文同様ト心得ラルヘシ

○府縣會議員選舉規則 明治二十二年二月二十六日 法律第六號

朕府縣會議員選舉規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣會議員選舉規則

第一條 戶長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役場管内ノ選舉人名原簿ヲ調査シ其副本ヲ十月一日迄ニ郡長ニ差出スヘシ

選舉人名原簿ニハ選舉人ノ氏名、住所、生年月、納ムル所ノ地租ノ總額并ニ其納稅地ヲ記載スヘシ

第二條 郡長ハ戶長ヨリ差出ス所ノ原簿ヲ調査シ毎年十月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第三條 區長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ選舉人名原簿ヲ調製シ十月十五日ヲ期トシ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

選舉人名原簿ニ記載スヘキ事項ハ第一條第二項ニ同シ

第四條 府縣會規則第十三條ノ年齡及ヒ年限ヲ算スルハ選舉人名簿調製ノ期日ヲ以テ限界ト爲シ其地租納額ヲ算スルハ原簿調製ノ期日ヨリ前一年以上之ヲ納メ猶引續キ納ムル者ニ限ルヘシ但家督ニ依リ財產ヲ相續シタル者ハ前財產主ノ納稅額ヲ以テ其者ノ納稅額ニ算入スヘシ

第五條 選舉人其住居スル區町村ノ外ニ於テ地租ヲ納ムルトキハ其納稅地區戶長ノ證狀ヲ添ヘ選舉人名原簿調製ノ期日迄ニ其住居地ノ區戶長ニ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ爲サ、ル納稅額ハ選舉及ヒ被選舉ノ資格ニ算入スルコトヲ得ス

第六條 郡區長ハ十月二十日ヨリ十五日間其役所管内ノ選舉人名原簿及ヒ選舉人名簿ノ寫ヲ其郡區役所ニ於テ縦覽セシムヘシ但關係者ノ請求アルトキハ戶長役場ニ於テモ其調製シタル原簿ノ寫ヲ示スヘシ

開會中議員建議書携帶上京等ヲ許サス 府縣會規則第十三條第十四條ノ地租納額計算方 一八七

第七條 選舉資格アル者選舉人名簿ニ於テ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其縦覽期限内ニ之ヲ郡區長ニ申立ヘシ

第八條 郡區長ニ於テ脱漏又ハ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ之ヲ審査判定シ其申立正當ナルトキハ直ニ其人名ヲ記入又ハ削除シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在テハ仍ホ常人住居地ノ戸長ニ通知スヘシ

第九條 前條審査ノ爲メ必要アル場合ニ於テハ申立人又ハ常人ヲ召喚審問スルコトヲ得

第十條 申立人又ハ常人ニ於テ郡區長ノ判定ニ不服アルトキハ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得但其判定ハ出訴ノ爲メ停止セサルモノトス

第十一條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ハラズ速ニ其裁判ヲ爲スヘシ

第十二條 前條始審裁判所ノ裁判ハ上告スルコトヲ得ト雖モ控訴スルコトヲ許サズ但其裁判ハ上告ノ爲メ停止セサルモノトス

第十三條 選舉人名簿ハ十一月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ改正期日迄之ヲ据置クモノトス但裁判言渡ニ依リ訂正スヘキモノハ郡區長ニ於テ其言渡ヲ受ケタルトキヨリ二十四時間以内ニ之ヲ訂正シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在テハ仍ホ常人住居地ノ戸長ニ通知スヘシ

第十四條 選舉投票ハ通常二月若クハ三月ニ於テ之ヲ行フヘシ但解散及ヒ補闕選舉ノ場合ハ此限ニ在テス

第十五條 議員ヲ選舉スヘキトキハ少クトモ一箇月前ニ府縣知事ヨリ其月日、選舉開會並ニ投票閉鎖ノ時刻、選舉ヲ行フヘキ郡區ノ名及ヒ選舉スヘキ議員ノ數ヲ記シ之ヲ管内ニ告示スヘシ若シ正議員ノ外補闕員ノ増選ヲ要スルトキハ各別ニ其數ヲ記スヘシ

第十六條 前條ノ告示アリタルトキハ郡區長ハ前條各事項並ニ選舉開會ノ場所ヲ管内ニ告示スヘシ

第十七條 郡區長ハ其管内ノ選舉人中ヨリ立會人五名ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ五日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日選舉會場ニ參會セシムヘシ

第十八條 郡區長ハ選舉會場トナリ選舉會場ヲ管理スヘシ郡區長事故アルトキハ代理書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第十九條 選舉會書記ハ郡區長ニ於テ郡區書記中ヨリ之ヲ命スヘシ

第二十條 選舉人ハ選舉開會ノ時刻ヨリ投票函閉鎖ノ時刻ニ至ル迄何時タリトモ到着ノ順序ニ從ヒ投票スルコトヲ得

- 第二十條 選舉會場ニハ錠ヲ付シタル投票函及ヒ選舉錄並ニ筆墨ヲ備ヘ置クヘシ
- 投票函ハ投票ニ先チ參集シタル選舉人ノ面前ニ於テ之ヲ開キ其空虛ナルコトヲ示スヘシ
- 第二十一條 投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ各郡區ニ於テ一定ノ式ヲ用キ投票ノ當日選舉會場ニ備ヘ置キ選舉會長又ハ書記ヨリ之ヲ各選舉人ニ交付スヘシ
- 用紙ハ正議員ノ外補闕員ノ増選ヲ要スル場合ニ於テハ之ヲ甲乙二種ニ分チ甲種ハ正議員ノ爲メノ用紙ト爲シ乙種ハ補欠員ノ爲メノ用紙ト爲スヘシ
- 第二十二條 選舉人ハ自ら投票ヲ行フヘシ代人ニ託スルコトヲ得ス
- 第二十三條 選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ被選舉人並ニ自己ノ氏名ヲ記シ捺印スヘシ但氏名ノ外住所若クハ位階勳等其他敬稱ノ類ヲ記スルハ妨ナシ
- 第二十四條 選舉人投票ヲ爲サントスルトキハ選舉會長ハ其住所氏名ヲ選舉人名簿ニ照シ名簿ニ消印ヲ捺シ選舉人ヲシテ自ラ之ヲ投票函ニ投入セシムヘシ
- 第二十五條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由ヲ申立ルトキハ選舉會長ハ書記ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀聞セ竝ニ立會人ニ示シタル後捺印投票セシムヘシ
- 第二十六條 選舉ニ關スル吏員及ヒ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス但會場臨視ノ職權アル官吏ハ此限ニ在ラス
- 第二十七條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但記載セラルヘキ裁判官渡書ヲ所持シテ參會スル者ハ此限ニ在ラス
- 第二十八條 選舉人ハ會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若クハ喧噪ニ涉リ又ハ互ニ投票ヲ勸誘スルコトヲ得ス

- 第二十九條 選舉會場ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉會長ハ之ヲ警戒シ其命ニ從ハサルトキハ之ヲ會場外ニ退出セシムヘシ但其投票ヲ爲サシムル爲メ再ヒ之ヲ呼入ルコトヲ得
- 選舉會長ハ會場取締ノ爲メ必要ト認ムルトキハ警察官ノ助力ヲ求ムルコトヲ得
- 第三十條 選舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票セントスル者アルトキハ選舉會長ハ其投票ヲ取上クヘシ
- 第三十一條 投票函閉鎖ノ時刻ニ至ルトキハ選舉會長ハ其由ヲ宣告シ書記ヲシテ一時選舉會場ノ入口ヲ鎖サシメ參會者ニ問フニ未タ投票セサリシ者ナキヤヲ以テシ若シ之アルニ於テハ直ニ投票セシメタル後投票函ヲ閉鎖スヘシ
- 第三十二條 選舉會場ニハ點數簿二冊ヲ備ヘ書記二人ヲシテ各一冊ヲ擔任セシムヘシ
- 第三十三條 投票函閉鎖後十分時間ヲ經過スレハ選舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ逐次投票ヲ取出シ披封點檢シテ之ヲ書記ニ付シ選舉人被選舉人ノ氏名ヲ朗讀セシメ點數簿擔任ノ書記ヲシテ被選舉人ノ得點ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ前項ノ點檢中若シ無効ノ投票ヲ發見シタルトキハ之ニ抹線ヲ加ヘ一部分無効ノモノハ其部分ニ抹線ヲ加フヘシ
- 第三十四條 選舉人ハ投票點檢ノ際之ヲ參觀スルコトヲ得
- 第三十五條 投票點數ノ記入ヲ終リタルトキハ選舉會長ハ書記ヲシテ各被選舉人得點ノ合計ヲ點數簿ニ記入シテ之ヲ朗讀セシムヘシ
- 第三十六條 點數記入竝ニ計算其他書記ノ事務ハ總テ選舉會長竝ニ立會人ノ面前ニ於テ之ヲ爲スヘシ
- 第三十七條 點數ノ合計ヲ記入シ終リタルトキハ選舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ多數ヲ得タル者ヨリ順次ニ其被選舉權ノ有無ヲ査定シ同數ハ年長ヲ取り同年ハ抽籤ヲ用キ其當選ヲ定ムヘシ但即時ニ其

當選ニ必要ナル事實ヲ確知シ得サルトキハ調査ニ必要ナル時日ノ間其査定ヲ延ハスコトヲ得
 分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ第五十條ニ依リ當選ヲ定ムルモノトス
 當選タルヘキ多數ヲ得タル者ノ被選舉權ヲ有セサルコトヲ發見シタルトキハ順次其次點者ヲ以テ當
 選ト爲スヘシ此場合ニ於テハ郡區長ハ當選者ノ氏名ト共ニ其事由ヲ告示スヘシ
 當選タルヘキ多數ヲ得タル被選舉人他郡區ノ人ニシテ直ニ其當選ヲ定メ難キトキハ第四十一條ニ依
 リ之ヲ定ムヘシ

第三十八條 點檢濟ノ投票ハ之ヲ取纏メ封緘ノ上選舉會長立會人竝ニ書記之ニ捺印スヘシ
 前項ノ投票ハ封印ノ儘附屬書類ト共ニ一年間郡區役所ニ保存スヘシ若シ選舉ニ關シ訴訟又ハ告訴告
 發アルトキハ一年ヲ過クルモ其裁判確定ニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

- 第二十九條 左ノ事項ハ之ヲ選舉錄中ニ記入スヘシ
- 一 選舉開會ノ月日並ニ時刻
 - 二 選舉會長及ヒ書記ノ氏名
 - 三 立會人ノ住所氏名
 - 四 第二十七條但書ニ依リ投票セシメタルトキハ其顛末
 - 五 第三十條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其顛末
 - 六 投票函閉鎖ノ時刻
 - 七 各被選舉人ノ得點數
 - 八 當選人ノ住所氏名若シ直ニ當選ヲ定メ難キトキハ其事由
 - 九 選舉閉會ノ時刻

十 右ノ外選舉會長ニ於テ緊要ト認ムル事項

當選ノ査定ヲ延シタルトキハ其結果ヲ追記スヘシ

第四十條 選舉錄ニハ選舉會長立會人竝ニ書記之ニ署名捺印スヘシ

第四十一條 當選タルヘキ多數ヲ得タル被選舉人他郡區ノ人ナルトキハ郡區長ハ其本籍地ノ郡區長ニ
 照會シ被選舉權ヲ有スルヤ否ヤノ證明ヲ求ムヘシ若シ其權ヲ有セサルトキハ第三十七條第三項ノ例
 ニ依ル

第四十二條 左ノ投票ハ無効トス

- 一 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但裁判言渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此限ニ在ラス
 - 二 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ
 - 三 選舉人又ハ被選舉人ノ氏名ヲ記載セサルモノ
 - 四 選舉人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ何人タルヲ知ルヘカラサルモノ
 - 五 選舉人被選舉人ノ住所氏名ノ外餘事ヲ記入スルモノ但位階勳等其敬稱ノ類ヲ記入スルモノハ
 餘事ト見做スノ限ニ在ラス
 - 六 被選舉人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ其何人タルヲ知ルヘカラサルモノ但列記ノ被選舉人ニ付テ
 ハ仍ホ其効アリトス
 - 七 被選舉權ナキ者ヲ記載シタルモノ但列記ノ被選舉人ニ付テハ仍ホ其効アリトス
- 第四十三條 投票ニ記載ノ被選舉人其選舉スヘキ定數ニ足ラサルモ之ヲ無効トセス又定數ニ過クルト
 キハ前條第六第七ニ觸ル、モノアルト否トヲ問ハス末尾ヨリ其過數ヲ順次ニ棄却スヘシ一人ノ氏名
 ヲ複記シタルモノハ一人トシテ計算スヘシ

第四十四條 選舉人又ハ選被舉人ノ住所氏名ニ誤字脱字アリ又ハ假名字ヲ用ユルモ其何人ノ何人ヲ選舉シタルコト明瞭ナルトキハ其投票ヲ有効トスヘシ

第四十五條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ立會人ノ意見ヲ聞キ選舉會長之ヲ決定スヘシ其決定ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四十六條 郡區ノ區域廣濶ニ過クルカ又ハ郡區内島嶼ノ地アリテ選舉人ノ參會ニ不便ナル爲メ已ムヲ得サル場合ニ於テハ郡區長ハ府縣知事ノ指揮ニ依リ又ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ選舉分會ヲ設クルコトヲ得

分會ノ爲メ特ニ選舉人名簿ヲ調製スルヲ要セスト雖モ選舉人名簿中ニ各選舉人所屬ノ會場ヲ區別シ豫メ分會場所屬ノ區域並ニ會場ヲ管内ニ告示スヘシ

第四十七條 分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開キ投票時間モ亦本會ト同一タルヘシ其他選舉ノ手續會場ノ取締選舉録ノ記載等ハ總テ本會ニ準スヘシ但島嶼其他遠隔ノ地ニ限リ府縣知事ニ於テ適宜其投票ノ期日ヲ異ニシ選舉本會ノ投票期日迄ニ其投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第四十八條 分會選舉會長ハ上席郡區書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ

分會書記ハ郡區長ニ於テ其郡區書記又ハ其地ノ戶長又ハ戶長役場吏員中ヨリ之ヲ命スヘシ

第四十九條 分會ニ於テ投票函ヲ閉鎖シタルトキハ之ニ封印シ選舉會長及ヒ書記ノ中少クトモ一名付添直ニ本會場ニ送付スヘシ若シ立會人又ハ他ノ選舉人中同行ヲ望ム者アルトキハ之ヲ許スヘシ

第五十條 分會ヲ設ケタルトキハ本會場ニ於テハ投票函閉鎖ノ後分會投票函ノ到着ヲ待チ第二十三條ノ手續ヲ爲シ合算ノ上總數ヲ以テ當選ヲ定ムヘシ

第五十一條 當選者ノ定マリタルトキハ郡區長ハ直ニ其旨ヲ當選者ニ通知スヘシ

當選者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲スヘシ若シ當選ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ十日以内ニ承諾ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ當選ヲ辭シタル者アルトキハ郡區長ハ次點者ヲ以テ當選者ト爲スヘシ

第五十二條 選舉ノ結果ハ郡區長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第五十三條 當選者ノ住所氏名ハ府縣知事ニ於テ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十四條 府縣會規則第十條第二項ニ依リ補關員ヲ増選スルトキハ其選舉ハ正議員選舉ト同會ニ於テ同時ニ之ヲ行フ但其投票函ハ正議員ノ投票函ト異ニスヘシ

第五十五條 一人ニシテ正議員補關員ノ選ニ併セ當ルトキハ之ヲ正議員ト爲シ其次點者ヲ以テ補關員當選ト爲スヘシ

第五十六條 當選ノ査定ニ不服アル關係者ハ當選者ノ氏名告示ヨリ十日以内ニ府縣知事ニ其更正又ハ選舉取消ノ申立ヲ爲スコトヲ得府縣知事ノ判定ニ服セサル者ハ二十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得但其判決ハ終審トス

第五十七條 當選者確定ノ後其當選者ノ被選舉權ヲ有セザリシコトヲ發見スルトキハ府縣知事ハ其當選ヲ取消シ其次點者ヲ以テ當選ト爲スヘシ但此場合ニ於テハ其事由ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十八條 選舉全會ヲ取消シ更ニ選舉ヲ命スルハ其選舉ノ選舉規定ニ違フ場合ニ限ル但規定ニ違フ所アルモ其事ノ輕微ニシテ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セス又ハ其事ノ更正シ得ヘキモノハ取消ノ限ニ在ラス

選舉全會ノ取消ハ府縣知事ヨリ内務大臣ニ具狀シ其認可ヲ經テ之ヲ爲スヘシ但其事由ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十九條 納稅額年齡其他選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其被選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ當選者ト爲リタル者又ハ其資格ヲ有セサルモ其事ヲ告ケスシテ當選者トナリタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其授與又ハ約束ヲ受ケタル者モ亦同シ

第六十一條 戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ選舉會場ニ入りタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十三條 投票ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ途中又ハ其他ニ於テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ選舉人ヲ恐嚇スル者又ハ選舉ニ關スル吏員若クハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪シタル者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十四條 多乘ヲ囁集シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其情ヲ知り集ニ應シタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六十五條 當選者第五十九條乃至第六十四條ノ刑ニ處セラレタルトキハ其當選ハ無効トス

第六十六條 選舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲サントシ又ハ投票ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 選舉ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第六十八條 府縣會規則第十五條第十七條第十八條第十九條其他本規則ニ牴觸スル規定ハ總テ之ヲ廢止ス

附則

明治二十二年ニ於テハ府縣知事ハ本規則規定ノ時期ニ拘ハラズ選舉人名原簿及ヒ人名簿ヲ調製セシメ規定ノ時期ニ至リ仍ホ之ヲ訂正セシムヘシ

前項ノ名簿調製前議員ノ選舉ヲ要スル府縣ニ於テハ舊名簿ヲ用ユルコトヲ得ト雖モ其他ハ總テ本規則ニ依ルヘシ

島司ヲ置キタル地ニ於テハ郡長ノ事務ハ島司ニ於テ之ヲ行フヘシ

○府縣會議員選舉ニ衆議院議員選舉法罰則補則ヲ適用スルノ件

明治二十三年五月二十九日
法律第四十一號

朕府縣會議員選舉ニ衆議院議員選舉法罰則補則ヲ適用スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十二年二月法律第六號府縣會議員選舉規則ニ依ル選舉ニハ府縣制ヲ施行スル迄ノ間衆議院議員

府縣會議員ニ衆議院選舉法罰則補則ヲ適用スルノ件

選舉法則則補則ヲ適用ス但其ノ第二條第一項ニ衆議院議員選舉法第九十二條ヲ適用スル場合ニ於テハ府縣會議員選舉規則第六十二條其ノ第二條第二項ニ衆議院議員選舉法第九十三條ヲ適用スル場合ニ於テハ府縣會議員選舉規則第六十三條ヲ適用スルモノトス
府縣會議員選舉規則中此ノ法律ニ矛盾スルモノハ効力ヲ有セス

○市制施行地ニ係ル府縣會議員選舉及市公民資格

明治二十二年二月二十六日法律第七號

朕市制施行ニ付府縣會議員ノ選舉及市公民ノ資格ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 市制ヲ施行スルモ府縣會議員ハ之ヲ改選セス

第二條 郡部ト經濟ヲ異ニスル區ニ市制ヲ施行スルモ府縣會議員選舉ノ區域及區部會郡部會ニ係ル規定並區部議員ノ數ハ總テ從前ノ通タルヘシ但區部ハ改テ市部ト稱スヘシ

區ノ區域ヲ變更シテ市ト爲スニ因リ議員ノ數ヲ増減スヘキトキハ府縣會ノ議決ヲ以テ之ヲ増減スルコトヲ得此場合ニ於テ其退職スヘキ議員ハ抽籤ヲ以テ定メ其増加スヘキ議員ハ新ニ選舉スヘシ

第三條 郡内ノ市街ニ市制ヲ施行スル場合ニ於テモ府縣會議員選舉ノ區域ハ之ヲ變更ヒス其選舉事務ハ郡長ニ於テ之ヲ管理シ選舉ニ關スル費用ハ郡役所經費ヲ以テ支辨スヘシ

第四條 郡部ト經濟ヲ異ニスル區ニ於テ從來地方稅ヲ以テ支辨シタル事業ニシテ古ノ事業ニ屬スヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ以テ市ニ引繼クヘシ

第五條 郡部ト經濟ヲ異ニセサル區ニ市制ヲ施行シ又ハ町村ニ市制ヲ施行シ若クハ町村ヲ區ニ合併シ

テ市制ヲ施行スル場合ニ於テハ其區費又ハ町村費ヲ二年以來納メタル者ヲ市制第七條ノ市ノ負擔分任者ト看做スヘシ

郡部ト經濟ヲ異ニスル區ニ市制ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣會ノ議決ヲ以テ區部地方稅中專ラ區ノ費用ニ支出シタルモノヲ區分シ其區分シタル稅金ヲ二年以來納メタル者ヲ市制第七條ノ市ノ負擔分任者ト看做スヘシ其區分シタル稅金ノ外區費ヲ納メタル者アルトキハ其金額ヲ併算スヘシ

○選舉法中議員タルヲ得サル官吏ノ件

明治二十二年六月四日 閣令第十八號

府縣會規則第十三條市制町村制第十五條衆議院議員選舉法第九條第十條ニ記載シタル官吏ハ在職者ノミニ限ルモノトス

非職者休職者ニシテ議員又ハ市町村ノ吏員タラントスルトキハ本屬長官ノ許可ヲ受ク可シ

○區郡部會規則

明治十四年二月十四日 太政官布告第八號

東京府京都府大坂府神奈川縣區郡部會規則左ノ通相定メ明治十三年五月第二十六號及第二十七號布告廢止候條此旨布告候事

但三府神奈川縣ノ外區制ヲ設ケタル諸縣ニ於テハ政府ノ裁可ヲ經テ此規則ヲ施行スルコトヲ得(十四年第二十號布告ヲ以テ但普通加)

第一條 三府及ヒ神奈川縣ニ於テハ府縣會ヲ分テ區部會郡部會トナシ區部郡部ニ分別シタル事件ヲ議

市制施行地ニ係ル府縣會議員選舉及市公民資格 選舉法中議員タルヲ得サル官吏ノ件 區郡部會規則

定セシム

第二條 區部會郡部會ニ於テ議定スヘキ事件ト府縣會ニ於テ議定スヘキ事件トハ府縣會ニ於テ之ヲ議定ス

第三條 府縣會規則第十條ノ定限外ニ於テ區部議員ノ増加ヲ要スルトキハ府知事「縣令」ヨリ「內務卿」ニ具狀シ其認可ヲ得テ其定限ヲ殊ニスルコトヲ得

第四條 府縣會ハ區部郡部議員各半數以上出席スルニアラサレハ其日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第五條 府縣會ノ議定ニ屬スル事件ニ付テハ區部郡部常置委員會同シテ諮問ヲ受ケ又ハ議決スヘシ

但區部郡部常置委員各半數以上出席スルニアラサレハ其日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第六條 (十五年第十二號)
(十五年第十二號)
(十五年第十二號)

第七條 (十五年第十二號)
(十五年第十二號)

第八條 明治十三年度以前ニ係ル地方税ノ中區郡連帶支辨セルモノハ其決算ヲ府縣會ニ報告シ區郡ニ

分別セルモノハ其決算ヲ各別ニ區部會郡部會ニ報告スヘシ

第九條 區部ニ係ル戸數割ハ區部會ノ決議ヲ經テ府縣知事「縣令」ヨリ「內務大藏兩卿」ニ具狀シ政府ノ

裁可ヲ得テ家屋税ト爲スコトヲ得(十五年第十二號)
(十五年第十二號)

○府縣稅徵收法 明治二十三年九月三十日
法律第八十八號

朕府縣稅徵收法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣稅徵收法

第一條 市町村ハ其市町村內ノ府縣稅ヲ徵收シ之ヲ府縣ニ納付スルノ義務アルモノトス

地租割外ノ府縣稅ニ對シテハ其徵收金額ノ百分ノ四ヲ徵收費用トシテ其市町村ニ交付スヘシ但東京

市京都市大坂市ハ此限ニ在ラス

第二條 市町村ハ過誤怠慢ニ依リ其徵收金ヲ亡失シタルトキハ之ヲ辨償スルノ責任任スヘシ

第三條 市町村ハ避クヘカラサル變災ニ罹リ其徵收金ヲ亡失シタルトキハ其責任免除ヲ府縣知事ニ訴願スルコトヲ得

第四條 府縣知事ハ前條ノ訴願ヲ受ルトキハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ責任ヲ免除スルコトヲ得

第五條 府縣稅ヲ徵收スルトキハ府縣知事又ハ其委任ヲ受ケタル命令者ハ市町村ニ對シ徵稅令書ヲ發シ市町村長ハ徵稅令書ニ依リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ各納稅人ニ交付スルモノトス

第六條 市長ニ於テ收入命令ノ委任ヲ受ケタル場合ニ於テハ徵稅令書ヲ直チニ各納稅人ニ交付スルコトヲ得

第七條 隨時徵收ノ府縣稅ハ府縣知事又ハ委任ヲ受ケタル命令者ニ於テ直チニ各納稅人ニ徵稅令書ヲ發スルコトヲ得

第八條 徵稅傳令書ヲ受ケタル各納稅人及徵稅令書ヲ受ケタル市ノ各納稅人ハ税金ヲ市町村ノ收入役ニ拂込ミ其領收證書ニ市町村長ノ檢印ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ルモノトス

市町村ハ其徵收シタル税金ヲ府縣出納吏ニ納付シ其領收證書ヲ得テ義務ヲ了ルモノトス

第七條ニ依ル各納稅人ハ税金ヲ府縣出納吏ニ納付シ其領收證書ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ル者トス

第九條 納稅人他ノ負債ニ依リ身代限ノ處分ヲ受クルトキ其既ニ徵稅令書ヲ發シタルモノアルトキハ

國稅徵收法第十四條第十五條ノ例ニ依リ國稅ニ次テ府縣稅ヲ徵收スヘシ
 第十條 國稅若クハ市町村稅ヲ滯納シタル爲メ滯納者ノ財產ヲ賣却シタル場合ニ於テ既ニ徵稅令書ヲ發シタルモノアルトキハ市町村稅ニ先ダチ府縣稅ヲ徵收スヘシ
 第十一條 府縣稅納稅義務ノ期滿免除ハ國稅ノ例ニ依ル
 第十二條 町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ此法律ニ依リ町村ノ爲スヘキ職務ハ戶長ニ於テ之ヲ行フヘシ
 第十三條 此法律ニ關スル細則ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府縣知事之ヲ定ムヘシ
 第十四條 府縣制施行ニ至ル迄ノ間ハ此法律ハ地方稅ノ徵收ニ適用ス
 第十五條 此法律ハ明治二十四年度所屬ノ徵稅ヨリ之ヲ施行ス

○府縣稅徵收法第八條府縣出納吏ノ事務取扱方

明治二十三年十二月二十三日
 內務訓第八六七號

明治二十三年九月法律第八十八號府縣稅徵收法第八條府縣出納吏ノ事務取扱方左ノ通り心得ラルヘシ
 一 町村ニ於テ徵收スル府縣稅金ニ關スル府縣出納吏ノ事務ハ府縣知事ニ於テ便宜郡長島司ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得
 一 隨時徵收ノ府縣稅ニ關スル府縣出納吏ノ事務ハ市ニ屬スル分ハ市長町村ニ屬スル分ハ郡長島司ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得
 一 府縣稅金ハ從前ノ手續ニヨリ切符ヲ以テ納付セシムヘシ

二十三年法律
 第三十五號ニ
 依リ地方稅ニ
 關シテ以下條
 之ヲ消滅ス

○地方稅規則

明治十三年四月八日
 太政官布告第十六號

明治十一年七月第十九號布告地方稅規則左ノ通改正候條此旨布告候事
 第一條 地方稅ハ左ノ目ニ從ヒ徵收ス
 一 地租三分一以內(十三年第四十八號布告ヲ以テ本項改正)
 一 營業稅并雜種稅
 一 戶數割
 第二條 營業稅雜種稅ノ種類ハ別段ノ布告ヲ以テ之ヲ定ム(十五年第二號布告ヲ以テ及制限ノ三字ヲ削ル)
 第三條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目左ノ如シ(十五年第二號布告ヲ以テ各項共改正)
 一 警察費
 一 警察廳舍建築修繕費
 一 土木費
 一 區町村土木補助費
 一 府縣會議諸費
 一 衛生及病院費
 一 教育費
 一 區町村教育補助費
 一 郡區廳舍建築修繕費

二十一年法律
第一號ヲ以テ
浦役費用ハ
市町村ノ負擔
トス

- 一 郡區吏員給料旅費及廳中諸費
 - 一 教育費
 - 一 浦役場及難破船諸費
 - 一 諸達書及揭示諸費
 - 一 勸業費
 - 一 戸長以下給料旅費(十七年第十三號布 告ヲ以テ本項改正)
 - 一 地方稅取扱費(府縣廳ニ屬スル爲替力給料爲 府縣廳舎建築修繕費)
 - 一 府縣廳舎建築修繕費
 - 一 府縣監獄費
 - 一 府縣監獄建築修繕費
 - 一 以上費目互ニ流用スルコトヲ許サス
 - 一 豫備費(豫算外ニ生シタル事件ノ費途(十五年第六十九號布) 及豫算ノ臨時不足ニ充ル者(告ヲ以テ本項改正))
- 右ノ外特ニ費目ノ増加ヲ要スルトキハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事「縣令」ヨリ「內務大藏兩卿」ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ
- 第四條 其年四月ヨリ翌年三月迄ヲ一週年度トナシ府知事「縣令」ハ前年十月迄ニ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算并地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣會ノ議決ヲ取リ其年二月ヲ以テ「內務卿」及「大藏卿」ニ報告スヘシ(十七年第二十九號布告ヲ以テ改正シ十九年度ヨリ施行ス十八年度ハ十八年七月ヨリ翌年三月迄九箇月ヲ以テ一週年度トス)
- 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事件數年ヲ期シテ施行スルモノハ初年ニ於テ其年期間各年度ノ經費豫算ヲ定メ府縣會ノ議決ヲ取リ府知事「縣令」ヨリ「內務卿」ニ具狀シ認可ヲ得テ其年期間之ヲ施行スルコト

府縣制第八十
條ニ依リ消滅

- ヲ得(十五年第六十九號布 告ヲ以テ本項追加)
- 第五條 非常ノ費用ハ豫算ニ立ツルヲ得サル天災時變ノ費用 別ニ賦課スルヲ得ルト雖モ其府縣會ノ議決ヲ取リ「內務卿」及「大藏卿」ニ報告スヘシ(十四年第五號布告ヲ以テ報告スヘシ) (十四年第五號布告ヲ以テ報告スヘシ) (十四年第五號布告ヲ以テ報告スヘシ)
- 前年度經費決算ノ場合ニ於テ已ムヲ得サル事故アリテ費目中不足ヲ生スルモノアルトキハ府知事「縣令」ハ府縣會ノ議決ヲ取リ其補充費ヲ徵收スルコトヲ得(十五年第六十九號布 告ヲ以テ本項追加)
- 第六條 地方稅徵收ノ期限ハ府知事「縣令」適宜ニ之ヲ定ムヘシ
- 第七條 府知事「縣令」ハ一週年度間ノ出納ヲ計査シ精算帳及計表ヲ製シ翌年通常會議ノ初メニ於テ之ヲ府縣會ニ報告シ然ル後「內務卿」及「大藏卿」ニ報告スヘシ(十四年第五號布 告ヲ以テ改正)
- 第八條 (十四年第五號布 告ヲ以テ刪除)
- 第九條 島嶼ノ地方稅ニ係ル經費ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事「縣令」ヨリ「內務卿」ニ具狀シ其裁定ヲ得テ本屬府縣ノ經費ト之ヲ分別スルコトヲ得
- 第十條 (十三年第二十六號布告ヲ以テ追加) (十四年第八號布告ヲ以テ刪除)

○營業稅雜種稅規則

明治十三年四月八日
太政官布告第十七號

明治十一年^{十二}第三十九號布告地方稅中營業稅雜種稅ノ種類及ヒ制限左ノ通改正候條此旨布告候事

第一條 營業稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ但國稅アルモノハ課稅ノ限ニアラス(十五年第三號布告 告ヲ以テ各項共改正)

商業

工業

第二條 雜種稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ(十五年第三號布告ヲ以テ各項共改正)

料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店ノ類

湯屋

理髮人

儲人受宿

遊藝師匠遊藝稼人相撲俳優翫間藝妓ノ類

市場

演劇其他興行遊覽所

遊技場玉突大弓掛弓射的吹矢ノ類

人寄席

船解漁船川船及五車馬車人力車荷積馬車荷積大七六

但國稅ノ額ヲ超過スヘカラス

水車

乘馬

屠畜

漁業採藻ノ類

但漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若シ其慣例ヲ改正シ又ハ新稅ヲ賦課セン
トスルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事「縣令」ヨリ「內務大藏兩卿」ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘ
シ

第三條 (十五年第三號布告ヲ以テ刪除)

第四條 府知事「縣令」ハ府縣會ノ決議ヲ以テ第一條第二條類目中ニ於テ賦課スル者ヲ取捨スルコトヲ得

第五條 府知事「縣令」ハ其賦課スヘキ各業ノ盛衰ヲ視察シ府縣會ノ決議ヲ以テ各個ノ稅額ヲ査定スヘ

シ(十五年第三號布告ヲ以テ決議ナ

第六條 (十五年第三號布告ヲ以テ刪除)

第七條 (十五年第三號布告ヲ以テ刪除)

第八條 第四條第五條ニ於テ確定シタル課目課額ハ府知事「縣令」ヨリ「內務大藏兩卿」ニ報告スヘシ

第九條 第一條第二條課稅種類ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事「縣令」

ヨリ「內務大藏兩卿」ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ(十五年第三號布告ヲ以テ第三條稅目ノ五字ヲ改メ課稅種類ノ四字トナス)

○地方稅豫算議案并精算報告書式 明治十五年十二月廿七日
內藏達乙第七十二號

地方稅豫算議案并精算報告書式別冊之通相定候條此旨相違候事

(書式略ス)

○營業稅雜種稅課目課額議案書式 明治十五年十二月二十七日
內藏達乙第七十三號

營業稅雜種稅課目課額議案書式別冊之通相定候條此旨相違候事

(書式略ス)

○地方税規則ニ依リ「兩卿」へ報告スヘキ豫算精算書式ノ件

明治十五年十二月二十七日
内藏達乙第七十四號

地方税規則ニ依リ「兩卿」へ報告スヘキ豫算精算書式ノ儀ハ本年兩省乙第七拾貳號達ニ準シ調製シ計表并説明書相副へ可差出此旨相達候事
但明治十四年兩省乙第二十七號達ハ廢止ス

○府縣警察費ニ對シ國庫下渡金ノ割合 明治二十一年八月六日
勅令第六十一號

朕地方税中警察費ニ對スル國庫下渡金改定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治十四年二月第十六號布告府縣警察費ニ對スル國庫下渡金ノ割合左ノ通改定ス

第一條 地方税中警察費及警察廳舎建築修繕費ニ對スル國庫下渡金ノ割合ハ東京府ハ其總高ノ拾分ノ

四トシ其他ノ府縣(沖繩縣ヲ除ク)ハ六分ノ一トス

第二條 前條割合ノ外警察官吏並ニ之ニ準スヘキ備内外國人ノ諸給與警視廳ノ廳費ハ從前ノ通國庫ヨリ支給ス

第三條 本令ハ明治二十二年度ヨリ施行ス

○請願巡查經費ニ關スル件 明治二十三年十月二十三日
内務省訓令第三十八號

明治十四年四月内務省乙第二十二號達銀行又ハ諸會社其他ヨリ請願ニ依リ配置スル巡查ハ地方税支辨ニ屬スル巡查ヲ以テ之ニ充テ其請願者ヨリ納ムヘキ費用ハ府縣會ノ決議ヲ經其額ヲ定メテ徵收シ地方税雜收入ニ編入警察費ニ支出スヘシ

○地方税ニ關スル寄附及雜收入ハ府縣會ノ議定ニ付スル件

明治二十年十一月四日
勅令第五十六號

朕地方税ニ關スル寄附及雜收入ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 地方税ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關シ寄附スル金穀物件ハ府縣會ノ議決ヲ經テ寄附者ノ指定シタル費途又ハ使用ニ充ツヘシ

第二條 地方税ノ雜收入ハ他ノ收入豫算ト同シク府縣會ノ議定ニ付スヘシ

第三條 本令ハ明治二十一年度ヨリ施行ス

○地方税ヲ以テ施行スヘキ事業ニ對シ寄附スル金穀物件使用方ノ件

明治十五年十二月二十七日
内藏達乙第七十五號

地方税規則ニ依リ兩卿へ報告ノ件 府縣警察費ニ對シ國庫下渡金ノ割合 請願巡查經費ニ關スル件
地方税ニ關スル寄附及雜收入ハ府縣會ノ議定ニ付スル件
地方税ヲ以テ施行スヘキ事業ニ對シ寄附スル金穀物件使用方ノ件

地方税ヲ以施行スヘキ事業ニ對シ寄付スル金穀物件ハ地方税豫算ニ編入セス直ニ寄付者指定ノ費途ニ
仕拂及使用ス可シ此旨相達候事
但從前ノ令達訓示本文ニ牴觸スルモノハ消滅ス

○地方税ノ支辨ニ係ル道路ノ並木枯損木拂代金及寄附金ノ件

明治二十年十一月五日
内務省令第三號

- 一 地方税ノ支辨ニ係ル道路ノ並木枯損木拂代金ハ明治二十一年度ヨリ該年度地方税土木費雜入ニ組
入レ並木植續費ハ該土木費ヨリ支出ス可シ
- 一 地方税ヲ以テ支辨ス可キ事業ニ關スル寄附金ノ支出豫算議案及精算報告書式ハ明治二十一年度ヨ
リ警察費國庫下渡金ノ例ニ準シ寄附者指定ノ費目ニ於テ地方税ト寄附金ト内譯ヲ爲ス可シ
- 一 物件ノ寄附又ハ年賦寄附等ニシテ通常豫算ニ編入シ難キモノハ便宜別議案ヲ以テ議定ニ附スルコ
トヲ得
- 一 明治十五年ハ十二内務大藏兩省乙第七拾貳號達地方税收入豫算議案並請算報告書式中戸數割ノ次合
計以下明治二十一年度ヨリ左ノ通改正ス
(書式畧ス)

○地方税ニ對シ金穀物件ヲ寄附シタル者ノ處分方

二十二年三月二十七日
内務省訓令二三六號

地方税ニ對シ金穀物件ヲ寄附シタルモノ其寄附者指定ノ事業又ハ費途ノ廢絶シタル場合ニ於テ其金穀
物件ハ自今左ノ各項ニ依リ處分セラルヘシ

- 第一 一旦使用ノ後寄附者指定ノ事業又ハ費途ノ廢絶シタル場合ニ於テハ府縣會ノ議決ニ依リ其事業
又ハ費途ニ最モ近似ノ事業ニ充用シ若クハ寄附者ニ還付スルコトヲ得
同上ノ金穀物件ニシテ未タ使用スルニ至ラスシテ寄附者指定ノ事業又ハ費途ノ廢絶シタル場合ニ於
テハ之ヲ寄附者ニ還付スヘシ
- 第二 元金又ハ原物ヲ委託シ其收得ヲ寄附シタルモノ若クハ元金又ハ原物ヲ据置トナシ其收得ヲ使用
スルノ方法ヲ以テ元金又ハ原物ヲ寄附シタルモノ其事業又ハ費途ノ廢絶シタル場合ニ於テハ其元金
又ハ原物ハ之ヲ寄附者ニ還付シ其現存ノ收得又ハ之ヲ以テ支辨シタル物件ハ前項ニ依リ處分ス
- 第三 寄附ノ金穀物件ニシテ其處分方ニ付特別ノ約束ヲ付セルモノハ各其約束ニ依ル
- 第四 區町村費ノ支辨ニ係ル事業ニ對スル寄附ノ金穀物件ノ處分モ本訓令ニ準ス

○府縣委託金ヲ地方税經濟ニ移スノ件

明治二十三年三月二十七日
勅令第六十六號

朕府縣委託金ヲ地方税經濟ニ移スノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 從來府縣廳ニ存在スル府縣委託金及之ニ屬スル財産ハ明治二十三年三月三十一日ノ現況ヲ以
テ其府縣ノ地方税經濟ニ下付スヘシ
- 第二條 府縣委託金ニ關シ從前府縣知事ニ於テ契約シタルモノハ其契約ヲ繼續シ從前府縣知事ヨリ發

地方税ノ支辨ニ係ル道路ノ並木枯損木拂代金及寄附金ノ件
地方税ニ對シ金穀物件ヲ寄附シタル者ノ處分方 府縣委託金ヲ地方税經濟ニ移スノ件

シタル命令ハ之ヲ履行スヘシ府縣會ノ議決ニ依ルモ内務大藏農商務三大臣ノ認許ヲ經ルニ非サレハ之カ命令ヲ變更スルコトヲ得ス

第三條 元金ハ務メテ之ヲ保存スヘシ府縣會ノ議決ニ依ルモ内務大藏農商務三大臣ノ認許ヲ經ルニ非サレハ之ヲ支消スルコトヲ得ス

第四條 元金ヨリ生スル利子ハ府縣會ノ議決ニ依リ公共ノ勸業費途ニ充用シ又ハ之ヲ蓄積スルコトヲ得

第五條 府縣委托金中獻金又ハ寄附金等ヨリ成立ツモノニシテ當初使用ノ途ヲ指定シタルモノハ將來ト雖モ其使用ノ途ヲ變スルコトヲ得ス

第六條 府縣委托金ノ種類ハ大藏大臣之ヲ府縣ニ達スヘシ

○地方稅經濟ニ於テ非常災害ノ爲メニ要スル土木費借入ノ件

明治二十三年二月二十日
法律第三號

朕地方稅經濟ニ於テ非常災害ノ爲メニ要スル土木費借入ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 府縣ニ於テ非常災害ノ爲メ臨時ノ土木費ヲ要シ一時地方稅ノ負擔ニ堪ヘ難キ場合ニ於テ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ取り内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ得十箇年以内ノ償還期限ヲ以テ借入金ヲナスコトヲ得

第二條 前條ノ借入金ヲ爲スニ當リ府縣會ノ議決ニ依リ内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ得テ其府縣ノ備荒

儲蓄金ヨリ其年度初現在高ノ三分一マテ借入ルコトヲ得但本條ノ借入金ニ對シテモ相當ノ利息ヲ拂フヘキモノトス

第三條 借入金ノ認可ヲ得ントスルトキハ府縣會ノ議決ヲ經タル借入ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲモ併セテ内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

○府縣制施行ノ地方ニ限り同上法律廢止ノ件

明治廿三年八月廿七日
法律第七十四號

朕明治廿三年法律第三號ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治廿三年一月法律第三號ハ府縣制施行ノ地方ニ限り之ヲ廢止ス但シ府縣制施行以前法律第三號第二條ニ依リ既ニ備荒儲蓄金ヨリ借入ノ契約ヲ爲シ未タ其借入ヲ了セサルモノハ其契約ヲ繼續スルコトヲ得

○貸座敷引手茶屋娼妓ノ賦金編入及支辨方

二十一年八月七日
閣令第十二號

貸座敷引手茶屋娼妓ノ賦金ハ府縣知事ニ於テ適宜ニ之ヲ賦課シ地方稅雜收入ニ編入スヘシ
警察機密費(高等警察ニ關スルモノヲ除ク)ハ警察費中ノ一科目トシ檢徴費ハ衛生病院費中ノ一科目トシ地方稅ヨリ支辨ヘスシ

地方經濟ニ於テ非常災害ノ爲メニ要スル土木費借入ノ件 府縣制施行ノ地方ニ限り同上法律廢止ノ件

○右閣令十二號施行期限 二十一年八月十日
閣令第十三號
本年閣令第十二號ハ明治二十二年度ヨリ施行ス

○地方稅又ハ區町村費ノ支辨ニ係ル堤塘使用料等取扱方

明治二十一年七月十七日
內務省訓令第十七號

地方稅又ハ區町村費ノ支辨ニ係ル堤塘使用料及道路並木布貸渡料其他同上ノ並木及堤塘道路用惡水路土居布等ニ屬スル竹木拂代金ハ左項ニ準シテ取扱フヘシ

- 但本文ニ牴觸セシ從前ノ指令訓令ハ取消ス
- 一 修繕費ノ全部ヲ地方稅ヨリ支辨スル箇所ノ收入ハ地方稅ヘ其區町村費ヨリ支辨スル箇所ノ收入ハ區町村費ヘ毎年度ニ於テ編入セシムヘシ
- 一 修繕ハ區町村費ノ主擔ニシテ地方稅ノ補助ニ係ル箇所ノ收入ハ區町村費ヘ編入セシムヘシ
- 一 地方稅ト區町村費ト修繕ノ主擔ヲ定メスシテ分擔支辨ニ係ル箇所ノ收入ハ其支出金額ノ歩合ニ隨ヒ編入セシムヘシ
- 一 地方稅ト區町村費ト年々修繕負擔ヲ異ニスル箇所ノ收入ハ該年度負擔ノ方ニ編入セシムヘシ
- 一 區町村費ノ支辨ニ係ル堤塘道路用惡水路土居敷修繕費及並木植繼及保護費ハ區町村費中土木費ヨリ支出セシムヘシ
- 一 前各項ノ收入金ニシテ府縣廳ヘ積置タル分ハ前各項ニ準據シ本年度中悉皆交付スヘシ

○地方稅及備荒儲蓄金滯納處分ノ件 明治二十二年十二月二十八日
法律第三十三號

朕地方稅及備荒儲蓄金滯納者處分ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方稅及備荒儲蓄金ヲ滯納スル者ハ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スヘシ但備荒儲蓄金ヨリ給與補助若クハ貸與ヲ受ル者ハ備荒儲蓄金ヲ免除スヘシ
明治十三年十一月第五十號布告ハ廢止ス

○地方稅市稅町村稅滯納處分取扱方 明治二十三年四月二十四日
內務省訓令第二八三號

明治二十二年^{十二}月^{十二}法律第三十二號ニ依リ地方稅及市稅町村稅滯納處分ニ付取扱方左ノ通心得ラルヘシ

- 第一條 國稅滯納處分法第二條其他ニ掲クル收入官吏ノ事務ハ地方稅ハ郡市長(島嶼ハ)市稅ハ市參事會町村稅ハ町村長ニ於テ取扱フヘシ但地方稅滯納督促令狀ハ場合ニヨリ町村長(町村制ヲ實施セサル土地)戸長(セサル土地)ヲシテ之ヲ發セシムルヲ得
- 第二條 國稅滯納處分法第十二條ノ財產差押命令書ハ地方稅ハ郡市長(島嶼ハ)ヲシテ之ヲ發セシメ市稅ハ市參事會町村稅ハ町村長ヨリ之ヲ發スヘシ
- 第三條 島嶼及市役所ニ於テ處分スル地方稅滯納處分費ハ各々其經費所屬ノ經濟ヘ收入スヘシ但シ町村長戸長ヲシテ督促令狀ヲ發セシメタルトキハ其手数料ハ該町村ヘ收入スヘシ

右閣令第十二號施行期限 地方稅又ハ區町村費ノ支辨ニ係ル堤塘使用料等取扱方
地方稅及備荒儲蓄金滯納處分ノ件 地方稅市稅町村稅滯納處分取扱方

第四條 國稅滯納處分法第四十條ノ買受望人ナキ物件ノ買上ケ代金ハ特ニ費目ヲ設ケス地方稅ハ地方
稅取扱費ヨリ市町村稅ハ雜支出ヨリ支辨スヘシ

第五條 國稅滯納處分法第十一條ノ囑托ハ市參事會及ヒ町村長ニ在テハ經由ヲ要セス直チニ他ノ市參
事會及ヒ町村長ニ囑托スヘシ

第六條 市町村稅ノ督促ニ關スル規定ハ市制町村制第二百二條ニ依ルヘシ

第七條 各滯納稅金扣除ヲ要スルトキノ順序ハ從來ノ例ニ據リ取扱フヘシ

○沖繩縣及小笠原島地方費ノ件 明治二十三年五月二十一日
法律第三十七號

朕沖繩縣及小笠原島地方費ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

沖繩縣及小笠原島ノ地方經濟ニ屬スル費用ハ其地方人民ノ負擔スルモノヲ除クノ外從前ノ通り國庫ヨ
リ之ヲ支辨ス

○備荒儲蓄法 明治十三年六月十五日
太政官布告第三十一號

備荒儲蓄法別紙之通相定來ル十三年度(明治十四年一月一日)ヨリ施行候條明治八年七月第百二十二號達窮民一時救
助規則及同十年九月第六十二號布告凶歲租稅延納規則ハ右施行ノ期日ヨリ廢止トス此旨布告候事
備荒儲蓄法

第一條 備荒儲蓄金ハ非常ノ凶荒不慮ノ災害ニ罹リタル窮民ニ食料小屋掛料農具料種穀料ヲ給シ又罹
災ノ爲メ地租國稅ノ額ヲ納ムル能ハサル者ノ租額ヲ補助シ或ハ貸與スルモノトス

第二條 備荒儲蓄金ヲ分ツテ中央儲蓄金府縣儲蓄金ノ二トス

中央儲蓄金ハ明治二十二年度迄ノ中央儲蓄金及ヒ之ヨリ生スル利殖金ヲ以テ成立スルモノトス
府縣儲蓄金ハ明治二十二年度迄ノ府縣儲蓄金及ヒ之ヨリ生スル利殖金ヲ以テ成立スルモノトス(廿三
年法律第五號ヲ以テ改正)

第三條 中央儲蓄金ハ國庫ニ備置キ大藏大臣之ヲ管理シ府縣儲蓄金ノ補助ニ充ツヘキモノトス(廿三年
法律第五號ヲ以テ改正)

第四條 府縣儲蓄金ノ管守支給及利殖ノ方法ハ府縣知事之ヲ府縣會ニ付シ其議決ヲ取り内務大藏兩大
臣ニ具狀シ其許可ヲ得テ之ヲ施行スヘシ(二十三年法律第五號ヲ以テ改正)

第五條 (廿三年法律第五號
ヲ以テ本條刪除)

第六條 府縣會ニ於テ議決スル儲蓄金支給ノ方法ハ左ノ制限ヲ超ユヘカラス

第一 食料ヲ給スルハ罹災ノ爲メ自ラ生存スル能ハサル者ニ限り其日數ハ三十日以内トス又同上ノ
窮民ニ小屋掛料ヲ給スルハ一戸拾圓以内農具料種穀料ヲ給スルハ一戸貳拾圓以内トス

第二 地租ヲ補助及ヒ貸與スルハ罹災ノ爲メ土地家屋ヲ賣却スルニアラサレハ地租ヲ納ムル能ハサ
ル者ニ限ル

第七條 各府縣窮民ノ救助地租ノ補助及ヒ貸與ノ金額府縣ノ儲蓄金百分ノ五以上(廿三年法律第五
號ヲ以テ改正)ヲ供

用支出スルトキハ府知事(縣令)ノ具申ニ依リ内務大藏兩卿ノ協議ヲ以テ中央儲蓄金ヨリ補助スヘシ
第八條 從前人民公儲ノ儲蓄金アル府縣郡區町村ハ之ヲ以テ今般施行スル所ノ備荒儲蓄金ニ補充スル

コトヲ得

第九條 各府縣内儲蓄金ノ出納ハ「大藏卿」歳次或ハ臨時ニ之ヲ検査スヘシ

第十條 府縣知事ハ府縣儲蓄金ノ出納決算ヲ翌年度通常府縣會ノ初メニ於テ府縣會ニ報告シ仍ホ内務

大藏兩大臣ニ報告スヘシ

大藏大臣ハ毎年中央及ヒ府縣儲蓄金ノ出納決算ノ要領ヲ告示スヘシ(廿三年法律第五號ヲ以テ改正)

第十一條 此方法ハ二十箇年間施行スルモノトス滿期ノ後ニ至リ各府縣ニ存在スル儲蓄金ハ府縣會ノ

議決ヲ以テ其保存方法ヲ定ムヘシ

附則

本法改正ノ爲メ府縣儲蓄金明治二十三年度内ニ於テ施行スヘキ利殖ノ方法ヲ定メ及ヒ收入豫算又ハ管

守支給ノ方法ニ改正ヲ要スルトキハ府縣知事ハ常置委員會ニ付シ之ヲ議決セシムルコトヲ得(廿三年法律第五號ヲ以テ追加)

○備荒儲蓄金取扱順序 明治二十三年三月十四日 大藏省訓令第三十四號

備荒儲蓄金取扱順序明治二十三年度以降左ノ通心得ヘシ

但收支科目及報告書式ハ別ニ頒ツ(舊式ヲス)

備荒儲蓄金取扱順序

第一條 備荒儲蓄法第四條ニ因リ府縣儲蓄金ノ管守支給及利殖ノ方法ヲ定メ許可ヲ得タルトキハ府縣知事ハ該年度ノ收支概計書別紙第一號ノヲ以テ公債ノ國債ト改ム製シ前年度三月末日マテニ大藏大臣ヘ差出スヘシ(廿七年大藏省訓令第十

二號ヲ以テ改正

第二條 府縣儲蓄金ノ内現金ヲ銀行等ヘ預ケ入ヲナストキハ其金額ニ對スル抵當ヲ要スヘキハ勿論其

抵當ハ國債證書ヲ取置クヘシ(二十六年大藏省訓令第八號)

第三條 地租ノ貸與金ヲ受ケタルモノ不慮ノ災害ニ遭遇シ返納シ能ハサルトキハ之ヲ猶豫シ又ハ免除

スルノ方法ヲ設ケントスルトキハ府縣會ニ於テ議定セシムヘシ

第四條 地租ノ貸與金ヲ受タルモノ其返納年限内ニ於テ利引ヲ以テ一時上納ナシムル爲メ該府縣儲

蓄金利子平均ノ分合ニ準シ利引ノ方法ヲ設ケントスルトキハ府縣會ニ於テ議定セシムヘシ

第五條 米穀ヲ貯積スル爲メ倉庫ヲ建築シ及借庫料番人給料等ニ係ル諸費用都市町村吏旅費ノ如キハ此限ニアラス

並米穀國債證書ノ賣買等ニ關スル諸雜費及損失ヲ府縣儲蓄金ノ内ヨリ支辨スルノ方法ヲ設ケントス

ルトキハ府縣會ニ於テ議定セシムヘシ(第二條ニ全シ)

第六條 備荒儲蓄法第七條ニ依リ中央儲蓄金ノ補助ヲ請求セントスルトキハ府縣知事ハ災害ノ景況ヲ

具シ第四號第五號第六號書式ノ計算書ヲ添ヘ内務大藏兩大臣ニ稟請スヘシ(第一條ニ全シ)

第七條 中央儲蓄金ヨリ補助ヲ要シタルトキハ府縣知事ハ其顛末ヲ管下ヘ告示スヘシ

第八條 凡府縣儲蓄金ノ出納ハ每半期報告書別紙第二號ノヲ以テ公債ノ國債ト改ム製シ上半期ハ十月中下半期ハ翌年四月中其

地ヲ發シ大藏大臣ヘ差出スヘシ

第九條 府縣儲蓄金ノ出納ハ便宜ニ從ヒ出納簿現金米穀國債證書等ノ受拂ヲ總括スルモノヲ云フ及内譯簿現金米穀國債證書ノ所在ヲ分チ或

明カニスルヲ製シ置キ常ニ其會計ヲシテ明瞭ナラシムヘシ(第二條ニ全シ)

第十條 備荒儲蓄法第十條ニ因リ府縣儲蓄金ノ精算報告書別紙第三號ノヲ以テ公債ノ國債ト改ム製シ府縣會ヘ報告ノ後内務大

藏兩大臣ヘ差出スヘシ

第十一條 府縣知事ハ府縣儲蓄金ノ年度首現在高表(第七號書式)ヲ調製シ年度首メヨリ五日以内ニ其地ヲ發シ之ヲ大藏大臣ヘ差出スヘシ(第一條ニ全シ)

第十二條 府縣儲蓄金或ハ貯積米ノ検査ハ大藏省派出官吏ノ便宜ニ因リ府縣知事ヘ通牒セス直ニ其所在ニ就キ検査スルコトアルヘシ尤此場合ニ於テハ派出官吏ハ大藏大臣ノ命令書ヲ携帶スルモノトス

第十三條 備荒儲蓄法第四條ニ依リ規定スル府縣儲蓄金施行規則ノ外別ニ儲蓄金ニ關スル出納規程及救與内規ノ類ヲ設ケ若クハ之レヲ變更スルトキハ之ヲ内務大藏兩大臣ニ報告スヘシ(二十七年大藏省訓令第十二號ヲ以テ加道)

(書式略ス)

○米穀供給ノ爲メ中央備荒儲蓄金運用ノ件 明治二十三年四月三十日 法律第三十三號

朕米穀供給ノ爲メ中央備荒儲蓄金運用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ハ國內米穀供給ノ爲メ必要アルトキハ中央備荒儲蓄金ヲ以テ米穀購入ノ資金ニ運用スルコトヲ得此場合ニ於ケル損益ハ中央備荒儲蓄金ノ負擔トス

警察監獄

○保安條例 明治二十年十二月廿五日 勅令第六十七號

朕惟フニ今ノ時ニ當リ大政ノ進路ヲ開通シ臣民ノ幸福ヲ保護スル爲ニ妨害ヲ除去シ安寧ヲ維持スルノ必要ヲ認メ茲ニ左ノ條例ヲ裁可シテ之ヲ公布セシム

保安條例

第一條 凡ソ秘密ノ結社又ハ集會ハ之ヲ禁ス犯ス者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其首魁及教唆者ハ二等ヲ加フ

第二條 屋外ノ集會又ハ群集ハ豫メ許可ヲ經タルト否トヲ問ハス警察官ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違フ者首魁教唆者及情ヲ知リテ參會シ勢ヲ助ケタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其附和隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條 内亂ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ文書又ハ圖書ヲ印刷又ハ板刻シタル者ハ刑法又ハ出版條例ニ依リ處分スルノ外仍其犯罪ノ用ニ供シタル一切ノ器械ヲ沒收スヘシ印刷者ハ其情ヲ知ラサルノ故ヲ以テ前項ノ處分ヲ免ル、コトヲ得ス

第四條 皇居又ハ行在所ヲ距ル三里以内ノ地ニ住居又ハ寄宿スル者ニシテ内亂ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルトキハ警視總監又ハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ經期日又ハ時間ヲ限リ退去ヲ命シ三年以内同一ノ距離内ニ出入寄宿又ハ住居ヲ禁スルコトヲ得

第五條 皇居又ハ行在所ヲ距ル三里以内ノ地ニ住居又ハ寄宿スル者ニシテ内亂ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルトキハ警視總監又ハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ經期日又ハ時間ヲ限リ退去ヲ命シ三年以内同一ノ距離内ニ出入寄宿又ハ住居ヲ禁スルコトヲ得

第六條 皇居又ハ行在所ヲ距ル三里以内ノ地ニ住居又ハ寄宿スル者ニシテ内亂ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルトキハ警視總監又ハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ經期日又ハ時間ヲ限リ退去ヲ命シ三年以内同一ノ距離内ニ出入寄宿又ハ住居ヲ禁スルコトヲ得

第七條 皇居又ハ行在所ヲ距ル三里以内ノ地ニ住居又ハ寄宿スル者ニシテ内亂ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルトキハ警視總監又ハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ經期日又ハ時間ヲ限リ退去ヲ命シ三年以内同一ノ距離内ニ出入寄宿又ハ住居ヲ禁スルコトヲ得

退去ノ命ヲ受ケテ期日又ハ時間内ニ退去セサル者又ハ退去シタルノ後更ニ禁ヲ犯ス者ハ一年以上三
年以下ノ輕禁錮ニ處シ仍五年以下ノ監視ニ附ス

監視ハ本籍ノ地ニ於テ之ヲ執行ス

第五條 人心ノ動亂ニ由リ又ハ内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲ス者アルニ由リ治安ヲ妨害スルノ虞アル地方
ニ對シ内閣ハ臨時必要ナリト認ムル場合ニ於テ其ニ地方ニ限リ期限ヲ定メ左ノ各項ノ全部又ハ一部
ヲ命令スルコトヲ得

一 凡ソ公衆ノ集會ハ屋內屋外ヲ問ハス及何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ豫メ警察官ノ許可ヲ經
サル者ハ總テ之ヲ禁スル事

二 新聞紙及其他ノ印刷物ハ豫メ警察官ノ檢閲ヲ經スシテ發行スルヲ禁スル事

三 特別ノ理由ニ因リ官廳ノ許可ヲ得タル者ヲ除ク外銃器短銃火藥刀劍仕込杖ノ類總テ携帶運搬販
賣ヲ禁スル事

四 旅人ノ出入ヲ檢査シ旅券ノ制ヲ設クル事

第六條 前條ノ命令ニ對スル違反者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處
ス其刑法又ハ其他特別ノ法律ヲ併セ犯シタルノ場合ニ於テハ各本法ニ照シ重キニ從ヒ處斷ス

第七條 本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○豫戒令 明治二十五年一月二十八日
勅令第十一號

朕公共ノ安寧秩序ヲ保持スル爲メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ豫戒令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

豫戒令

第一條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持スル爲メ左ノ事項ニ該當スル者ト認
ムルトキハ豫戒命令ヲ爲スコトヲ得

一 一定ノ生業ヲ有セス平常粗暴ノ言論行爲ヲ事トスル者

二 總テ他人ノ開設スル集會ヲ妨害シ又ハ妨害セントシタル者

三 公私ヲ問ハス他人ノ業務行爲ニ干渉シテ其自由ヲ妨害シ又ハ妨害セントシタル者

四 第二號又ハ第三號ニ掲クル妨害ヲ爲スノ目的ヲ以テ第一號ヨリ第三號マテニ記載シタル者ヲ使
用シタル者

第二條 豫戒命令ハ左ノ如シ

一 一定ノ期限内ニ適法ノ生業ヲ求メテ之ニ従事スヘキコトヲ命ス

二 總テ他人ノ開設スル集會ニ立入り妨害ヲ爲スヘカラサルコトヲ命ス

三 如何ナル口實ニ拘ハラズ財物ヲ強請シ不當ノ要求ヲ爲シ強テ面會ヲ求メ脅迫ニ涉ル書面ヲ用キ
勸告書ヲ送り又ハ如何ナル方法タルヲ問ハス暴威ヲ示シテ他人ノ進退意見ヲ變更セシメントシ
其他他人ノ業務行爲ヲ妨害シ又ハ妨害セントスルノ所行ヲ爲スヘカラサルコトヲ命ス

四 人ヲ使用シテ總テ他人ノ開設シタル集會ヲ妨害シ又ハ妨害セントシ又ハ他人ノ業務行爲ニ干渉
シテ其自由ヲ妨害シ又ハ妨害セントスルノ所行ヲ爲サシメサルコト及ヒ豫戒命令ヲ受ケタル者
ヲ扶助シ又ハ使用スヘカラサルコトヲ命ス但シ親族ノ故ヲ以テ之ヲ扶助スル場合ハ此ノ限ニ在
ラス

前條第一號ニ該當スル者ニ對シテハ第一號第二號第三號ノ事項ヲ併セテ命令シ前條第二號第三號ニ該當スル者ニ對シテハ第二號第三號ノ事項ヲ併セテ命令シ前條第四號ニ該當スル者ニ對シテハ第四號ノ事項ヲ命令ス

第三條 豫戒命令ヲ受ケタル者其現住居ヲ轉スルトキハ轉居ノ前二十四時間内ニ其旨ヲ舊住居ノ所轄警察署ニ届出テ轉居ノ後二十四時間内ニ其旨ヲ新住居ノ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第四條 豫戒命令ヲ受ケタルヨリ三年以内ニ其命令又ハ第三條ノ規程ニ違犯シタル者ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ處罰ス

第二條第一號ノ違犯者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上二圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二條第二號ノ違犯者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス

第二條第三號ノ違犯者ハ一月以上四月以下ノ重禁錮ニ處ス其所犯官吏又ハ公吏ノ職務ニ對スルトキハ一等ヲ加フ

第二條第四號ノ違犯者ハ二月以上六月以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條ノ犯違者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 豫戒命令ヲ爲スニハ命令書ヲ作り其命令ヲ受クル者ノ氏名年齢身分職業本籍住所第一條第何號ニ該當スル者タルコト第二條ニ記載シタル命令第三條ノ全文第四條ニ記載シタル違犯者ノ罰例並ニ命令ヲ爲シタル年月日警視總監北海道廳長官府縣知事官氏名ヲ記載シテ本人ニ下付シ同時ニ之ヲ其地方ニ於テ公布ス

第六條 豫戒命令ヲ受ケタル者一年以上ヲ經過シ悔改ノ情狀著シキトキハ警視總監北海道廳長官府縣知事ニ於テ其命令ヲ解除スルコトヲ得此場合ニ於テハ同時ニ之ヲ其地方ニ於テ公布ス

第七條 豫戒命令ヲ受ケタル者ヲ止宿又ハ同居セシムル者ハ二十四時間内ニ其旨ヲ所轄警察署ニ届出テ又所轄警察署ノ要求アルトキハ本令ノ施行ニ關スル事項ニ付事實ノ申立ヲ爲スヘシ若シ其届出ヲ怠リ又ハ不實ノ申立ヲ爲シタルトキハ三圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 豫戒命令違犯ノ刑ハ其本住所ノ地ノ所屬監獄ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得

第九條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○決闘罪ニ關スル件 明治二十二年十二月二十八日

法律第三十四號

朕決闘罪ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 決闘ヲ挑ミタル者又ハ其挑ニ應シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 決闘ヲ行ヒタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 決闘ニ依テ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第四條 決闘ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲スコトヲ約シタル者ハ證人介添人等何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

情ヲ知テ決闘ノ場所ヲ貸與シ又ハ供用セシメタル者ハ罰前項ニ同シ

第五條 決闘ノ挑ニ應セサルノ故ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ刑法ニ照シ誹毀ノ罪ヲ以テ論ス

第六條 前數條ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ其重キモノハ重キニ從テ處斷ス

○集會及政社法 明治二十六年四月十三日
法律第十四號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル集會及政社法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

○集會及政社法

第一條 此ノ法律ニ於テ政談集會ト稱フルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス政治ニ關ル事項ヲ講談論議スル爲公衆ヲ會同スルモノヲ謂フ政社ト稱フルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス政治ニ關ル事項ヲ目的トシテ團體ヲ組成スルモノヲ謂フ

第二條 政談集會ニハ發起人ヲ定ムヘシ

政談集會ヲ開クトキハ發起人ヨリ開會二十四時間以前ニ會場所在地ノ管轄警察官署ニ届出ヘシ
政談集會ノ届出ニハ左ノ事項ヲ記載シ發起人署名捺印スヘシ

- 一 集會ノ場所
 - 二 集會ノ年月日時
 - 三 發起人ノ氏名、住所
 - 四 講談論議者ノ氏名
- 前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領收證ヲ交付スヘシ
届書ニ記載シタル時刻ヨリ三時間ヲ過キテ開會セス若ハ三時間以上中斷スルトキハ届出ノ效ヲ失フモノトス

法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲ニ選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スル者ニ限リ會同スル所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前五十日間ハ第二項ノ届出ヲ要セス

第三條 屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ若ハ多衆運動セムトスルトキハ發起人ヨリ二十四時間以前ニ會同スヘキ場所、年月日時及其ノ通過スヘキ路線ヲ管轄警察官署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ但シ祭葬、講社、學生生徒ノ體育運動其ノ他慣例ノ許ス所ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス

屋外ニ於テ政談集會ヲ開キ又ハ政治ニ關ル意思ヲ表スルノ目的ヲ以テ公衆ヲ會同スルハ堅固ナル屏障ヲ設ケ自由ノ交通ヲ遮斷シタル地域内ニ限ルモノトス

警察官署ハ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ何等ノ場合ニ拘ラス屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ禁止スルコトヲ得

第四條 帝國議會開會ヨリ閉會ニ至ルノ間ハ議院ヲ距ル三里以内ニ於テ屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ第三條第一項ノ但書ハ本條ニ於テモ之ヲ適用ス

第五條 左ニ掲クル者ハ政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス

- 一 日本臣民ニ非サル者
 - 二 公權剝奪及停止中ノ者
- 第六條 左ニ掲クル者ハ政談集會ニ會同シ若ハ其ノ發起人タルコトヲ得ス
- 一 現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍人
 - 二 警察官

- 三 官立公立私立學校ノ教員學生生徒
- 四 女子

五 未成年者

法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲ニ開ク所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前五十日間ハ選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スル者ニ限リ本條ノ制限ニ依ルヲ要セス

第七條 政談集會ニ於テハ日本臣民ニ非サル者ヲシテ講談論議者タラシムルコトヲ得ス

第八條 警察官署ハ制服ヲ著シタル警察官ヲ派遣シ政談集會ニ臨監セシムルコトヲ得

發起人ハ臨監警察官ニ其ノ求ムル所ノ席ヲ供シ且集會ニ關ル事項ニ付尋問アルトキハ之ニ答フヘシ
政談集會ニアラサルモ其ノ狀況安寧秩序ヲ妨害スルノ虞アリト認ムル集會ニハ第一項ノ臨監ヲ爲スコトヲ得

第九條 集會及運動ニハ戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ會同スルコトヲ得ス但シ制規ニ依リ戎器ヲ携帯スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 集會ニ於テ罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑律ニ觸レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ又ハ賞恤シ又ハ犯罪ヲ教唆スルノ談論ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 會場ニ於テ故ラニ喧擾ヲ爲シ又ハ狂暴ニ涉ル者アルトキハ警察官ハ之ヲ制止シ其ノ命ニ從ハサルトキハ會場外ニ退出セシムルコトヲ得

第十二條 集會ニ於テ講談論議安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ警察官ハ其ノ人ノ講談論議ヲ停止スルコトヲ得

第十三條 警察官ハ左ノ場合ニ於テ集會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

- 一 集會ノ成立此ノ法律ニ背キタルトキ
- 二 警察官ノ臨監ヲ拒ミ又ハ其ノ求ムル所ノ席ヲ供セス又ハ其ノ尋問ニ答ヘサルトキ

三 會衆騷擾ニ涉リ警察官之ヲ制止スルモ鎮靜セサルトキ

四 第六條第九條ノ違犯者多數ニシテ警察官ヨリ退場ヲ命スルモ其ノ命ニ從ハサルトキ

五 集會ノ狀況安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキ

第十四條 第二條ノ届出ヲ爲サスシテ政談集會ヲ開キタルトキハ發起人ヲ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發起人罰前項ニ同シ

第十五條 第三條ノ認可ヲ受ケスシテ集會若ハ運動ヲ爲シタルトキハ發起人ヲ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

罰金ニ處ス

第十六條 第四條ヲ犯シタルトキハ發起人ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 第五條第六條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條ヲ犯シタル發起人又ハ政談集會ニ會同スルコトヲ得サル者ヲ勸誘シテ會同セシメタル發起人ハ罰前項ニ同シ

第十八條 第九條ヲ犯シタル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第十條ヲ犯シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 警察官ヨリ解散ヲ命セラレタル後仍退散セサル者又ハ退出ヲ命セラレタル後仍退出セサル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 政社ニハ社員名簿ヲ備ヘ及役員ヲ置クヘシ

政社ハ組成後三日以内ニ其ノ役員ヨリ社名、社則、事務所及役員ノ氏名ヲ其ノ事務所所在地ノ管轄警

察官署ニ届出ヘシ其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領收證ヲ交付スヘシ

役員ハ其ノ政社ニ關ル事項ニ付警察官ヨリ尋問アルトキハ之ニ答フヘシ

第二十二條 政社ニシテ政談集會ヲ開クトキハ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ會場及講談論議者ヲ豫定

シテ定期ニ集會スルモノハ之ヲ初期ノ開會二十四時間以前ニ届出ルトキハ爾後ノ例會ハ届出ヲ要セ

ス其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキハ仍第二條ノ手續ニ依ルヘシ

第二十三條 左ニ掲クル者ハ政社ニ加入スルコトヲ得ス

一 現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍中人

二 警察官

三 官立公立私立學校ノ教員學生生徒

四 女子

五 未成年者

六 公權剝奪及停止中ノ者

第二十四條 政社ニ於テハ日本臣民ニ非サル者ヲシテ加入セシムルコトヲ得ス

第二十五條 政社ハ標章及旗幟ヲ用キルコトヲ得ス

第二十六條 政社ハ他ノ政社ト連結スルコトヲ得ス

第二十七條 政社ニ於テハ法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ニ對シテ其ノ發言評決ニ付議會外ニ於テ

責任ヲ負ハシムルノ規定ヲ設クルコトヲ得ス

第二十八條 政社ニシテ支社ヲ設クルトキハ總テ政社ノ規定ニ依ル

第二十九條 結社ニシテ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ内務大臣ハ之ヲ禁止スルコトヲ得

第三十條 第二十一條ニ違フトキハ其ノ役員ヲ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセス又ハ尋問ヲ受ケテ答フルニ實ヲ以テセサル役員ハ罰前項ニ

同シ

第三十一條 第二十三條ニ背キ入社シタル者及入社セシメタル役員ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處

ス

第二十四條ヲ犯シタル役員ハ罰前項ニ同シ

第三十二條 第二十五條ニ背キ標章旗幟ヲ用キタル者及政社ノ役員ハ罰前條ニ同シ

第三十三條 第二十六條ヲ犯シタルトキハ其ノ役員ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十

圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第二十九條ノ禁止ノ命ニ從ハスシテ仍結社ノ實アル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ

十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條 此ノ法律ヲ犯シタル者ハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用非ス

第三十六條 此ノ法律ニ關スル公訴ノ時效ハ六箇月ヲ經過スルニ由テ成就ス

第三十七條 法律命令ニ定ムル所ノ集會ハ此ノ法律ニ依ルノ限ニ在ラス

○官吏職務外ノ演説及叙述ヲ許シ其取締方ヲ定ム

凡ソ官吏タル者ハ自今其職務外ト雖モ公衆ニ對シ政事上又ハ學術上ノ意見ヲ演説シ又ハ之ヲ叙述スル

二十二年一月二十四日
内閣訓令

コトヲ得但各長官ノ監督ニ從屬スヘシ
法律規則ヲ以テ特ニ制限セラレタル官吏ハ前項ノ限ニ在ラス

○銃砲取締規則 明治五年正月二十九日
太政官布告第二十八號

銃砲取締規則別紙之通被定候條來ル四月ヨリ規則之通可相守事

(別紙)

銃砲取締規則

第一則 大小銃并彈藥類商賣ノ儀ハ府縣共定員商賣ノ外取扱致間敷右定員ノ商賣ハ其地方官廳ニ於テ精選ノ上免許狀ヲ可差遣事

但東京大坂ノ儀ハ「武庫司」ニ於テ管轄スヘキ事

免許商賣ノ定員

- 一府下 各五員
- 一縣下 各三員
- 一鎮臺本分營下 各一員
- 但府縣廳下開港場等ニアルハ別ニ設ケス
- 一開港場 各五員

右免許差遣候商賣ノ姓名住所等東京「武庫司」へ届クヘキ事

第二則 免許商人タリトモ軍用ノ銃砲彈藥類ヲ竊ニ賣買不相成買渡候節ハ買主ヨリ官ノ免手形ヲ受

十七年第三十
一號布告ヲ以
テ火藥取締規
則ヲ制定ス故
ニ本則中彈藥
ニ關スル件ハ
總テ消滅スル
ニテテハ
八年第十號
銃砲取締ノ儀
省管理ニ屬ス
八年第十二號
布告ヲ以テ陸
軍省中武庫司
ヲ廢ス

八年內務省乙
第四百四號
達ヲ以テ管轄
ヨリノ届出ヲ
前後半年分チ
區別シ毎年一
月七月兩度ト
ナス

取其員數ヲ照シ賣渡可申又買入ノ節ハ其管廳へ願出免手形ヲ受其員數ヲ以テ買取可申事

但東京大坂ノ儀ハ「武庫司」へ願出事

免許商人ハ陸海軍准士官以上ノ武官ヨリ其所有ノ軍用銃并ニ其彈藥類ヲ買入レントスルトキハ買

入願書ニ其賣主ノ連署ヲ爲サシムヘキ事(十三年第八號布告ヲ以テ本項追加)

第三則 免許ノ商人其賣買ノ銃砲彈藥類ハ多少ヲ論セス買取賣渡共其主人ノ姓名其物品ノ員數等明

細附記シ軍用ノ物ハ免手形相添毎月其管廳へ可差出其廳ヨリ毎月十日ヲ限リ管轄「鎮臺」へ差送可申事

但「諸鎮臺」ヨリ毎歲正月七月兩度半ケ年明細帳ヲ以テ東京「武庫司」へ差送可申尤東京大坂ノ儀ハ

「武庫司」ニ於テ取締可致事

第四則 彈藥ノ儀ハ假令些少ノ品タリトモ唯便利ノミヲ計リ勝手ノ場所へ差置間敷兼テ其地方管廳へ

願出差圖ヲ受相圖可申事

但東京大坂ノ儀ハ「武庫司」へ願出ヘキ事

第五則 華族ヨリ平民ニ至ル迄免許銃類ヲ除クノ外軍用ノ銃砲並彈藥類ビストールニ至ル迄私ニ貯

蓄不相成就テハ是迄銘々所持致居候軍用銃砲ハ一々其管廳ニ持出東京大坂ハ武庫司へ持出別紙銃砲改刻印式ノ通

リ番號官印ヲ受可申他人へ譲リ與ヘ候節ハ第二則ノ手續ニ從フヘシ

「但彈藥買入致シ度者モ亦二則ノ通リタルヘシ」

銃砲改刻印ノ式

干支何番「武庫司」或ハ何府縣

右所持ノ人名番號等逐一書記シ置管轄「鎮臺」へ届出「鎮臺」ヨリ東京「武庫司」へ差送リ可申事

銃砲取締規則

免許ノ銃類

一 和銃四文目八分玉以下

一 各國諸獵銃

但西洋獵銃ノ儀ハ其玉目稍大ナレトモ霰彈ヲ用ユルモノハ之ヲ許ス

右獵用銃所持ノ者ハ其銃名員數等巨細附記シ其管應ヘ届出其應ヨリ東京「武庫司」ヘ差出可申東京大坂
所持ノ

六年第二十五
號布告八十年
第十一號布告
ヲ以テ改正

第六則六年第二十五號布告爲改換
免許取締規則ニ本則ヲ引換

第七則 銃砲「彈藥」下々ニ於テ猥リニ製造不相成候尤モ新ニ奇巧便利ヲ發明シ爲試製作致度者ハ其管
應ヘ相願管轄「鎮臺」ヘ届出免許ヲ可受事

但製作其宜キニ適ヒ最モ便利ナル者ハ「鎮臺」ヨリ「武庫司」ヘ差送リ検査ヲ遂ケ採用可相成分ハ西
洋免許ノ法ニ倣ヒ何分ノ御沙汰可有之事

是迄銃砲「并彈藥」類賣買致來候者ハ現今所持ノ物品員數等無遺漏書記シ管轄應ヘ爲差出其應ヨリ東京
「武庫司」ヘ可差出事

但東京大坂ノ儀ハ賣買ノ者ヨリ直ニ「武庫司」ヘ可届出事
右之通ニ候事

○銃砲取締規則違犯者處分

明治五年九月二十三日
太政官布告第二百八十二號
銃砲取締ノ儀ニ付別紙ノ通被相定候條此旨相達候事

(別紙)

一 銃砲取締規則ニ違銃砲「彈藥」類ヲ竊ニ所持シ且致取扱候者有之節ハ各地方ニ於テ其品取上ケ更ニ五
十錢ノ過料可申付候事

但取締向ニ關係無之者見當リ訴出候ニ付テハ犯人過料ノ半金ヲ可被下候事
一 免許ヲ得スシテ銃砲「彈藥」ヲ製造スル者ハ其品取上ケ更ニ三圓以内ノ過料可申付事(七年第百三十二號
布告ヲ以テ追加)

但書同前
右取上候品東京大坂ハ「武庫司」其他ハ所管ノ「鎮臺」ヘ可差出事

○石油取締規則

明治十六年二月十五日
太政官布告第六號
明治十四年八月第四十號及ヒ同年九月第五十號布告石油取締規則左ノ通改定ス

但施行日限ノ儀ハ明治十五年八月第四十四號布告ノ通タルヘシ
第一條 石油ヲ分テ二種トシ閉塞發焰試驗法ヲ用ヒ攝氏驗溫器三十度(攝氏八
十六度)以上ノ溫度ニ達セザレ
ハ發焰セザルモノヲ第一種トシ三十度ニ達セスシテ發焰スルモノヲ第二種トス

第二條 點燈用ニ供スルハ第一種ノ石油ニ限リ第二種ノ石油ハ醫療製藥調劑及ヒ物理學化學工藝上ニ
於テ業用ニ供スルノ外之ヲ用フルヲ許サス

第三條 石油營業者ヲ分テ礦業者精製者問屋及ヒ小賣商ノ四類トス其營業者ハ都テ管轄應東京府下
ハ警視廳ノ許
可ヲ受クヘシ但二類以上兼業スルトキハ別ニ其許可ヲ受クヘシ

第四條 石油ノ種類ハ内務卿ノ必要トスル地方ニ於テ検査員ヲシテ之ヲ検査セシムヘシ
銃砲取締規則違犯者處分 石油取締規則

刑法第二編第
三章第五節參
照

石油ハ検査済ノ證アルモノニアラサレハ之ヲ販賣スルヲ許サス但擴業者ヨリ精製者ニ販賣スルハ此限ニアラス

第五條 検査済ノ石油ヲ家屋内ニ貯藏スルヲ得ルハ第一種ノ石油五石以内第二種ノ石油五斗以内トシ容器ハ漏出ノ虞ナキ不燃質物ニ限ルヘシ

第六條 石油營業者前條制限外ノ石油并ニ検査未済ノ石油ヲ貯藏スル場所建物及ヒ精製所ノ構造方ハ都テ管轄廳東京府下ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 第二種ノ石油ハ精製者間屋ヨリ直ニ需用者ニ販賣シ小賣商ハ第一種ノ石油ニ限り販賣スルヲ得ルモノトス

第八條 第二種ノ石油ヲ販賣スル者ハ購買者ヨリ其數量及ヒ需用ノ趣意年月日住所氏名ヲ詳記シタル書付ヲ取り置キ一年間保存スヘシ但販賣時限ハ日出ヨリ日没マテトス

第九條 石油ヲ運搬スルトキハ其石油タルコトヲ表記スヘシ但其積卸ニ必用ナル時間ノ外物揚場又ハ路傍ニ置クヘカラス

第十條 此規則ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

○火藥取締規則 明治十七年十二月二十七日 太政官布告第三十一號

火藥取締規則別冊ノ通制定ス

但從前ノ成規中此規則ニ矛盾スルモノハ總テ廢止ス

(別冊)

火藥取締規則

第一章 總則

第一條 凡火藥劇發火藥烟火藥、ナイトロケリセオン、ダイナマイト、雷索、其他劇發質ノ物品ハ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス但烟火マツチノ類ハ此限ニ在ラス

第二條 火藥類烟火藥、ナイトロケリセオン、ダイナマイト、雷索、其他劇發質ノ物品ノ賣買營業ヲ爲サントスル者ハ管轄廳東京府ニ願出免許鑑札ヲ受ク可シ但營業者ハ一管内ニ十五人以内トス

第三條 火藥類ハ營業者ニ限り陸軍海軍兩省ヨリ其貯藏品ヲ拂下ク可キモノトス

第四條 管轄廳東京府ニ於テ火藥類ノ検査ヲ必要ト認ムル時ハ營業者タルト否トヲ問ハス警察官ヲシテ之ヲ検査セシムルコトアル可シ

第五條 戰時若クハ時變ニ際シテハ「陸軍卿海軍卿」ハ火藥類ノ拂下ケヲ停止シ「内務卿」ハ其賣買運搬ヲ停止スルコトアル可シ

第六條 火藥類ハ官許ヲ得ルニ非サレハ日出前日没後ニ於テ賣買運搬其他荷造等ヲ爲ス可カラス

第二章 賣買

第七條 營業者ハ毎月買受ケタル火藥類ノ種類數量ヲ記シ證書アレハ之ヲ添ヘ翌月十日迄ニ所轄警察署ニ届出ツ可シ

第八條 營業者ニ非スシテ所有ノ火藥類ヲ賣ラントスル者ハ營業者ニ之ヲ賣渡ス可シ營業者ハ其賣渡ノ證書ヲ取置ク可シ

第九條 營業者ハ銃砲用又ハ坑業土工烟火其他職業用ニ限り火藥類ヲ賣渡ス可キモノトス但十六歳未満若クハ白痴瘋癲ノ者ニハ之ヲ賣渡スコトヲ許サス

第十條 火藥類ヲ買受ントスル時銃獵若クハ烟火製造ノ免許ヲ得タル者ハ其免狀ヲ營業者ニ示シ銃砲用ノ爲メニスル者ハ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ陸海軍軍人ノ射的用ニ供スル者ハ其省ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ坑業土工其他職業用ニ供スル者ハ其旨趣及種類數量并使用ノ場所ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ但一回ニ左ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス
(十九年勅令第六十七號ヲ以テ本條并各項トモ改正)

小銃用	火藥	三百目	雷管	五百箇	
船舶設備銃砲用	大砲一門ニ付	火藥	五十發分	專火管類	七十箇
	小銃一挺ニ付	火藥	百發分	雷管	百五十箇
烟火製造用	火藥	五貫目			

坑業土工其他職業用火藥 二百貫目
 坑業土工用ノ爲メ特ニ多量ノ火藥類ヲ要スル者ハ其旨趣數量并使用ノ場所等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ内務大臣ノ特許ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ直ニ陸海軍兩省ヨリ火藥類ノ拂下ヲ受クルコトヲ得
 第十一條 營業者ハ買受人ノ免狀ヲ檢シ若クハ許可證ヲ受取り火藥類ヲ賣渡ス可シ但第十條ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス
 第十二條 營業者ハ毎月火藥類買受人ノ住所氏名及其賣渡シタル種類數量年月日ヲ記シ證書アルレハ翌月十日迄ニ所轄警察署ニ届出可シ
 第三章 貯藏

第十三條 火藥類ハ火藥三百目雷管導火管類五百個迄ハ安全ナル場所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得
 營業者ハ前項制限ノ外火藥拾貫目劇發火藥壹貫目雷管導火管類壹萬個迄烟火製造人ハ火藥五貫目劇發火藥五百目迄ハ管轄廳東京府ハノ許可ヲ受ケ倉庫ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得其數量ヲ超ル時ハ火藥庫

ノ外之ヲ貯藏スルコトヲ許サス火藥五百貫目以上劇發火藥五拾貫目以上ハ火藥庫ト雖モ之ヲ貯藏スルコトヲ許サス

第十四條 火藥類ヲ一庫内ニ貯藏スル時ハ其種類毎ニ不燃質物ヲ以テ之ヲ區畫ス可シ
 第十五條 火藥庫ヲ建設セントスル者ハ其位置并ニ建設ノ方法書及近傍ノ地圖ヲ添へ管轄廳東京府ハニ願出許可ヲ受ク可シ
 第十六條 火藥庫ハ皇居離宮ノ區域ヲ距ル十町以内ノ地ニ建設スルコトヲ許サス
 第十七條 火藥庫ハ皇陵社寺公園家屋火ヲ取扱フ場所宅地國道縣道鐵道電信柱汽船ノ通スヘキ河湖及他ノ火藥庫境界トノ中間ニ五十間以上ノ距離ヲ有ツ可シ
 第十八條 火藥庫ハ土藏又ハ煉瓦造ニシテ家根ハ輕量ノ不燃質物ヲ用ヒ内部ニハ鐵釘石瓦ヲ露ハサス意ニハ透明ノ硝子ヲ用フ可カラズ又避雷針ヲ設ケ庫外ノ周圍ニ二間以上ヲ隔テ、高サ六尺以上ノ土堤ヲ築キ其入口ニ火藥庫ト書シタル標本曲尺六尺以上ニシテヲ建ツ可シ
 第十九條 火藥庫ヨリ十四間以内ノ地ニ材木草秣其他燃質物ヲ蓄積ス可カラス又五十間以内ニ於テ火ヲ取扱フ建造物ヲ設ケ若クハ瓦斯ノ傳送管ヲ施シ若クハ發火質ノ物品ヲ蓄積ス可カラス
 第二十條 坑業土工其他職業用ニ供スル火藥類ノ爲メ其事業中假貯藏所ヲ設ケントスル者ハ第十七條ニ掲ケタル距離ヲ二倍シ第十五條ニ據リ管轄廳東京府ハニ願出許可ヲ受ク可シ但第十條制限以上ノ火藥類ヲ貯藏セントスル者ニ對シテハ管轄廳ニ於テ特ニ其距離ヲ指定スルコトアル可シ(十九年勅令第六十七號ヲ以テ改正)
 第二十一條 烟火製造所ハ家屋若クハ火ヲ取扱フ場所ヨリ十間以上ノ距離ヲ有ツ可シ又五貫目以上ノ火藥類ヲ置ク可カラス

第四章 運搬

第二十二條 五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬セントスル時ハ其種類數量運搬ノ日時場所及水陸通路ノ名稱ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ携帶シ運搬畢ラハ直ニ之ヲ返納ス可シ若シ其警察署管轄外ノ地ニ運搬スル時ハ其地ノ警察署ニ之ヲ納ム可シ

第二十三條 五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬スル時ハ鐵釘鐵輪ヲ用ヒサル木製銅製若クハ亞鉛製ノ器ニ入レ其外部ハ篋包若クハ繩卷ト爲シ毛布類ヲ以テ之ヲ覆ヒ赤地ニ火藥ノ二字ヲ白書シタル小旗陸路ニハ尺横二尺五寸水路ノ小旗ニハ曲尺縱三尺五寸横五尺ヲ建テ護送人ヲ附ス可シ但船積スル時ハ明治六年ハ第二百九十二號布告危害品船積法ニ從フ可シ

第二十四條 火藥類ヲ運搬スルニハ火氣ニ注意シ休泊ノ時ハ安全アル場所ヲ撰ヒ看守人ヲ附ス可シ

第五章 罰則

第二十五條 私ニ火藥類ヲ製造シ若クハ販賣シタル者ハ軍用品ニアラスト雖モ刑法第五百七十七條ヲ適用シ私ニ之ヲ所有シタル者ハ刑法第六十條ヲ適用ス

第二十六條 刑法第五百十八條第五百十九條第六十一條ハ前條ノ犯罪ニ關シタル者ニモ亦之ヲ適用ス

第二十七條 私ニ火藥庫又ハ假貯藏所ヲ建設シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第四條ノ検査ヲ拒ミ又ハ第五條ノ停止ヲ犯シテ賣買運搬シ第九條第十條第十一條第十三條第十九條ニ違犯シ又ハ第二十一條ニ違犯シタル者又ハ營業者賣買ヲ除クノ外火藥類ヲ讓受若クハ讓渡シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス(十九年勅令第六十七號ヲ以テ本條中十五字ヲ削ル)

第二十九條 第六條第七條第八條第十二條第十四條第十八條第二十二條第二十三條第二十四條ニ違犯

シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 營業者此規則ニ違犯シタル時ハ其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

附 則

一 從前免許ヲ得タル火藥製造人ハ來ル明治十八年二月二十八日迄其營業ヲ差許シ又同日迄ニ火藥製造諸機械及火藥類ノ現貯藏數量ヲ記シ管轄廳東京府ハ警視廳ニ願出ルニ於テハ相當ノ代價ヲ以テ之ヲ買上ク可シ

一 從前免許ヲ得タル彈藥免許商人ハ來ル明治十八年二月二十八日迄火藥賣買營業ヲ差許シ從前免許ヲ得タル烟火製造所ハ右同日迄其製造ヲ差許ス又從前火藥類ヲ貯藏シタル者ハ來ル明治十八年一月三十一日迄其貯藏ヲ差許ス其日限ヲ過クルトキハ總テ此規則ニ從フヘシ

○爆發物取締罰則

明治十七年十二月廿七日
太政官布告第三十二號

爆發物取締罰則別冊ノ通制定ス

(別冊)

爆發物取締罰則

第一條 治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財產ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシテ之ヲ使用セシメタル者ハ死刑ニ處ス

第二條 前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ無期徒刑又ハ有期徒刑ニ處ス

第三條 第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四條 第一條ノ罪ヲ犯サントシテ脅迫教唆煽動ニ止ル者及ヒ共謀ニ止ル者ハ重懲役ニ處ス

第五條 第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入販賣讓與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第六條 爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニアラサルコトヲ證明スルコト能ハサル時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知ス可シ違フ者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 本則ニ記載シタル重罪犯アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ危害ヲ被ムラントスル人ニ告知ス可シ違フ者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第九條 本則ニ記載シタル重罪ノ犯人ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメ又ハ其罪證ヲ湮滅シタル者ハ正犯ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第十條 本則ニ記載シタル重罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第八十條及ヒ第八十一條ノ例ヲ用ヒス但十六歳未満ニシテ是非ノ辨別ナキ者ハ刑法ニ從フ

第十一條 第一條ニ記載シタル犯罪ノ豫備陰謀ヲ爲シタル者ト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス第五條ニ記載シタル犯罪者モ亦同シ

第十二條 本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ處斷ス

○内國船難破及漂流物取扱規則

明治八年四月二十四日
太政官布告第六十六號

内國船難破及漂流物取扱規則別冊ノ通相定候條本年六月一日ヨリ施行可致此旨布告候事
但本年同日ヨリ浦高札ハ廢シ候事

(別冊)

内國船難破及漂流物取扱規則

第一條 諸通船海上又ハ川筋ニ於テ難破沈没其他ノ災厄ニ逢ヒ候節救助心得方及ヒ之ニ屬スル諸費用ノ立方ハ總テ左ノ箇條ニ從テ取扱フヘシ

第二條 各地浦方ニ於テ難破救助ノ爲メ其管應ヨリ區、戶、長、其、他、用、掛、リ、等、ノ、内、ヲ、以、テ、適、宜、ニ、浦、役、人、ヲ、申、付、置、ク、ヘ、シ(九年太政官第百十七號達ニ依リ區、戶、長以下十七字消滅)

第三條 諸通船難風ノ爲ニ困難シ又ハ其他災厄ニ罹リ候節ハ最寄ノ者見附次第直チニ浦役人ニ報告シ且ツ浦役人ヨリ指圖無之トモ速カニ助船ヲ出シ救助方精々盡力致ス可シ
但シ救助ノ者困難船ニ漕寄セ候節船長其他重立タル者ヨリ頼談無之内ハ猥リニ船中ノ物品ヲ積ミ移ス可カラス

第四條 浦役人ハ難船ヲ見附或ハ其報知ヲ得ル時ハ速カニ其乗組人及ヒ船體積荷ヲ救助保安スルノ手立ヲ盡ス可シ若シ多人數ヲ要スル程ノ大難船ト見受ケ候節ハ板木半鐘等ヲ打鳴ラシ人數ヲ呼聚メ且近隣ノ船持ニ申付助船ヲ出サシム可シ

第五條 少人數ニテ救助シ得ヘキ時ハ勿論前條ノ如ク多數ヲ要スル程ノ大難船ノ節モ浦役人ニ於テ諸事取締ヲ付ケ成丈失費掛カラサル様篤ク注意致シ救助方行届候ハ、早速人數ヲ退散セシムヘシ

第六條 保安シタル船具積荷其他ノ物品ハ最安全ニシテ且便利ノ場所ニ之ヲ置クヘシ尤モ小屋掛ケヲ要シ番人ヲ差置クヘキ程ノ場合ニ於テハ夫々其手數ヲナシ諸事懇切ノ取扱ヲ致スヘシ

第七條 難破ニ逢ヒタル船長又ハ乗組ノ者ハ上陸次第直チニ電信郵便其他ノ急報ヲ以テ之ヲ船主又ハ荷主ニ報知ス可シ

第八條 難船物ヲ保安スル者ヘハ左ノ割合ヲ以テ保安料ヲ遣ハス可シ

- 第一 海面ニ漂流スル物品ハ其二十分一
- 第二 海中ニ沈没スル物品ハ其十分一
- 第三 川面ニ漂流スル物品ハ其三十分一
- 第四 川底ニ沈没スル物品ハ其十五分一

但シ其所持主ノ都合ニ因リ代價又ハ現物ニテモ妨ケナシ

第九條 浦役人ハ救助ノ爲メ集マリタル人數及ヒ救助ノ爲ニ出シタル小舟現ニ難船品ヲ保安シ及ヒ是レニ就テ盡力シタル證據顯然タラサルニ於テハ保安料及ヒ其他ノ賃錢等ヲ割渡ス可カラス

第十條 保安シタル物品又ハ船滓等ノ餘殘物又ハ汐入り水滯レ等ノ爲ニ腐敗スヘキ恐レアルモノハ二名以上ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ者二名以上合議ノ上其所ニ於テ之ヲ入札拂ヒニ爲ヌヲ得可シ

但シ本條ノ場合ニ於テハ浦役人ニテ成ルヘク丈ケ最寄ヘ廣告シ公ケノ場所ニ於テ入札人其他衆人ノ眼前ニテ之ヲ爲シ且其物品ノ目錄及ヒ買人ノ證書並ニ其附直段ノ第三番迄ヲ取置クヘシ

第十一條 保安物ヲ賣拂ヒタルトキハ其代價金高ノ内ヲ以テ左ニ掲載シタル諸費用ヲ其船主荷主ヨリ出サシムヘシ

第一 保安料

- 第二 救助ノ節働人足賃及ヒ小舟賃
- 第三 保安物ノ爲メニ取設タル小屋掛ケ入費及ヒ番人ノ賃錢
- 第四 乗組ノ者怪我人有之節其療養入費
- 第五 同前ノ者溺死スルトキ其搜索入費
- 第六 同前ノ者溺死ノ節埋葬入費

若シ物品賣拂金高諸費ノ高ヨリ少キトキハ其金高限リ出サシメ不足ノ分及ヒ賣拂フヘキモノモ之レナキトキハ第十五條ニ照準シテ處置ス可シ

第十二條 左ニ掲載シタル諸入費ハ之ヲ三分シ其二分ハ船主荷主ヨリ出サシメ其一分ハ之ヲ其管内民費トナス可シ(十一年第十九號布告ニ依リ民費ノ廉減以下做之)

- 第一 難船取扱中浦役人ノ日給
- 第二 浦方ニ於テ難破ノ爲ニ費シタル薪炭蠟燭及ヒ筆紙墨代
- 第三 浦方ヨリ管廳其外等ヘ發シタル電信郵便及ヒ飛脚賃
- 第四 救助人溺死シタル時其搜索入費
- 第五 同前ノ者死傷スル時治療埋葬入費
- 第十三條 難破ノ節浦方ヨリ乗組人ニ給セシ衣服食物其他ノ必要品代料又ハ歸郷旅費等ヲ貸遣シタル時ハ證書取置キ第十九條ノ通り精算書中ニ記載シ追テ本人ヨリ償却セシム可シ

第十四條 大難船ノ節諸費用割賦ノ義ハ船體皆破沈没乗組人ノ死去及積荷ノ大損害
般ノ處置ハ其管應ニ申立テ其筋出張官員ノ差圖ヲ受ク可シ尤モ小難船ノ處置ハ二名以上ノ浦役人及
ヒ船長其他重立乗組ノ者二名以上合議ノ上之ヲ決スルヲ得可シ

第十五條 船體積荷ヲ併セテ悉皆沈没ニ至ルノ大難船ハ浦方ニ於テ其救助ノ爲ニ許多ノ雜費相掛リ候
トモ船主荷主ヨリ之ヲ取立ルヲ得ス故ニ其差出スヘキ費用ノ分ハ官費ヲ以テ支給スヘキニ付費用明
細帳ヲ作り浦役人船長連署押印シテ管應ヘ差出ス可シ(十一年第十九號布告
依リ官費ノ應消滅)

第十六條 危難ヲ冒シテ乗組人ノ必死ヲ救フ者又ハ救助ノ爲ニ盡力シテ死傷ニ至ル者アルトキハ必ス
管應ヘ届出可シ其事實輕重ニヨリ相當ノ賞與或ハ手當金ヲ給ス可シ

第十七條 總テ浦役人及船長合議ノ上處置シタル時ハ其事柄ヲ詳細ニ記シタル證書二通ヲ作り之ニ連
署押印シ其一通ヲ船長ヘ渡シ他ノ一通ヲ浦役人ニテ保チ置クヘシ

第十八條 二名以上ノ浦役人合議ノ時ハ其内一名ハ必ス他村ヨリ出ス可シ

第十九條 難船救助ニ屬スル諸費用ハ二名ノ浦役人及船長其他重立乗組ノ者二名以上立會ノ上第十一
條第十二條第十三條第十五條ニ照シテ夫々其費用ノ種類ヲ區別シ成ル可ク速カニ精算書ヲ作り之ニ
難破明細書ヲ添テ管應ニ差出シ其檢査ヲ受ク可シ

但シ精算取調ノ節ハ成丈ケ船主又ハ荷主ノ立會ヲ要ス可シ

第二十條 前條ノ精算書ハ管應ニ於テ速カニ調査ヲ遂ケ不審ノ庶無之トキハ早速下ケ渡ス可シ然ル上
浦役人ハ第十五條ニ記スル場合ヲ除クノ外船主荷主或ハ船長ヨリ夫々出金致サスヘシ若シ其即時辨
金相成難キ分ハ相當ノ日數ヲ猶豫ス可シ
但シ民費ノ分ハ其管應ヨリ取立浦役人ヘ下渡ス可シ

第二十一條 洋中ニ於テ難破或ハ打荷等有之趣ヲ以テ浦證文ヲ願出ル時ハ二名以上ノ浦役人立會ノ上
船長及ヒ乗組ノ者二名以上ヲ別々ニ取調ヘ其實跡アルカ又ハ航海日記アルモノハ之レニ照シ各々符
合スル時ハ浦證文ヲ作り連署調印シテ之ヲ船長ニ付與シ寫ヲ以テ管應ニ届出ヘシ
但シ浦證文中左ノ箇條ヲ載ス可シ

第一 難破ニ逢タル場所其時日及ヒ風波ノ模様

第二 破損ノ箇所

第三 打荷ノ種類箇數並他ノ積荷ノ種類

第四 船號及ヒ免狀ノ番號並船主船長ノ本貫苗字名乗組人數

第五 荷打シタル荷物主ノ苗字名本貫

第六 仕出シ地及ヒ仕向ケ地ノ港名

第七 乗組ノ内死傷有之トキハ其本貫苗字名年齢

第二十二條 軍艦其他ノ官有船困難候節ハ早速助船ヲ出シ精々盡力シテ救助ス可シ且其難破ノ大小ニ
拘ハラス其旨ヲ直チニ管應ヘ報知ス可シ

第二十三條 前條ノ救助ニ屬スル諸費用ハ船將又ハ其筋ノ士官ヨリ直チニ受取ヘシト雖モ總テ管應ノ
指揮ヲ受クヘシ

但シ第十一條ニ記載スル保安物ニ就テハ別段相當ノ手當ヲ與フ可シ

第二十四條 貢米及ヒ其他ノ官物ヲ積入候船難破ニ及ヒ候節現場救助ヲ除クノ外總テノ處置ハ管應ヘ
申立ノ上其指揮ヲ受ク可シ

但郵便物ヲ積込候船ハ其最寄郵便役所又ハ取扱所ヘ郵便行囊ヲ至急引渡ス可シ

第二十五條 難船取扱ノ間浦役人ノ日給ハ一日五拾錢ヨリ多カラス拾錢ヨリ少ナカラサルモノトス
難破ノ節働人足賃及ヒ小舟賃ハ土地ノ異同ト勞役ノ難易ニ依リテ同シカラスト雖モ各管廳ニ於テ適
宜見積リ豫カシメ其額ヲ定メ置クヘシ

第二十六條 船長及ヒ擔任ノ者怠慢ニヨリ難破沈没其他ノ損害ヲ生スル時ハ右損失ヲ其者ヨリ償却セ
シム可シ若シ其災厄人智ノ前知ス可カラス人力ノ豫防ス可カラサルニ出ルコト瞭然明證スル時ハ此
限ニアラス

第二十七條 浦役人船長其他救助ノ者ト申合セ其保安シタル難船物ヲ沈没ト偽リ竊カニ賣買スル者ハ
律ニ照シテ處分ス可シ(十三年第三十
六號布告參看)

第二十八條 凡テ難船ノ節救助ニ托シテ積荷船具其他ノ物品ヲ竊盜或ハ掠奪スル者又ハ其竊盜掠奪ニ
與スル者或ハ其本犯ヲ陰匿スル者又ハ竊盜物ト知テ之ヲ賣買スル者ハ律ニ照シテ處分ス可シ(同上)

第二十九條 以下漂着ノ部 凡原因ノ知レサル難船漂着物及ヒ乗組人ナキ漂着船ヲ見附ル者ハ之ヲ浦役人
ニ報知ス可シ浦役人ハ其調書ヲ作り之ヲ其管廳ヘ届出可シ

第三十條 乗組人ナキ船ハ其漂着ノ月日船ノ大小破損ノ模様等ヲ精細ニ書記シ漂着物ハ其品名箇數等
精細ニ書記ルシ其漂着近傍人民輻輳ノ地ノ揭示場及ヒ船改所ヘ六十日間張出ス可シ尤モ漂着物ノ代
價貳拾圓以上ト思量シ或ハ貳拾圓以下タリトモ必要ノ品柄ト思量スル時ハ其管廳ヨリ三府五港ノ管
廳及ヒ税關ヘ報告シテ張出ヲナシ或ハ新聞紙ニ載セテ公告ス可シ

第三十一條 漂着物ノ持主知レタル時ハ左ノ區別ニ循ヒ處置ス可シ
第一 一ケ年以内ハ其見積代價ノ三分一ヲ取揚主ニ與ヘ其現品ハ持主ニ返還スル事
但持主ノ情願ニヨリ現品賣拂ヒ其代金ニテ受取ルコトヲ得可シ

第二 一ケ年ヲ過クレハ之レヲ公賣シ其代價ヲ平分シ一半ハ其取揚主ニ與ヘ一半ハ官ニ收ムル事
但三ケ年以内ニ其持主知レタル時ハ官ニ收メシ部分ハ下戻ス可シ

第三十二條 乗組人無之漂着船ノ持主知レタル時ハ左ノ區別ニ循ヒ處置ス可シ
第一 一ケ年以内ハ其見積代價ノ十分一ヲ見附主ニ與ヘ其船ハ持主ニ返還スル事
但書ハ前條第一項ニ同シ

第二 一ケ年ヲ過クレハ之ヲ公賣シ其代價ノ三分一ヲ見附主ニ與ヘ其餘ノ二分ハ官ニ收ムル事
但書ハ前條第二項ニ同シ

第三十三條 前二條ニ記スル場合ニ於テハ律例得遺失物ノ條ト抵觸スルコトナカル可シ(九年第五十五號布
告ヲ以テ遺失物取扱規則ヲ定ム)

第三十四條 凡漂着物ヲ保存シ及ヒ之ヲ公告スル等ノ事ニ付費用アルモノハ第十一條ニ照シ浦役人ノ
奥印シタル證書ヲ以テ代價ノ全部中ヨリ之ヲ償却ス可シ

第三十五條 洋中ニ於テ難破イタク桅橋其他ノ船具ニ取附キ海岸ニ漂着致シ候者有之節ハ浦役人ヨリ
一通リ取調ヘ相當ノ保護ヲ加ヘ置直チニ管廳ニ届出其指揮ヲ受ク可シ尤モ本人歸郷ノ旅費其他ノ手
當等貸遣ハシ候節ハ第十三條ノ通り追テ本人ヨリ償却セシム可シ

第三十六條 凡漂着物ヲ見附ケタル者之ヲ浦役人ニ報知スルコトナク其物品ヲ私カニ使用シ又ハ之ヲ賣
買スル者ハ第二十八條ニ照シテ處分ス可シ

第三十七條 暴風雨等ニテ流失ノ材木ヲ取揚クル時ハ此規則第二十九條以下ニ照準シ其代價十分ノ一
ニ過サル取揚料ヲ遺ス可シ(十年第二十九號
布告ヲ以テ改正)

第三十八條 前條ノ場合ニ於テ取揚タル材木巨大ニシテ領置ニ不便ナルモノハ官之ヲ公賣シ其代價ヲ

以テ現物ト看做シ材主ノ有無ニ從ヒ處分スヘシ(十一年第三十二號
布告ヲ以テ增加)

○遺失物取扱規則 明治九年四月十九日
太政官布告第五十六號

遺失物取扱規則左ノ通相定候條此旨布告候事
遺失物取扱規則

- 第一條 凡遺失物ト稱スルハ自ラ其遺失スルコトヲ覺ラス及ヒ其所在ノ明カナラサルモノヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得ルニ臨テ物主其場ニ就テ其主タルコトヲ證明スルニ於テハ直ニ之ヲ返還シ遺失物ヲ以テ論スルコトヲ得ス
- 第二條 凡遺失ノ物ヲ得レハ五日內ニ其主ニ還シ其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ榜示シ一年內其主ナキ時ハ之ヲ得者ニ給ス
- 第三條 凡遺失者ハ其遺失スル物品ノ模様員數并ニ遺失ノ日時場所等ヲ可成丈ケ詳細ニ記載シ速カニ官ニ届出ヘシ但得者ヨリ其返還ヲ得ル時モ亦更ニ其旨ヲ届出ヘシ
- 第四條 凡遺失ノ物ヲ得レハ之ヲ其主ニ還スト雖モ其費用ヲ償ハシムルコトヲ得且得者ニ報勞ノタメ其物價百分ノ五ヨリ少カラス二十ヨリ多カラサル金圓ヲ給スヘシ若シ物主得者ト其價格ヲ爭フ時ハ官之ヲ評價人ニ托シテ其價ヲ定ム
- 第五條 凡遺失物ヲ得ルニ物品盜賊ニ係ルモノハ直ニ官ニ送ルヘシ官之ヲ其主ニ還シ止タ其費用ノミヲ償ハシム
- 第六條 官私ノ地內ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得ルモノハ之ヲ官ニ送ルヘシ其主分明ナラサルモノハ地主ノ所有ニ歸スヘシ若シ借地人其借地ヨリ掘得タルトキハ之ヲ地主ト中分セシム(十四年第二號布告
ヲ以テ但書共改正)
但盜賊ニ係ルモノハ此限ニアラス
- 第七條 凡遺失ノ物ヲ得ルニ若シ其物耐久シ難クシテ其主分明ナラサル時ハ迅速ニ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ公賣シ其代價ヲ領置シ榜示シテ處分スルコト第二條ノ如シ
- 第八條 凡家畜ノ類他所ニ逸走スルモノハ之ヲ遺失物ト稱スルヲ得スト雖モ其主ヨリ之ヲ官ニ報シ及ヒ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給與スルコト第三條第四條ニ同シ若シ他人ノ財產ヲ毀損スル時ハ律ニ照シテ處分ス
- 第九條 凡逸走スル畜類ヲ得タル者其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ルヘシ若シ八日內其主ナケレハ官之ヲ公賣シテ得者ニ其費用ヲ償ヒ仍ホ代金ノ剩餘アルモノハ之ヲ官ニ領置シ榜示シテ處分スルコト第二條ノ如シ
- 第十條 凡遺失物及ヒ逸走畜類ノ官ニ係ルモノハ官ヨリ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給スルコト私物ニ異ナルコトナシ
- 第十一條 凡警察官吏タル者ハ所部ノ内外ヲ問ハス遺失物ヲ得レハ速ニ之ヲ官ニ送り全ク其主ニ還付シ其主ナケレハ之ヲ官ニ沒ス
- 第十二條 凡一切應禁ノ物ヲ得レハ遺失及ヒ埋藏ヲ論セス並ニ官ニ沒ス
- 第十三條 凡公私債證書地券諸鑑札等ノ類ハ遺失物ヲ以テ論スルヲ得スト雖モ物主ハ得者ニ其費用ヲ償フヘシ
- 第十四條 凡遺失物及ヒ逸走畜類ヲ得若クハ埋藏物ヲ掘得テ官私ニ全ク送還セス或ハ物主ノ其主タルコトヲ證明スルニ冒認シテ返還セサル者ハ並ニ律ニ照シテ處分ス

○古物商取締條例

明治十六年十二月廿八日
太政官布告第五十號

古物商取締條例別冊ノ通制定シ明治十七年二月一日ヨリ施行ス

(別冊)

古物商取締條例

- 第一條 古物商トハ古道具、古本、古書畫、古着、古銅鐵、漬金銀ヲ賣買スル營業者ヲ云フ
袋物屋小間物屋籠甲屋時計屋飾屋箱打屋煙管屋ニシテ其營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換スル者及ヒ刀劍商ハ此條例ニ準據スヘシ
- 第二條 古物商ハ管轄廳東京府ハノ免許ヲ受クヘシ
- 第三條 古物商物品ヲ賣買シ又ハ交換シタルトキハ警察官ニ於テ其物品及ヒ賣主讓主ヲ調査スルニ差支ナキ様簿冊ニ記載シ且買主讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ
- 第四條 身元詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス但身元詳ナル者其證人タルトキ又ハ警察官若クハ巡查ノ認可ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス
- 第五條 十五年未滿ノ者白痴風癪者及ヒ雇人雇主ノ家ニアル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者其證人タルトキハ此限ニアラス
- 官廳、町村、學校、病院、社寺、會社ノ印章記號アル物品ハ其賣却シ得ヘキコトヲ證明スル證人貳名以上アルニ非サレハ之ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス
- 前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニヨリ無代價ニテ物品ヲ取戻サルコトアルヘシ

第六條 古物商ハ營業者タルト否トヲ問ハス盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏スルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ違フ者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮又ハ三拾圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 古物商ハ自宅又ハ許可ヲ受ケタル市場及ヒ賣主讓主ノ居宅ノ外ニ於テ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス

第八條 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ハ身元詳ナラサル者及ヒ盜罪賭博ノ處斷ヲ受ケタル者ニ賣渡讓渡シ又ハ露店及ヒ路傍ニ於テ賣渡讓渡スコトヲ得ス

第九條 古物商物品ヲ他府縣ニ運送セントスルトキ又ハ他府縣ヨリ受取りタルトキハ其物品ノ目錄ヲ所轄警察署ニ届出ツヘシ

警察官ハ時宜ニ依リ荷作ヲ解キ物品ヲ検査シ之ヲ差押フルコトアルヘシ但費用ハ届人之ヲ擔當スヘシ

第十條 賊物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ

第十一條 品觸到達以後一年内ニ類似ノ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏シタルトキ若クハ其以前ニ之ヲ得タルマ、所持シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ若シ届出テスシテ其理由ヲ辨解スルコト能ハサル者ハ第六條ノ刑ニ同シ

第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル簿冊及ヒ品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルトキハ直チニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第十三條 警察官ハ何時タリトモ古物商ノ店舗ニ臨ミ物品及ヒ簿冊ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其物品ヲ差押ヘ又ハ時々簿冊ヲ差出サシメ之ヲ検査スルコトアルヘシ古物商ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 第二條第三條第四條第五條第七條第八條第九條第十條第十二條第十三條ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第六條第十一條第十四條及ヒ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル古物商ハ管轄廳東京府ハニ於テ三月以上三年以下ノ特別取締ニ付スルコトヲ得

第十六條 特別取締ニ付セラレタル者ハ尙ホ左ノ項目ニ從フヘシ

一 物品ヲ買取り又ハ交換シタルトキハ其賣主護主ノ住所氏名年齢及ヒ物品ノ形狀徽章番號結構模様價額年月日時ヲ簿冊ニ記載スヘシ

二 日出前日没後ハ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏スルコトヲ得ス

三 營業者ニアラサル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換シタルトキハ其物品ヲ原狀ノ儘五日間保存スヘシ

四 物品ヲ賣渡シ又ハ交換シタルトキハ其物品ノ形狀價額年月日時ヲ簿冊ニ記載シ且買主讓受主ノ住所氏名年齢ヲ知り得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

五 毎月一度物品買取交換簿冊ヲ所轄警察署ニ差出シ其検査ヲ受クヘシ

六 住所ヲ移轉シ又ハ旅行シ又ハ他人ヲ宿泊同居セシメントスルトキハ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 前條ニ違背シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 特別取締ニ付セラレタル者第六條第十一條第十四條第十七條ニ依リ罰金ニ處セラレタルトキハ直ニ之ヲ完納セシム若シ完納セサル者ハ留置セラルコトアルヘシ

第十九條 古物商一年内ニ此條例ヲ再犯シタルトキハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スル

トヲ得

第二十條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十一條 此條例ヲ犯シテ買取り又ハ交換シタル物品賊物ニ係ルモノハ營業者ニ依ルト否トヲ問ハス警察署ニ於テ之ヲ追徴シテ被害者ニ還付スヘシ若シ被害者知レサルトキハ之ヲ領置シ一年ノ後官没ス

第二十二條 商業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第二十三條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府ハ縣令ニ於テ便宜取設ケ「内務卿」ニ届出ヘシ

○質屋取締條例 明治十七年三月二十五日 太政官布告第九號

質屋取締條例別冊ノ通制定シ明治十七年五月十五日ヨリ施行ス

(別冊)

質屋取締條例

第一條 質屋營業ヲ爲ス者ハ管轄廳東京府ハノ免許ヲ受クヘシ

第二條 質屋ハ質物臺帳ヲ備ヘ其紙數ヲ記シ所轄警察署ノ檢印ヲ受クヘシ

第三條 質物臺帳ニハ警察官ニ於テ質物、貸金、質入主及質入受戻入換ノ年月日ヲ調査スルニ差支ナキ様記載スヘシ但證人ヲ要スルトキハ質入主及證人ノ實印ヲ押捺セシメ置クヘシ

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス但身元詳ナル者證人タルトキハ此限ニアラス

質屋取締條例

- 第五條 十五年未滿ノ者白痴瘋癲者及雇人雇主ノ家ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者證人タルトキハ此限ニアラス
- 官廳、町村、學校、病院、社寺、會社ノ印章記號アル物品ハ其質入シ得ヘキコトヲ證明スル證人二名以上アルニ非サレハ之ヲ質物ニ取ルコトヲ得ス
- 前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニ依リ元利金ヲ償フコト無ク質物ヲ取戻サルハコトアルヘシ
- 第六條 盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ質ニ取リ又ハ寄藏シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ
- 第七條 贓物ノ疑アル物品又ハ身柄不相應ト認メタル物品ヲ持來ル者アルトキハ直ニ所轄警察署又ハ巡行ノ警察官巡查ニ密告スヘシ
- 第八條 流質物ヲ賣拂ハントスルトキハ五日以前ニ其物品目錄ヲ所轄警察署ニ差出スヘシ
- 第九條 流質物ヲ賣拂ヒタルトキハ警察官ニ於テ其物品、代價及買主ヲ調査スルニ差支ナキ様流質物賣拂帳ニ記載スヘシ
- 第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ
- 第十一條 品觸到達以後一年内ニ類似ノ物品ヲ質ニ取リ又ハ寄藏シタルトキ若クハ其以前ノ質物及寄藏品中ニ類似ノ物品ヲ發見シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ
- 第十二條 質物臺帳流質物賣拂帳及品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ
- 第十三條 警察官ハ何時タリトモ質屋ノ店舖ニ臨ミ質物及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其質物ヲ差押ヘ又ハ時々帳簿ヲ差出サシメ之ヲ検査スルコトアルヘシ質屋ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

- 第十四條 此條例ニ違背シ又ハ詐僞ノ届出ヲ爲シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十五條 此條例ヲ一年内ニ再犯シタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得
- 第十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス
- 第十七條 營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ
- 第十八條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府「縣令」ニ於テ便宜取設ケ「内務卿」ニ届出ヘシ

○墓地及埋葬取締規則

明治十七年十月四日
太政官布達第二十五號

墓地及埋葬取締規則左ノ通相定ム

- 第一條 墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノトス
- 第二條 墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受クヘキモノトス
- 第三條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲ爲スコトヲ得ス
但別段ノ規則アルモノハ此限ニアラス
- 第四條 區長若クハ戸長ノ認許證ヲ得ルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲ爲スコトヲ得ス
但改葬ヲナサントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ
- 第五條 墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戸長ノ認許證ヲ得タル者ニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナサシムヘカラス又警察署ノ許可證ヲ得タル者ニ非サレハ改葬ヲナサシムヘカラス

第六條 葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行フヘシ
 第七條 凡ソ碑表ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ其許可ヲ得シテ建設シタルモノハ之ヲ取除ケシムヘシ
 但墓地外ニ建設スルモノ亦之ニ準ス
 第八條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監府知事「縣令」ニ於テ便宜取設ケ「内務卿」ニ届出ヘシ

○墓地及埋葬取締規則違背者處分 明治十七年十月四日
 太政官達第八十二號
 今般第二十五號ヲ以テ墓地及埋葬取締規則布達候ニ付此規則ニ違背スルモノハ違警罪ノ刑ヲ以テ處分
 スヘシ此旨相達候事

○刑死者ノ墓標及祭祀等ニ關スル件 明治二十四年七月二十七日
 内務省令第十一號
 第一條 刑死者ノ墓標ニハ氏名、法號、族籍、年齢、生死ノ年月日ヲ記入スルニ止メ他ノ事項ヲ記スルコトヲ得ス
 其墓標ハ遺骸埋葬地又ハ祖先塋域ノ外之ヲ建設スルコトヲ得ス
 異様ノ墓標ヲ建設シ及文字ニ彩色ヲ施スコトヲ得ス
 第二條 所轄警察署ノ許可ヲ得スシテ刑死者ノ爲メ公然祭祀ヲ行フコトヲ得ス但親族ノ香花ヲ供スルノ類ハ此限ニ在ラス

第三條 刑死者ノ寫真其他肖像ヲ公然陳列シ又ハ販賣スルコトヲ得ス
 其他總テ刑死者ヲ賞揚哀悼スルコトヲ得ス
 第四條 前各條項ニ違背シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金若クハ十一日以上二十五日以下ノ輕禁錮ニ處ス
 第五條 犯罪ニ關シ現ニ捜査、起訴、拘留、服刑中ノ者若クハ捜査、起訴、拘留、服刑中ニ死去シタル者及刑ヲ免レント欲シテ自殺シ或ハ犯罪現行ノ際殺害セラレタル者ニ付地方長官(東京府ハ警視總監)ハ安寧秩序ヲ保持スルニ必要ナリト認ムルトキハ特ニ命令ヲ下シ第一條第二條第三條ニ掲クル所爲ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違背シタル者ハ第四條ニ據リ處分ス

○行旅死亡人取扱規則 明治十五年九月三十日
 太政官布告第四十九號

行旅死亡人取扱規則左ノ通制定ス
 行旅死亡人取扱規則
 第一條 凡ソ引取人ナキ行旅死亡人アルトキ所在戶長ハ之ヲ最寄墓地へ假埋葬スヘシ其倒死變死等ニ係ル者ハ警察官ノ檢視ヲ受クヘシ
 第二條 死亡人ノ本籍氏名詳ナルトキ戶長ハ死亡ノ狀況並ニ埋葬其他死亡人ニ屬スル費用ノ計算書ヲ本籍戶長へ通報スヘシ本籍戶長ハ之ヲ其家ニ通示シ費用ノ辨償ヲ要スルトキハ三十日限差出サシメ埋葬地戶長ニ送付スヘシ若シ其家赤貧ニシテ辨償シ能ハサルトキハ其本籍地方稅ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三條 死亡人ノ本籍氏名詳ナラサルトキ戸長ハ其相貌景狀附屬シタル物品場所年月日等ヲ詳記シ三十日間最寄揭示場ヘ揭示シ且兩度以上新聞紙ヲ以テ公告スヘシ公告ノ日ヨリ九十日ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルトキハ該費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

第四條 死亡人所持ノ金錢ハ埋葬其他死亡人ニ屬スル費用ニ供スヘシ又所持ノ物品ハ前條ノ期限ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルトキハ之ヲ公賣シ同上ノ費用ニ充ツヘシ但本籍氏名詳ナル者其家赤貧ニシテ費用ヲ辨償スルコト能ハサルトキハ直ニ其物品ヲ公賣スルモ妨ケナシ

第五條 死亡人ノ遺財前條ノ費用ニ充テ餘贏アルトキハ之ヲ本籍ヘ送付スヘシ其本籍氏名詳ナラサルモノハ之ヲ五ヶ年間戸長役場ニ保管シ仍ホ本籍氏名詳ナラサルニ於テハ地方稅雜收入ニ組入ルヘシ

○警察賞與規則 明治二十一年十月十二日 內務省訓令第二十一號

警察賞與規則左ノ通相定ム

警察賞與規則

第一條 警察上功勞アル者ハ本則ニ依リ賞與スヘキモノトス

第二條 警察賞與ヲ分テ左ノ三種トス

甲種 金三圓以上拾五圓以下

乙種 金五圓以下

特別賞 金拾五圓以上三拾圓以下

特別賞ハ事ノ重要ニ涉リ功勞ノ特ニ著明ナルモノニ限り之ヲ給スルコトヲ得

第三條 罪犯事件ニ關スル功勞ノ賞與ハ左ノ各項ニ依ル

第一項 左ノ罪犯ヲ現行ノ場合ニ於テ捕獲シ又ハ容易ニ捕獲スルヲ得セシメタル者

甲種

一 國事ニ關スル重罪犯

二 兇徒聚衆ニ關スル重罪犯

三 貨幣偽造變造ニ關スル重罪犯

四 人命ニ關スル重罪犯

五 放火ニ關スル重罪犯

六 強盜ニ關スル重罪犯

乙種

一 貨幣偽造變造ニ關スル輕罪犯

二 竊盜ニ關スル罪犯

第二項 前項ノ罪犯ヲ分明ニ訴出タル者亦前項ノ區別ニ同シ

第三項 第一項ノ場合ニシテ罪犯暴行強迫ヲ以テ抗拒シタルトキハ其難易ニ因リ及第一項ニ掲クル罪犯ニシテ其未遂ノ時ニ訴出タル者ハ其乙種ハ金三圓以上拾圓以下甲種ハ五圓以上貳拾圓以下ノ

金額ヲ賞與スルコトヲ得

第四項 前數項ノ外其功勞ノ前數項ニ比シ相下ラサルモノハ其適度ニ應シ賞與スルコトヲ得

第五項 前數項ニ該當スルモノト雖モ事ノ最モ輕キモノ又ハ功勞ノ最モ尠キモノ若クハ金圓ヲ賞與

シ難キ事情アル者ハ賞詞ヲ與フルコトヲ得

第四條 水火災其他犯罪ニ關セサル功勞ハ乙種ノ賞ヲ給與スヘシ但其功勞ノ大ナル者ハ甲種ノ賞ヲ與フルコトヲ得

第五條 罪犯判決前ニ逃亡又ハ死去シタル場合若クハ賞與スヘキ事件ノ完結セサル前ト雖モ其疑ナキモノハ賞與ヲ施行スルコトヲ得

第六條 賞與ハ何等ノ場合ヲ問ハス一旦施行シタル後ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七條 本則ニ定メタル賞與ノ金額ハ一事件ノ賞トス

但第三條第一項ノ場合ハ一罪犯ニ付テノ賞トス

數事件數罪犯ニテ功勞者一人ナルトキハ數事件數罪犯ノ賞ヲ各別ニ給與スヘシ

一事件若クハ數事件一名若クハ數名ノ罪犯ニシテ功勞者數人ナルトキ之ヲ賞與スルニハ一事件若クハ一罪犯ニ對スル金額又ハ數事件若クハ數罪犯ニ對スル金額ヲ適宜功勞者ノ人員ニ配當給與スヘシ

第八條 功勞者賞與施行前ニ死去シタルトキハ賞與ノ金額ハ親屬ノ最近ナル者ニ給ス若シ親屬ナキトキハ戸長ニ交付シテ祭祀料ニ充用セシムヘシ

其所在不分明ナルトキ亦同シ但親屬ナキ者ニシテ三十六ヶ月ヲ經過シタルトキハ賞與ヲ施行セス

第九條 公權ヲ剝奪セラレタル者ニハ賞與ヲ與ヘス

第十條 自己又ハ親屬ノ利害ニ關スル事件ニ付テハ賞與ヲ與ヘス但其功勞ノ特ニ著明ニシテ一般ニ洪益ヲ及ホスモノハ時宜ニヨリ之ヲ賞與スルコトヲ得其被害者ト利害ヲ共ニスル者亦同シ

第十一條 罪犯其親屬ニ係ルトキハ總テ賞與スルコトヲ得ス

第十二條 第八條第十條第十一條ニ於テ親屬ト稱スルハ刑法第一百四條第一百五條ニ記載シタル者ヲ

云フ

第十三條 巡查ニシテ左ノ各項ニ該當スル者ハ本則ニ定ムル賞與ノ區別ニ從ヒ甲種以下及特別賞ヲ與フルコトヲ得

第十四條 巡查罪犯ヲ捕獲シテ功勞アリト雖モ未タ拘留セサル前ニ逃走セシメタルモノハ賞與スルコトヲ得ス

第十五條 護送中逃走セシメ其護送者ニ於テ捕獲シタルトキ亦同シ

第十六條 巡查私事旅行中其管内ニ於テ賞與スヘキ功勞アリタルトキハ其職務上ニ於テ爲シタルモノト同一ノ賞ヲ與フヘシ

第十七條 巡查ニシテ一般人民共ニ人命ヲ救援シタルトキハ賞與スヘキ金額ヲ救援者ノ全數ニ分賦シ其巡查ニ屬スル金額ヲ賞與スヘシ

第十八條 本則第七條乃至第十一條ハ巡查ノ賞與ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第十九條 巡查ノ賞與ハ其所屬廳ニ於テ施行シ其他ハ左ノ區別ニヨリ各管轄廳東京府ハニ於テ施行スヘシ

第二十條 訴ヲ受ケタル地ノ管轄廳

第二十一條 罪犯ヲ最初ニ受取タル地ノ管轄廳

特別賞與規則

二六三

第三項 犯罪事件ニ屬セサルモノハ其事件ノ生シタル地ノ管轄廳
 第十九條 賞與スヘキ事件若クハ功勞者ノ數官廳ニ牽連スルモノハ互ニ協議ヲ盡シ其金額ヲ定メ之ヲ
 差分シ又ハ功勞ノ多少ニ依リ適宜分割シ各其應ニ於テ賞與スヘシ
 第二十條 警部其他警察事務ニ從事スル者ニシテ功勞アルトキハ巡查ノ例ニ準シ賞與スルコトヲ得
 第二十一條 特別賞與ヲ行フタルトキハ其都度狀ヲ具シ報告スヘシ(二十二年一月内務省訓令第二號ヲ以テ改正)
 第二十二條 賞與ノ費額ハ各其所屬ノ經費ヲ以テ支辨スヘシ

○監獄則 明治二十二年七月十二日
 勅令第九十三號

朕監獄則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

監獄則

- 第一條 監獄ヲ別テ左ノ六種ト爲ス
- 一 集治監 徒刑流刑及舊法懲役終身ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 - 二 假留監 徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治監ニ發遣スル迄拘禁スル所トス
 - 三 地方監獄 拘留禁錮禁獄懲役ニ處セラレタル者及婦女ニシテ徒刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 - 四 拘留監 刑事被告人ヲ拘禁スル所トス
 - 五 留置場 刑事被告人ヲ一時留置スル所トス但警察署内ノ留置場ニ於テハ罰金ヲ禁錮ニ換ユル者

及拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルコトヲ得

- 六 懲治場 不論罪ニ係ル幼者及瘡腫者ヲ懲治スル所トス
- 第二條 監獄ハ内務大臣ノ監督ニ屬ス
- 第三條 集治監北海道ニ在ル及假留監ハ内務大臣之ヲ管理シ其他ノ監獄ハ警視總監北海道廳長官府縣知事東京府ハ除ク之ヲ管理ス
- 第四條 内務大臣ハ隨時監獄巡閱官ヲシテ各監獄ヲ巡閱セシムヘシ
 警視總監北海道廳長官府縣知事東京府ハ除クハ每年少クトモ一回所轄ノ監獄ヲ巡閱スヘシ
 裁判官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル拘留監ヲ巡視スヘシ
 檢察官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル監獄ヲ巡視スヘシ
- 第五條 府縣會議員ハ臨時其府縣所轄ノ監獄ヲ巡見スルコトヲ得
- 第六條 新ニ入監スル者アルトキハ典獄先ツ令狀又ハ宣告書ヲ查閱シテ之ヲ領シ其領收證ヲ引致シ來リタル者ニ交付シタル後入監セシムヘシ其文書ナクシテ引致セラレタル者ヲ入監セシムルコトヲ得ス
- 第七條 在監ノ婦女其子ヲ乳養セント請フトキハ其齡滿三歳ニ至ル迄之ヲ許ス
- 第八條 新ニ入監スル者ノ携有スル財貨物件ハ典獄悉ク點檢シテ之ヲ領置スヘシ
- 第九條 水火風震等非常ノ變災ニ際シ監獄園内ニ於テ避災ノ手段ナシト考定スルトキハ典獄ハ其狀況ニ依リ在監ノ囚人懲治人及刑事被告人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避ケシムヘシ若シ押送スルノ邊ナキトキハ一時之ヲ解放スルコトヲ得
- 解放ニ遭ヒタル者ハ其時ヨリ二十四時以内ニ監署又ハ警察署ニ其旨ヲ申出ツヘシ

第十條 滿期ノ者ヲ釋放スルハ其滿期ノ翌日午前十時ヲ過クヘカラス

第十一條 囚人ハ各罪質ニ從テ嚴ニ其監房ヲ別異シ其中ニ就キ年齡ニ從ヒ左ノ如ク別異ス

- 一 滿十二歲以上十六歲未滿ノ者
- 二 滿十六歲以上二十歲未滿ノ者
- 三 二十歲以上ノ者
- 四 滿十六歲以上二十歲未滿再犯ノ者
- 五 滿二十歲以上再犯ノ者

第十二條 懲治人ハ左ノ年齡ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

- 一 滿八歲以上十六歲未滿ノ者
- 二 滿十六歲以上二十歲未滿ノ者
- 三 滿二十歲以上ノ者

第十三條 刑事被告人ハ各罪質ニ從テ其監房ヲ別異シ其中ニ就キ年齡ニ從ヒ左ノ如ク別異ス

- 一 滿十二歲以上十六歲未滿ノ者
- 二 滿十六歲以上二十歲未滿ノ者
- 三 滿二十歲以上ノ者

第十四條 地方監獄拘留監懲治場ノ一區畫内ニ在ルモノハ墻壁ヲ以テ之ヲ區畫スヘシ

第十五條 凡ソ監獄ハ男監女監ノ別ヲ嚴隔スヘシ

第十六條 囚人及刑事被告人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スルトキハ男ト女トヲ分テ時宜ニ依リ戒具ヲ用フルコトヲ得但懲治人ニハ戒具ヲ用ヒス

第十七條 定役ニ服スヘキ囚人ノ作業ハ毎囚ノ體力ニ應シテ之ヲ課シ一日ノ科程ヲ定メテ服役セシムヘシ但科程ノ標準ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十八條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス

一月一日 元始祭

孝明天皇祭 紀元節

春季皇靈祭 神武天皇祭

秋季皇靈祭 神嘗祭

天長節 新嘗祭

十二月三十一日

父母ノ喪ニ遭フ者ハ三日免役ス

第十九條 無定役囚ニシテ監獄内ニ於テ自ラ作業ヲ爲サント請フトキハ之ヲ許シ作業ノ種類ハ典獄之ヲ指定ス刑事被告人モ亦之ニ準スルコトヲ得

第二十條 懲治人ニハ毎日五時以內農業若クハ工藝ヲ教ヘ力作セシムヘシ

第二十一條 役場ハ男女ノ別ヲ嚴隔シ仍ホ定役囚無定役囚懲治人ノ役場ハ各別ニ之ヲ設ケ其中ニ就キ丁年以上ノ者ト未丁年者トヲ區別スヘシ

第二十二條 定役ニ服スヘキ囚人現役一百日ヲ經レハ初メテ各自ノ工錢ヲ料定シ之ヲ十分シテ重罪囚ニハ其二分輕罪囚ニハ其四分ヲ與ヘ餘分ハ監獄ノ費用ニ供ス

無定役囚懲治人及刑事被告人ニシテ作業スル者ノ工錢ハ之ヲ十分シテ其六ヲ與ヘ其餘分ハ監獄ノ費用ニ供ス定役ニ服スル囚人ニシテ科程外ノ作業ヲ爲ス時ノ工錢モ亦之ニ準ス

第二十三條 前條ニ依リ作業者ニ與フヘキ工錢ハ典獄之ヲ領置スヘシ

第二十四條 囚人懲治人及刑事被告人逃走シ監署ニ領置ノ貨物アルトキハ逃走ノ日ヨリ滿一箇年ヲ經テ之ヲ受クヘキ者ナキトキハ監獄慈惠ノ用ニ充ツ刑死者死亡者ノ領置貨物ニシテ受クヘキ者ナキトモ又同シ

第二十五條 囚人及懲治人監署ニ領置ノ貨物ヲ以テ其父母妻子ノ扶助及正當ノ費用ニ充ント請フトキハ典獄其事情ヲ取糺シテ之ヲ許可スヘシ

刑事被告人ニ係ルトキハ當該裁判官ノ允許ヲ經ヘシ

第二十六條 囚人及懲治人ノ衣服臥具ハ之ヲ貸與ス但拘留囚ハ自衣ヲ着スルコトヲ得

第二十七條 刑事被告人ノ衣服ハ總テ自辨トシ臥具ハ之ヲ貸與ス若シ臥具ヲ自辨セント請フ者アルトキハ之ヲ許ス赤貧ニシテ衣類ヲ自辨スルコト能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

- 第二十八條 囚人及懲治人一人一日ノ食糧
 - 一 下白米十分ノ四 最モ強キ作業ニ服スル者
 - 一 麥 十五ノ六 作業ニ服スル者
 - 一 同 五合乃至六合 作業ニ服セサル者
 - 一 同 四合 作業ニ服セサル者
 - 一 同 三合 十歳未滿ノ幼者
 - 一 菜 金壹錢以下

地方ノ便宜ニ依リ粟稗黍薯ノ類ヲ以テ麥ニ代用スルコトヲ得又麥粟稗黍等ニ乏シキ地方ニ於テハ内務大臣ノ認可ヲ得テ下白米ノミヲ給スルコトヲ得
刑事被告人モ亦前項ニ準ス但自費ヲ以テ食物ヲ購求セント請フトキハ之ヲ許ス

第二十九條 定役ニ服スル男囚ノ髮ハ常ニ之ヲ短羅シ髭鬚ハ常ニ剃除セシム

定役ニ服スル女囚ノ梳髮ハ膏ヲ用ヒテ裝飾スルコトヲ許サス

第三十條 囚人及懲治人ニハ教誨師ヲシテ悔過遷善ノ道ヲ講セシム

第三十一條 囚人十六歳未滿ノ者及懲治人ニハ毎日四時以內讀書習字算術ヲ教フヘシ

第三十二條 囚人懲治人及刑事被告人現行ノ法律命令書ヲ看ント請フトキハ之ヲ許ス

囚人及懲治人書籍ヲ看ント請フトキハ修身宗教教育及營業ニ必要ナルモノニ限り之ヲ許ス

刑事被告人書籍ヲ看ント請フトキハ總テ之ヲ許ス但領置外ノ書籍ハ當該裁判官ノ承認ヲ經ヘキモノトス

新聞紙及時事ノ論說ヲ記スルモノハ前二項ノ例ニアラス

第三十三條 囚人其親屬故舊ニ信書ヲ贈ルハ一箇月ニ一次懲治人ハ一箇月ニ二次トシ共ニ一通ニ過ク
ルコトヲ得ス但官司ノ訊問等ニ由テ書信ヲ要スルトキ又ハ親屬故舊ニ回答セント請ヒ典獄ニ於テ之ヲ必要ト認メタルトキハ此限ニ在ラス

第三十四條 囚人及懲治人ノ發スル信書又ハ外人ヨリ送リ來ル信書ハ典獄之ヲ檢閱スヘシ若シ書中不正不良ニ涉リ又ハ其改悛ヲ妨クルモノト認ムルトキハ之ヲ發贈付與スルコトヲ許サス但刑事被告人ニ係ル信書ハ總テ當該裁判官ノ檢閱ヲ經ヘキモノトス

第三十五條 囚人懲治人及刑事被告人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄ノ立會ヲ以テ之ヲ許スヘシ但典獄ニ於テ形跡ノ疑フヘキコトアリト認ムルトキハ之ヲ許サルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケタル者ハ裁判言渡アル迄辯護人ヲ除クノ外其現在地ノ裁判所長ノ允許ヲ受クヘク密室監禁者ハ當該裁判官ノ允許ヲ受クヘシ

第三十六條 囚人懲治人及刑事被告人疾病ニ罹ルトキハ病狀ノ輕重ヲ料リ其監房若クハ病室ニ於テ醫
療セシム懲治場ニ在ル者ハ情狀ニ由リ其親屬ニ交付スルコトヲ得

第三十七條 囚人懲治人及刑事被告人死亡シタルトキハ典獄看守長醫師ノ立會ヲ以テ之ヲ檢視シ監署
ニ於テ速ニ其本籍ニ通知スヘシ其遺骸ハ親屬若クハ舊故ノ之ヲ請フ者ニ下付ス但死亡後二十四時内
ニ在テ其下付ヲ請フ者無キトキハ監署ニ於テ之ヲ假葬シ其姓名ヲ記シタル木勝ヲ立ツヘシ
刑死者ハ死相ヲ驗シタル後仍ホ五分時ヲ過キサレハ其遺骸ヲ絞架ヨリ解下シ之ヲ埋葬シ若クハ下付
スルコトヲ許サス

第三十八條 刑事被告人ニ其親屬故舊ヨリ書類書籍用紙衣服臥具其他必要ノ物品又ハ飲食物ヲ贈ラン
ト請フトキハ之ヲ許ス但書類書籍ハ當該裁判官ノ檢閲ヲ受クヘシ其密室監禁者ニ係ルトキハ他物ニ
於テモ亦同シ

新聞紙及時事ノ論說ヲ記スルモノハ前項ノ例ニアラス

第三十九條 囚人及懲治人ニハ現行ノ法律命令書並ニ書籍用紙印紙郵便切手貨幣及内務大臣ニ於テ許
可シタルモノヲ除クノ外差入ヲ許サス但書籍ハ第三十二條ニ記載シタル制限ニ從フ

第四十條 囚人獄則ヲ遵守シ作業ニ勉勵シ且改悛ノ行爲アル者ト典獄ニ於テ確認スルトキハ之ヲ賞譽
スヘシ

賞譽セシ者ニハ之ヲ表スル爲メ賞表ヲ與ヘ獄衣ニ縫著セシムヘシ
賞表ハ假出獄免幽閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ憑據ト爲スコトヲ得

第四十一條 賞表ヲ有スル囚人ハ其監房ヲ區別シテ尋常囚人ト別異シ賞表ノ多寡ニ應シテ優遇ヲ爲ス
ヘシ

第四十二條 囚人獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ役場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ服役時間坐作ノ役ヲ課ス

二 減食 一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス

三 閉室 閉室ニ入レ一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ臥具ヲ禁ス
屏禁ハ二月以内減食ハ一週日以内閉室ハ五晝夜以内トス

第四十三條 囚人十六歳未満ノ者及懲治人獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 獨愼 晝夜一室ニ獨居セシム

二 減食 一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減ス

獨愼ハ七晝夜以内減食ハ三日以内トス

第四十四條 減食若クハ閉室ノ罰ニ處スヘキ者アルトキハ醫師ヲシテ診視セシメ身體ニ妨ナキヲ證シ
テ後之ヲ行フヘシ其處罰中ハ醫師ヲシテ毎日之ヲ視察セシメ醫師ニ於テ身體ニ妨アルヲ證スルトキ
ハ處罰ヲ中止スヘシ

第四十五條 無期徒刑ノ囚人重罪ヲ犯シ若クハ逃走シ又ハ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シタル
トキハ一年以上五年以下其他ノ輕罪ヲ犯シタルトキハ一年以上一年以下兩脚又ハ一脚ニ鉄ヲ施シ仍
ホ鐵丸ヲ屬シタル鐵索ヲ其飲ニ貫キ腰間ニ纏帶セシメ纏帶ノ所ニ下錠ス其監房ニ在ルモ晝間ハ仍ホ
之ヲ施スモノトス

若シ再ヒ重罪ヲ犯シタルトキハ五年以上十年以下前項ノ例ニ照シテ處罰ス
鐵丸ノ量ハ二百目以上一貫目以下トシ被罰者ノ體力ニ應シテ之ヲ施ス丸ハ索尾ニ屬シ地上ヲ轉ハス
モノトス若シ外役ニ服スルトキハ鐵丸ヲ除キ二人聯絆ノ法ニ從フ

- 第四十六條 施錠中ノ者病ニ罹リ醫師ノ診斷ニ依リ錠ノ解除ヲ必要トスルトキハ一時之ヲ解除スルコトヲ得但解除中經過セシ日數ハ施錠期限ニ算入セス
- 第四十七條 賞表ヲ有スル者處罰ヲ受ケタルトキハ其情狀ニ因リ賞表一箇又ハ數箇ヲ褫奪スルコトアルヘシ
- 第四十八條 獄則ヲ犯シ罰ニ處セラレタル者改悛ノ狀著シキトキハ處罰中ト雖モ之ヲ免スルコトヲ得
- 第四十九條 免幽閉ヲ受ケタル流刑ノ者監署ノ命令ニ違背シタルトキハ七日以内之ヲ拘置スルコトヲ得
- 第五十條 囚人懲治人及刑事被告人司獄官吏ノ處置ニ對シ情苦ヲ訴ヘントスルトキハ第四條ニ記載シタル官吏巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告スルコトヲ得
- 第五十一條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ內務大臣之ヲ定ム
- 第五十二條 此規則ハ陸海軍ニ屬スル監獄ニ適用セサルモノトス

○監獄則施行細則 明治二十二年七月十六日
內務省令第八號

監獄則施行細則

第一章 規程

- 第一條 此細則ニ於テ在監人ト稱スルハ囚人懲治人及刑事被告人ヲ云フ
- 第二條 新ニ入監スル者アルトキハ先ツ之ニ番號ヲ付シ一小房內ニ於テ通身ヲ検査シ了リテ名籍ニ其要項ヲ詳録シ仍ホ房內揭示ノ事項ヲ說示スヘシ

第三條 各監房內ニハ在監人ノ遵守スヘキ事項ヲ揭示シ傍訓ヲ施シ解シ易カラシムヘシ其事項左ノ如シ

- 一 在監人ハ互ニ和順ヲ主トシ常ニ教令ヲ遵守スヘシ
- 一 教誨聽聞ノ席ニ就クトキハ慎テ容止ヲ正フスヘシ 刑事被告人ヲ拘禁スル監房ニハ此項ヲ除ク
- 一 毎朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシ之ヲ排列シテ點檢ヲ受ケ及席壁團圍等ヲ掃除スヘシ
- 一 窓壁若クハ物件ヲ汚損シ不淨器ノ外ハ唾ハキ及貯水ヲ濫用スヘカラス
- 一 房外ニ出タル時ハ他人ト手ヲ交ヘ又ハ濫リニ交談スヘカラス
- 一 夜間ハ最モ鎮靜ヲ主トシ說話發聲又ハ濫リニ起步スヘカラス但晝間ト雖放歌喧噪又ハ高聲ニ誦讀シ及隣房ヘ通聲交談スヘカラス
- 一 許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ勝負ヲ爭ヒ若クハ賭博類似ノ遊戲ヲナシ或ハ他人ニ汚辱ヲ被ラシメ猥褻ニ涉ルカ如キ所爲アルヘカラス
- 一 服役中其作業ニ關セサル他事ヲ談話シ及服役セサル時間タリトモ部外ノ役場ニ至ルヘカラス
- 一 許可ヲ得スシテ物件ヲ受授貸借スヘカラス
- 一 監房ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ラス直ニ看守所ニ通聲スヘシ
- 一 病者アルトキハ同房ノ者共ニ介保シ看病人タル者ハ切實ニ之ヲ看護スヘシ
- 第四條 領置ノ貨物ハ其名數ヲ簿冊ニ記載シ典獄之ニ證印スヘシ
- 領置ノ貨物ハ本人釋放又ハ假出獄免幽閉假出場ノ時之ヲ下付スヘシ
- 第五條 領置物品中保存ニ堪ヘ難キモノハ本人ヘ告知ノ上之ヲ賣却シテ其代金ヲ領置スルコトヲ得
- 第六條 入監中外人ヨリ差入タル貨物ニシテ領置スルモノモ亦第四條第五條ノ例ニ依ル

- 第七條 總テ監房ニ入ル、物品ハ典獄之ヲ點檢シ其危險ノ虞アルモノハ一切之ヲ禁スヘシ
- 第八條 入監後出房セシメタル者ニ對シテハ還房ノ際通身ノ檢査ヲ爲スヘシ
- 第九條 通身ノ檢査ハ一人宛之ヲ爲シ他人ヲシテ見セシムヘカラス但役場教誨堂運動場及浴室等ヨリ一時多人數ヲ還房セシムル場合ハ此限ニ在ラス
- 第十條 男子ノ檢身ハ看守長臨監シ看守之ヲ行ヒ女子ニ係ルトキハ看守長臨監シ女監取締之ヲ行フヘシ
- 第十一條 典獄看守長ハ日夜不時ニ監獄ノ内外ヲ巡視スヘシ但看守長ノ巡視ハ一晝夜三回以上タルヘシ
- 第十二條 典獄ハ看守及女監取締ノ警守受持場ヲ定メ晝夜絶ヘス之ヲ巡警セシムヘシ
- 第十三條 典獄ハ看守長及看守女監取締ヲシテ常ニ在監人ノ行狀ヲ録サシムヘシ但押送途中ニ在テハ押送官吏之ヲ録シテ典獄ニ差出スヘシ
- 第十四條 看守長ハ毎日二回以上各監房ニ就キ在監人ノ員數ヲ點檢シ毎日一回以上監房ヲ檢査スヘシ
- 第十五條 囚人及懲治人ノ放免期日ハ入監後典獄直ニ之ヲ調査シテ名籍簿ニ記入シ仍ホ本人ニ告知スヘシ
- 第十六條 囚人及懲治人ニシテ釋放スヘキ者アルトキハ典獄名籍簿ニ照シテ其氏名等ヲ間糺シ釋放スル旨ヲ言渡スヘシ刑事被告人ニシテ放免保釋及責付スヘキ者アルトキモ亦同シ
- 第十七條 領置ノ貨物ヲ下付スルトキハ典獄其名數ヲ領置簿ニ照シテ其旨ヲ記シ受取人ヲシテ證印セシムヘシ
- 第十八條 刑事被告人ノ中共犯人アルトキハ其監房ヲ別異シ談話通聲スルコトヲ得サラシメ裁判所又

- ハ他監ニ引致ノトキモ同行セシムルコトヲ得ス
- 第十九條 在監人ヲ他監ニ移ストキハ其名籍又ハ宣告書其他必要ノ文書及領置ノ貨物ヲ具シテ送致スヘシ
- 第二十條 在監人押送ノ際送致スル貨物ハ典獄ニ於テ目錄ヲ作り其貨物並ニ目錄ハ押送官吏ヲシテ保管セシムヘシ但金錢ハ破綻ノ憂ナキ樣嚴緘シ之ニ封印ヲ捺スヘシ
- 第二十一條 特赦アリタルトキハ典獄ハ速ニ其旨ヲ所屬長官ニ申報シ所屬長官ハ内務大臣ニ申報スヘシ
- 第二十二條 特赦免幽閉假出獄ノ申渡ハ其裁可又ハ許可ノ監署ニ達シタル時ヨリ二十四時以内ニ之ヲ爲スヘシ
- 假出獄ノ申渡ヲ受ケタル者ニハ典獄其證票ヲ與ヘテ最近ノ警察署ヘ護送スヘシ
- 第二十三條 特赦免幽閉假出獄ヲ申渡シ又ハ賞表ヲ授與スルハ別ニ定ムル方式ニ依ル但賞表ハ免役日若クハ日曜日ニ於テ之ヲ與フヘシ
- 第二十四條 免幽閉ノ申渡ヲ受ケタル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限り居住セシメ典獄之ヲ監督スヘシ但土地家屋ナキ者ニハ之ヲ貸與スヘシ
- 已ムヲ得サル事故アリテ一時限外ニ出テテ請フトキハ典獄其事由ヲ取糺シテ許可スルコトアルヘシ
- 第二十五條 免幽閉中重罪輕罪ヲ犯シタル者アルトキハ其裁判確定ノ上免幽閉ヲ爲シタル所ノ監獄ニ於テ直ニ其刑ヲ執行スヘシ
- 第二十六條 免幽閉ノ申渡ヲ受ケタル者其配偶者又ハ其他ノ親屬ヲ招キテ同居シ又ハ結婚セント請フ

トキハ典獄其生計ノ方法ヲ取糺シテ許可スヘシ

第二十七條 假出獄中重罪輕罪ヲ犯シタル者アルトキハ其裁判確定ノ上現ニ之ヲ管束スル所ノ典獄ニ於テ假出獄ノ停止ヲ言渡シ證票ヲ取上ケ其旨ヲ所屬長官ニ申報シ所屬長官ハ内務司法兩大臣ニ申報スヘシ

甲地ニ於テ假出獄ヲ許サレタル者ヲ乙地ニ於テ停止シタルトキハ乙地典獄ヨリ其取上タル證票ヲ甲地典獄ニ送致シテ其旨ヲ通知スヘシ

前項ニ依リ乙地ニ於テ假出獄ヲ停止シタルトキハ集治監ニ入ルヘキ者ヲ除クノ外其地監獄ニ拘禁シ前刑後刑トモ乙地ニ於テ之ヲ執行スヘシ

第二十八條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者アルトキハ他ノ者ト別異シ一房ニ一名ヲ拘禁シテ特ニ戒護ヲ嚴ニスヘシ

第二十九條 死刑ノ執行ハ午前十時ヲ過ルヲ得ス其執行中ハ看守ヲシテ嚴ニ刑場ノ門戸ヲ護ラシムヘシ

第三十條 死刑ヲ執行スヘキ者同時ニ二人以上アルトキハ之ニ前後ヲ付シ一人宛執行シ其間他ノ受刑者ヲシテ刑場ニ入ラシムヘカラス

第三十一條 死刑ハ受刑者自衣著用ノ儘之ヲ執行スルコトヲ得

第三十二條 監房ハ看守長ノ立會アルニアラサレハ開扉スルコトヲ得ス但在監人ノ在ラサルトキハ此限ニ在ラス

第三十三條 囚人ノ監房ニハ疊ヲ敷クコトヲ得ス但病室及拘留囚ノ監房ハ此限ニ在ラス

第三十四條 密室ハ拘留監ニ設クヘシ

開室ハ暗ニ空氣ヲ通セシメ毫モ光線ヲ通セサシムルヲ要ス

密室及開室ハ一室一人ヲ限トス

第二十五條 接見室ハ監舎ノ首部ニ設クヘシ

第二十六條 死刑場ハ監獄ノ一隅ニ設ケ墻壁ヲ以テ外見ヲ防クヘシ

第二十七條 各監房ノ鑰匙ハ彼此適用スヘキ爲メ其製式ヲ同クスヘシ

第二十八條 監房ノ鑰匙ハ常ニ一定ノ場所ニ置キ看守長之ヲ監守スヘシ

第二十九條 監守所ニハ開室ヨリ鐵線ノ類ヲ通架シ置キ發病等ヲ報スルノ用ニ供スヘシ

第四十條 監獄ニハ防火具ヲ備ヘ置クヘシ

第四十一條 燈火ハ監房外ニ置キ在監人之ニ觸ル、ノ虞ナカラシムヘシ

第二章 役法及時限

第四十二條 定役ニ服スヘキ入監人アルトキハ典獄醫師ヲシテ其身體ヲ診視セシメテ強弱ヲ分チ就業簿ニ記入シ其就役スヘキ業名ヲ指定スヘシ

第四十三條 男囚ノ監獄内ノ作業ハ春米瓦工煉化石工石工碎石鍛冶工油絞工耕耘木挽工抄紙工木工桶

工糞工炊事掃除ノ内ヲ撰ムヘシ

女囚ノ作業ハ紡績裁縫織洗滌ノ内ヲ撰ムヘシ

右ノ外各地方ノ便宜ニ依リ他ノ作業ニ服役セシメトスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ得ヘシ

第四十四條 男囚ハ碎石開墾探礦土方石工耕耘運搬若クハ監獄ノ用ニ限り獄外ノ役ニ服セシムルコトヲ得其外役ニ服セシムルトキハ鍊鐵ノ鎖ヲ用テ二囚毎ニ聯絆シ晴雨ヲ問ハス笠ヲ用テ其面ヲ掩ハシムヘシ

外役ノ囚徒ハ一組十人以上二十人以下ト定メ看守一人押丁二人以上ヲシテ之ヲ監セシム但島地ニシテ逃走ノ虞ナシト認ムル場合ニ於テハ此割合ヲ變更スルコトヲ得

第四十五條 定役ニ服スヘキ者刑期五分ノ三ヲ經過シタルトキハ典獄ニ於テ現ニ其監獄ニ在ル所ノ作業ノ中ニ就キ出獄後自活ノ道ヲ得ヘキト認ムルモノヲ指定スヘシ但刑期一年未滿ノ者ハ此限ニ在ラズ

第四十六條 定役ニ服スヘキ者ハ風雨積雪等ノ爲メ既定ノ作業ニ就ケシメ難キトキト雖他ノ作業ニ就ケ休役セシムヘカラス

第四十七條 科程ノ了否ハ正午ト罷役前トニ於テ毎日二回之ヲ検査スヘシ

第四十八條 毎日囚人ヲシテ作業ニ就カシムルニ際シ悉ク之ヲ監房外ニ整列セシメ看守長及看守女監取締點檢ヲナスヘシ還房セシムルトキモ亦同シ

第四十九條 在監人ノ起床ヨリ就寢ニ至ル迄ノ動作時限ハ別表ニ之ヲ定ム但作業ニ依リ已ムヲ得サル場合ニ於テハ内務大臣ノ認可ヲ得テ其時限ヲ伸縮スルコトヲ得

第五十條 起床還房就寢罷役就寢其他ノ動止ヲ令スルハ鈴若クハ柝ヲ以テシ全監一齊ニ動止セシム

第三章 工錢

第五十一條 各種ノ工錢ハ其地普通ノ傭工錢ニ照シ各自ノ技能ト就役時間トニ應シ一日若干ト定ムヘシ

第五十二條 免役日ニ於テ囚人ヲ炊事掃除病者ノ看護其他監獄ノ用ニ使役スルトキハ科程外ノ工錢ヲ與フヘシ

第五十三條 在監人ニ與フヘキ工錢ハ毎月ノ首ニ於テ其前月總計金額ヲ本人ニ示スヘシ

第四章 給與

第五十四條 囚人ノ衣類ハ赭色懲治人ノ衣類並ニ刑事被告人ニ貸與スル衣類ハ淺葱色ニシテ總テ筒袖トシ長短二種ニ分ツ男ノ通常服ハ長衣就役服ハ短衣トシ女服ハ總テ長衣トス

第五十五條 囚人ノ蒲團ハ赭色懲治人及刑事被告人ノ蒲團ハ淺葱色トシ各自ニ貸與シ二人以上合著セシムルコトヲ得ス

第五十六條 刑事被告人ノ着用スル衣類ニシテ時季ニ適セス又ハ汚穢シテ衛生上ニ害アリト認ムルトキハ之ヲ貸與ス

第五十七條 在監人ノ衣服ノ外襟及蒲團ニハ白布ヲ縫著シ之ニ其者ノ番號ヲ墨書スヘシ

第五十八條 在監人ニ貸與スル衣類雜具左ノ如シ

通常服

一 單衣

一 裕

一 綿入

一 襦袢

就役服

一 單衣

一 裕

一 綿入

一 襦袢

一 股引

婦女ニハ股引ニ代テ前垂ヲ貸與スルコトヲ得

雜具

- 一 蒲團
- 一 蚊帳
- 一 莞蓆
- 一 木枕
- 一 帶長三
- 一 褌長三
- 一 手巾
- 一 篋
- 一 笠
- 一 履物

以上ノ貸與品ハ地方ノ便宜ニ依リ之ヲ斟酌取捨シ淋瀝補綴シテ其用ニ充ルコトヲ得此他草鞋用紙ハ之ヲ付與ス

極寒ノ地方ニ於テハ内務大臣ノ認可ヲ得テ足袋ヲ貸與スルコトヲ得

第五十九條 病者ニ貸與スル衣類雜具ハ醫師ノ意見ヲ問ヒタル上典獄ニ於テ變更又ハ増減スルコトヲ得

第六十條 病者ノ食量ハ醫師ノ診斷ニ依テ之ヲ増減スヘシ

第六十一條 病者ノ攝養ニ効アル飲食物又ハ温ヲ取ル湯婆等ヲ用ユルコトヲ要スルトキハ醫師ヲシテ

其旨ヲ證明セシメ典獄之ヲ考檢シテ許可スルコトアルヘシ

第六十二條 囚人及懲治人作業ニ勉勵シテ食費ヲ償フニ足ルヘキ工錢ヲ得ル者ニハ其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得但其種類分量ハ典獄豫メ制限ヲ設クヘシ

第六十三條 工錢ヲ以テ食物ヲ購給スルハ一月十回以下ニシテ一回金三錢ヲ過ルコトヲ得ス但其購給費ハ領置工錢ノ半額ヲ過クヘカラス

第六十四條 食用器具左ノ如シ

- 一 木碗
- 一 箸
- 一 飯器

第六十五條 監房常置ノ器具左ノ如シ

- 一 貯水器並ニ飲器 木製
- 一 唾壺 木製又ハ竹製
- 一 便器 木製大小二種但監房ニ廁圖ノ接續スルモノニハ此器ヲ用ヒス
- 一 小帚 草ノ種類ヲ用テ製作セシ軟ナルモノ
- 一 洗手盆 木製

第五章 衛生及死亡

第六十六條 監獄ハ常ニ清掃シ不潔ナラシメサルヲ要ス

監獄内ノ廁圖並ニ便器ハ度數ヲ定メテ掃除シ常ニ清潔ナラシムヘシ

第六十七條 病者ノ居室身體衣類器具等ハ特ニ清潔ニ爲スヘシ

第六十八條 刑事被告人及定役ニ服セサル囚人ハ毎日一時以內監房外ニ於テ運動ヲ許ス

第六十九條 衣類臥具雜具其他ノ物品ハ種質ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之ヲ澀ヒ又ハ大氣ニ晒シ臭氣ヲ去リ虫害ヲ防クヲ要ス但病者ノ物品ト混一シテ之ヲ晒洗スヘカラス

第七十條 入浴ノ定度ハ毎年六月ヨリ九月迄ハ五日毎ニ一次以上十月ヨリ五月迄ハ十日毎ニ一次以上トス

第七十一條 刑事被告人又ハ定役ニ服セサル囚人及拘留囚ノ鬚髮ハ不潔ナラサル様梳理セシムヘシ但鬚髮ヲ剃刈センコトヲ請フ者アルトキハ典獄之ヲ許可スルコトアルヘシ

第七十二條 髮ヲ短薙セサル者ノ監房ニハ木梳一箇ヲ備ヘ置クヘシ

第七十三條 刑事被告人ノ親屬故舊ヨリ澀濯ノ爲メ其衣類ノ下付ス請フトキハ本人ノ承諾ヲ得テ典獄之ヲ許可スルコトアルヘシ其密室監禁者ニ係ルトキハ當該裁判官ノ允許ヲ經ヘキモノトス

第七十四條 傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防ヲ慎重ニスヘシ若シ在監人中傳染病者アルトキハ直ニ隔離室ニ移シ其消毒ヲ嚴ニシ病性及感染ノ形狀ヲ詳悉シ典獄ヨリ所屬長官ニ報告シ且其旨ヲ市町村長及警察署ニ通知スヘシ

第七十五條 傳染病流行ノ際ハ飲食物ノ差入及購給ヲ停止スルコトヲ得

第七十六條 傳染病流行地ヲ發シ若クハ其地方ヲ經過シタル者新ニ入監スルトキハ一週日以上他ノ者ト隔離シ其携有スル物品ハ消毒ヲ行フヘシ

第七十七條 死亡者又ハ刑死者アルトキハ其年月日ヲ記シ典獄ヨリ親屬ニ通知スヘシ
刑事被告人死亡シ又ハ囚人及懲治人ニシテ裁判所ノ訊問中ニ係ル者死亡シタルトキハ之ヲ其裁判所

ニ申報スヘシ

第七十八條 在監人病死シタルトキハ醫師ノ診案ニ據リ病症及其因由並ニ死亡ノ年月日時ヲ名籍簿ニ記載スヘシ若シ變死シタルトキハ醫師ノ檢案ニ據リ死亡ノ因由及其年月日場所死狀等ヲ名籍簿ニ詳記スヘシ

第七十九條 死者ノ親屬若クハ故舊ニ其遺骸ノ下付ヲ許シタルトキハ其者ヲシテ簿冊ニ署名捺印セシムヘシ

監署ニ於テ遺骸ヲ假葬スルトキハ棺ニ入テ之ヲ埋メ其上ニ面三寸長三尺五寸ニ過キサル氏名標ヲ建ツヘシ

第八十條 在監人ノ遺骸ハ假葬シタル後ト雖モ下付ヲ請フ者アルトキハ之ヲ許ス

第八十一條 在監人死亡シ監署ニ領置ノ貨物アルトキハ親屬ニ下付ス刑死者ノ貨物モ亦同シ

親屬遠地ニ在テ物品ヲ送付スルニ入費ヲ要スルモノハ其物品ヲ販賣シテ代價ヲ遞送スルコトヲ得但遞送費ハ親屬ノ自辨トス

第八十二條 假葬シタル死亡者刑死者ノ遺骸ニシテ滿三箇年ニ至ルモ引取人ナキトキハ更ニ合葬スルコトヲ得但合葬シタルトキハ其墓標ニ石ヲ用ユヘシ

第六章 書信及接見

第八十三條 在監人ヨリ發スル信書ハ書信紙ヲ用ヒシメ典獄之ヲ封緘遞送スルモノトス但郵便稅ハ自辨トス

第八十四條 官司ノ訊問ニ由テ發信ヲ要スルニ當リ郵便稅ヲ自辨スルコト能ハサルトキハ監獄費ヲ以テ支辨スヘシ

第八十五條 信書ヲ檢閲スルハ先ツ直行順讀シ次ニ逆讀斜讀又ハ横讀シ不正不良ノ文意アルヤ否ヲ詳查スヘシ

第八十六條 在監人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄其氏名身分住所職業及緣由ヲ詳悉シタル上之ヲ許スモノトス

接見ノ時間ハ三十分時ヲ過クルヲ得ス但死刑ノ執行以前及集治監又ハ假留監ニ押送以前ニ係ル囚人ニハ特ニ一時間ノ接見ヲ許スコトヲ得

接見ヲ許シタル者若シ接見ヲ請ヒシ旨趣ニ違フ談話ヲ爲シタルカ又ハ姿貌其他形狀等ヲ以テ相通スルノ形跡アルトキハ之ヲ停止スヘシ

接見ノ際ハ在監人男子ニ係ルトキハ看守長看守立會女子ニ係ルトキハ看守長女監取締立會フヘシ

第八十七條 辨護人トノ接見ハ接見室ニ於テノ談話ニテ事實ヲ盡シ難キトキニ限り訊問所ニ於テ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十八條 在監人接見ノ時限ハ午前八時ヨリ午後四時迄ノ間トス

第八十九條 刑事被告人ニ差入ルヘキ飲食物ハ酒及烟草ヲ除キ監獄内ニ於テ炊烹ヲ要セサルモノニシテ一日三回一人一食ノ量ニ限ル

第九十條 總テ差入品ハ看守長立會看守ニ於テ之ヲ檢査シ毒氣酒氣又ハ包藏物其他通謀ノ媒介トナルモノナキヤ否ヲ精檢スヘシ但飲食物ノ檢査ニハ醫師ヲシテ立會ハシムヘシ

第九十一條 檢査ノ爲メ解縫シタル衣類臥具アルトキハ監獄ニ於テ之ヲ原形ニ復スヘシ

第七章 差入品

第九十二條 免幽閉ヲ受ケタル者親屬故舊ヨリ金錢衣服家具等ノ寄贈ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ典獄ニ申告セシムヘシ

第八章 教誨

第九十三條 教誨ハ免役日又ハ日曜日午後又ハ平日罷役後又ハ休役間ニ於テ之ヲ行フヘシ

第九十四條 免役日及日曜日ノ教誨ハ教誨堂ニ於テシ休役間又ハ罷役後ノ教誨ハ被教誨者ノ居所ニ就キ之ヲ爲スモノトス

第九章 賞譽

第九十五條 監獄則ニ依リ賞譽セシ者ニ與フル賞表ニハ曲尺方二寸ノ淺葱色ノ布ヲ用ヒ賞譽セシ毎ニ之ヲ與ヘ上衣ノ左袖肩臂間ノ表面ニ縫著スルモノトス

第九十六條 賞表ヲ有スル者ニハ左ノ優遇ヲ爲スモノトス

一 第五十八條ニ定メタル衣類雜具ハ成ルヘク良品ヲ貸與ス

二 書信ハ一箇月ニ二通二次之ヲ爲スコトヲ許ス

三 入浴ハ尋常囚人ニ先キタシムルコトアルヘシ

四 賞表二箇以上ヲ有スル者ニハ仍ホ作業ノ勞働稍輕キモノヲ課シ且飯米ノ割合ヲ十分ノ五ニ増加ス

五 賞表三箇以上ヲ有スル者ニハ仍ホ將來生計ノ爲メ作業ノ變換ヲ請ハシムルコトヲ得

六 賞表一箇ヲ得タル者ニハ監獄則第二十八條ニ定メタル外菜ヲ一週ニ一回其二箇ヲ得タル者ニハ二回其三箇以上ヲ得タル者ニハ三回増給ス但其價ハ一回一錢ニ過クルコトヲ得ス

第九十七條 囚人及懲治人左ニ掲ケタル所爲アルトキハ金二十五錢以下ヲ以テ之ヲ賞與スルコトヲ得

但賞表ヲ與フルノ限ニ在ス

- 一 在監人ノ逃走セントスル者ヲ密告シタルトキ
- 二 人命ヲ救援シ及逃走者ヲ捕得シタルトキ
- 三 監獄ニ係ル水火風災ヲ防禦シタルトキ

第九十八條 刑事被告人ニシテ前條ノ所爲アルトキハ之ヲ録シテ所屬長官ニ申報シ仍ホ當該裁判官ノ參考ニ供スヘシ

第十章 懲罰

第九十九條 減食受罰者ハ其罰期中別房ニ入レ置クヘシ

第一百條 懲罰ヲ受ケタル者ノ居房ハ其罰期終ルモ仍ホ懲罰ヲ受ケサル者ト別異スヘシ但改悛ノ情著シキトキハ合居セシムルコトヲ得

第一百一條 犯則者ニシテ事未タ發覺セサル前ニ於テ司獄官吏ニ自首シタルトキハ其懲罰ヲ全免又ハ減輕スルコトヲ得

數犯俱發シタルトキハ一ノ重キニ從ヒ處罰スヘシ

第一百二條 懲罰ニ處セラレタル者裁判事件ニテ出廷スルトキハ當日ニ限リ其執行ヲ中止スヘシ但中止中經過セシ日數ハ懲罰期限ニ算入スヘカラス

第一百三條 兩脚ニ欵ヲ施ス者改悛ノ狀顯ハレ其施欵期限ノ半ヲ經過シタルトキハ一脚ノ欵ハ免除スルコトヲ得

第一百四條 欵ヲ施シタル者改悛ノ狀最モ顯著ニシテ其施欵期限ノ四分ノ三ヲ經過シタルトキハ假ニ其欵ヲ免除スルコトヲ得

第一百五條 假ニ欵ヲ免除シタル者其罰期内更ニ懲罰ヲ受クルトキハ直ニ之ヲ復シ其假免中經過セシ日數ハ施欵期限ニ算入スヘカラス

第一百六條 懲罰ニ處シタル者アルトキハ典獄若クハ看守長時々其動靜ヲ觀察シ教誨師ヲシテ之ヲ問ハシムヘシ

附則

此細則ニ於テ市町村長トアルモノ市町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ戶長之ニ當ルヘシ

在監人動作時限表

月	起	床	監房掃除 並ニ喫飯	就	役	午	飯	罷	役	還	房	就	寢	服役時間合計
一	午前六時	一時	一時	午後七時	七時	十二時	四時	午後三時三十分	五時	午後八時	八時	七時三十分	八時	七時三十分時間
二	六時	一時	一時	七時	七時	十二時	四時	四時	五時三十分	八時	八時	八時	八時	八時間
三	五時三十分	一時	一時	六時三十分	六時	十二時	四時	四時	六時	九時	九時	八時三十分	八時	八時三十分時間
四	五時	一時	一時	六時	六時	十二時	四時	四時三十分	六時三十分	九時	九時	九時三十分	九時	九時三十分時間
五	五時	一時	一時	六時	六時	十二時	四時	五時	七時	九時	九時	九時三十分	九時	九時三十分時間
六	四時	一時	一時	五時	五時	十二時	四時	五時三十分	七時三十分	九時	九時	十時三十分	九時	十時三十分時間
七	四時	一時	一時	五時	五時	十二時	四時	五時三十分	七時三十分	九時	九時	十時三十分	九時	十時三十分時間
八	四時三十分	一時	一時	五時三十分	五時	十二時	四時	五時	七時	九時	九時	九時三十分	九時	九時三十分時間
九	五時	一時	一時	六時	六時	十二時	四時	四時三十分	六時	八時	八時	八時三十分	八時	八時三十分時間
十	五時三十分	一時	一時	六時三十分	六時	十二時	四時	五時三十分	七時三十分	九時	九時	八時三十分	八時	八時三十分時間

十一月	六時	一時	四時	七時	十二時	四時	四時三十分	八時	八時
十二月	六時三十分	一時	四時	七時三十分	十二時	四時	三時三十分	八時	八時
備考	一 就役後及退房ノ時間ヲ除クノ外ハ囚人ニシテ服役セサル者懲治人及刑事被告人ニモ亦本表ヲ適用ス 二 炊事又ハ病者ノ看護ニ従事スル囚人並ニ病者ノ起床及就寝時間ハ本表ニ依ルノ限リニ在ラス								

○陸軍監獄條例第一條明文外ノ囚人ニシテ集治監ニ入ルヘキモノハ
假留監ヘ押送收監ノ件 明治二十七年二月二十七日
內務省訓令第七號

廳 府 縣
集 治 監 假 留 監

今般發布ノ勅令第三號陸軍監獄條例第一條明文外ノ囚人ハ陸軍軍法會議ニ於テ處斷セラレタル者ト雖該軍法會議所在ノ地方監獄ニ收監シ普通裁判所處斷囚同様ニ取扱ヒ其集治監ニ入ルヘキモノハ假留監ヘ押送收監スヘシ費用ハ其所屬監獄費ヲ以テ支辨シ囑托婦女ニ係ル費用ハ一日一人金貳拾錢ノ割ヲ以テ陸軍省ヘ請求スヘシ

○假出場規則 明治十九年十一月十日
內務省令第二十四號

刑法第七十九條第八十條第八十二條ニ依リ懲治場ニ留置セラレタル者ニシテ獄則ヲ遵守シ改悛ノ狀アル時ハ警視總監北海道廳長官府縣知事ハ左ノ規則ニ據リ假ニ出場ヲ許スコトヲ得

假出場規則

第一條 假出場ヲ許スヘキ者アル時ハ典獄ヨリ其長官ニ狀ヲ具シテ認可ヲ受ク可シ

第二條 假出場ヲ許シタル時ハ典獄ヨリ其證票ヲ本人ニ下付ス可シ

第三條 假出場證票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

- 一 本人ノ屬籍氏名年齢住所懲治期限及ヒ宣告并ニ滿期ノ年月日
 - 一 殘期何年何月何日 假出場ヲ許ス 何年何月何日起
何年何月何日滿
 - 一 本日出場ヲ許スニ由リ住居ノ地ニ歸着ノ上ハ即時所轄警察署ニ其旨ヲ届出ツ可シ
 - 一 毎月一回謹慎ヲ表スル爲メ所轄警察署ニ到リ假出場證票ヲ出シ警察官吏ノ認印ヲ受ク可シ但已ムヲ得サル事故アレハ其事由ヲ届出可シ
 - 一 一日程ヲ過クル地ニ旅行スル時ハ其行先并往復滞在口數等ヲ詳記シ所轄警察署ニ届出可シ但其滞在一月以上ニ涉ル時ハ一箇月毎ニ其滞在地ノ警察署ニ到リ前項ノ手續ヲナス可シ
 - 一 事故アリテ其住居ヲ轉スル時ハ所轄警察署ニ届出ツ可シ
 - 一 第三項以下ノ事ハ本人自ラ爲ス能ハサル場合ニ於テハ親屬故舊代リテ之ヲ爲スコトヲ得
 - 一 右ノ各項ニ違背シタルトキハ直チニ出場ヲ停止シ出場中ノ日數ヲ懲治期限内ニ算入スルコトヲ得ス
- 第四條 假出場ヲ許シタル時ハ典獄ヨリ假出場證票及懲治申渡書ノ謄本ヲ具シ本人住居ノ地ノ警察署ニ通知スヘシ
- 第五條 警察署ニ於テ轉居ノ届ヲ得タル時ハ之ヲ其轉居地ノ警察署ニ通知シ第四條ニ記載シタル書類ヲ遞送スヘシ
- 第六條 假出場ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ尙ホ懲治場ニ留置シテ他ノ懲治者ト嚴ニ別

異ス可シ但住居遠地ニアリテ歸着スルノ資力ナキ者モ亦同シ
 第七條 假出場ヲ停止スヘキ時ハ本人住居ノ地ノ典獄ニ於テ其旨ヲ言渡シ直チニ假出場證票ヲ取上ケ
 其殘期ヲ執行ス可シ但甲地方ニ於テ下付セシ證票ヲ乙地方ニ於テ取上ケタル時ハ其事狀ヲ甲地方典
 獄ニ通知シ證票ヲ送致ス可シ
 第八條 假出場ヲ許サレタル其懲治期滿限ノ日ニ到レバ假出場證票ヲ所轄警察署ニ還納シ該警察署ヨ
 リ證票ヲ出シタル典獄ニ之ヲ遞送スヘシ

○看守及監獄備人ノ分掌例 明治二十二年六月二十六日
 內務省訓令第二十九號

看守及監獄備人ノ分掌例左ノ通改ム

第一章 監守ノ職務

第一條 晝夜交替シテ警守受持場ヲ巡警スヘシ
 第二條 看守長若クハ看守副長ノ立會ヲ受ケ在監人員ノ點檢ヲ爲スヘシ
 第三條 看守長若クハ看守副長ノ立會ヲ受ケ監房ヲ檢査シ其常置器具等ヲ點檢スヘシ
 第四條 在監人ノ郷貫、氏名、年齢、罪質、刑名等ヲ記憶スルハ勿論日々ノ行狀ヲ視察シ其事項ヲ手
 帳ニ詳記シ看守長若クハ看守副長ノ檢閱ニ供スヘシ
 第五條 在監人ノ役業ヲ督勵シ其科程ノ了否ヲ點檢スヘシ
 第六條 服役者ニシテ其作業ニ關セサル他事ヲ交談シ又ハ器具等ヲ交換シ或ハ漫リニ部外ノ工場ニ到
 ルカ如キ所爲ナカラシムヘシ

第七條 新ニ入監スルモノアルトキハ其身體衣服ヲ搜檢スヘシ其入監後監房ヲ出入スルトキモ亦同シ
 第八條 監門ヲ守リ其出入者ニ注目シ漫リニ通行セシムヘカラス
 第九條 監房ノ開閉ヲ掌リ其鎖否ヲ點檢スヘシ
 第十條 工場、器械庫其他ニアル物件排列ノ整否ヲ注視シ器具等ノ散失ナキ様嚴密取締ヲ爲スヘシ
 第十一條 炊場、浴場等ヲ巡視シ火災ノ虞ナキ様嚴密取締ヲ爲スヘシ
 第十二條 獄則違犯者又ハ應禁物藏匿等アルコトヲ認知シタルトキハ嚴密ニ取糺シ其證跡ヲ明舉シテ
 看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ
 第十三條 密室監禁者及屏禁、閉室、獨愼者ノ動靜ハ特ニ之ヲ視察シ其狀況ヲ看守長若クハ看守副長
 ニ具申スヘシ
 第十四條 戒具ハ日々點檢シ不時ノ使用ニ支障ナカラシムヘシ
 第十五條 食物ノ配與、獄衣其他給與品及差入品等ノ受渡ニ立會ヒ不正不良ノ所爲ナカラシムヘシ
 第十六條 在監人ノ接見及教誨ノ席ニ立會ヒ其舉動ヲ注視スヘシ
 第十七條 病者ノ醫治ニ立會ヒ其舉動ヲ注視スヘシ
 第十八條 在監人中ニ急發病者アルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ
 第十九條 水火風震等非常ノ變災ニ際シテハ最モ取締ヲ嚴ニシ在監人ヲ避ケシムルノ準備ヲナシ上官
 ノ指揮ヲ待ツヘシ
 但事急遽ニ出テ上官ノ指揮ヲ待ツノ迫ナキトキハ救護ノ爲メ一時房外ニ出スコトヲ得
 第二十條 反獄逃走等アルトキハ非常ノ合圖ヲ爲シ直ニ鎮壓捕獲ノ手配ヲナスヘシ此場合ニハ直ニ上
 官ニ報告スヘシ

但事急遽ニ出テ擲キ難キトキハ直ニ追跡スルコトヲ得

第二十一條 在監人ノ頭髮、身體、衣服ニ注目シ若シ垢染破損セシ等ノモノアルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ

第二十二條 監房、炊場、浴場、廁圍、工場等ノ掃除ニ立會ヒ不潔ナカラシムヘシ

第二十三條 押丁、授業手ノ在監人ニ接スル狀態ヲ視察シ若シ相狃ル、モノアルヲ認ムルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ

第二十四條 監内ノ異狀ヲ見聞スルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ押丁ヨリ報告又ハ在監人等ヨリ報告ヲ得タルトキモ亦同シ

第二十五條 在監人ノ押送ヲ掌リ其押送中ハ在監人ノ路人ト聲語シ又ハ之ヲ侮笑シ又ハ歩行ヲ紊シテ行人ヲ妨クル等不都合ノ所爲ナカラシムヘシ

第二十六條 在監人ヨリ願訴ヲ爲サントスル者アルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ若シ封書ヲ出ストキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ致スシ

第二十七條 文字ヲ書スル能ハサル在監者ノ爲メニ願訴ノ書面ヲ代書シ且之ヲ本人ニ讀ミ聽スヘシ

第二十八條 典獄ノ指揮ヲ受ケ専ラ已決囚及懲治人ノ教誨ニ從事シ又懲治人及十六歳未満ノ已決囚ニ讀書、算術、習字等ノ學科ヲ教授スヘキモノトス

第二十九條 新ニ入監スル已決囚若クハ懲治人アルカ又ハ賞表ヲ受クヘキ者アルトキハ其者ニ對シ特ニ教誨ヲ爲スヘシ其出獄スルトキモ亦同シ

第三十條 在監人ノ起居、動靜、勤怠及其行狀ノ良否ハ時々其狀ヲ具シテ典獄ニ報告スヘシ

第三十一條 監房ヲ巡廻シ修身齊家ノ講談ヲ爲シ又揭示條項等ヲ解説スヘシ

第三十二條 懲治人ノ就學、年月、卒業ノ科目、學業ノ優劣等ヲ簿冊ニ記載シ典獄ノ檢閱ニ供スヘシ

第三十三條 在監人ノ賞罰ニ付典獄ヨリ意見ヲ問フコトアルトキハ之ニ報告スヘシ

第三十四條 獄則處分ヲ受ケ受罰中ノ者アルトキハ其居所ニ就キ教誨ヲ加ヘ又其狀況ヲ視察シテ典獄ニ報告スヘシ

第三十五條 受罰者ニシテ改悛ノ狀顯著ナルヲ認知セシトキハ典獄ニ具狀スヘシ

第三十六條 授學上及教誨上ニ要スル書籍、器具等ヲ管理シ散失破損セサル様注意スヘシ

第三十七條 特赦、免幽閉、假出獄、假出場、假免懲罰ノ言渡又ハ賞表授與式ニ立會フヘシ

第三十八條 典獄ノ指揮ヲ受ケ在監人ノ疾病ヲ診察治療シ醫治ニ關スル一切ノ事務ニ從事スヘキモノトス

第三十九條 常ニ監内一般ノ衛生事項ニ注目シ其方法ヲ考究シテ意見ヲ典獄ニ具申スヘシ若シ衛生上ニ關スル事項ニ付典獄ヨリ諮問ヲ受ケタルトキハ之ヲ詳查シテ報告スヘシ

第四十條 在監人ヲ診斷シタルトキハ其氏名、病性、徵候、治否、及處方ヲ調治簿ニ詳記シ典獄ノ檢閱ニ供スヘシ

第四十一條 已決囚新ニ入監スルトキハ其體質ヲ檢査シ其體質ノ強弱等ヲ典獄ニ具申スヘシ

第四十二條 各監房及工場等ヲ巡廻シ在監人ノ飲食物及衣類等ヲ注視シテ衛生上ニ害アリト認ムル事アルトキハ改良ノ意見ヲ典獄ニ具申スヘシ

第四十三條 流行病及傳染病發生ノ兆アルカ又ハ該患者アルトキハ直ニ典獄ニ稟議シ其病症及感染ノ

形状ヲ詳悉シ豫防消毒ヲ施行スヘシ

第四十四條 減食又ハ閉室等ノ懲罰ニ處セラルヘキ者ヲ診察シ其身體ニ妨ケナキヤ否ヤヲ詳記シ其證
明書ヲ典獄ニ差出スヘシ

第四十五條 在監人中ニ急發病者アルノ報知ヲ受ケタルトキハ直ニ其居所ニ就キ診察治療スヘシ

第四十六條 服役スヘキ囚徒ノ疾病快復スルトキハ其堪ユヘキ役業ノ種類ヲ指定シ典獄ニ具申スヘシ

第四十七條 患者攝生ノ爲メ特別ノ衣食物品等ヲ要スルトキハ事由ヲ詳記シ典獄ニ具申スヘシ

第四十八條 施療上危險ノ恐アル手術ヲ施ストキハ其旨ヲ典獄ニ具申シテ許可ヲ受クヘシ

第四十九條 患者癩癧疾若クハ危篤ニ至レハ診斷書ニ處方箋ヲ添ヘ之ヲ典獄ニ差出スヘシ

第五十條 在監人中病死又ハ變死シタルモノアルトキハ典獄並ニ看守長ト俱ニ殮屍シ其死亡ノ原由及
病症、死狀等ヲ詳記シ死亡證書又ハ檢案書ヲ添ヘ之ヲ典獄ニ差出スヘシ

第五十一條 患者若シ死後ニ解剖ヲ請フモノアルトキハ速ニ之ヲ典獄ニ具申スヘシ

第五十二條 在監人中作病ヲ構ヘ診察ヲ乞フモノアルトキハ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ

第五十三條 差入飲食物アルトキハ之ヲ検査シ其可否ヲ典獄ニ具申スヘシ

第五十四條 看病者ノ適否ヲ監視シ意見アルトキハ直ニ典獄ニ具申スヘシ

第五十五條 醫療器械並ニ書籍等ヲ管理シ散失破損セサル様注意スヘシ

第五十六條 患者ノ日表及月表ヲ製シ典獄ノ檢閲ニ供スヘシ

第五十七條 看守押丁志願者ノ體格ヲ検査スヘシ

第四章 女監取締ノ職務

第五十八條 看守長ノ指揮ヲ受ケ女監ノ戒護其他婦女ノ取締ニ關スル一切ノ事務ニ從事スルモノトス

第五十九條 看守ノ職務第一條乃至第二十四條及第二十六條第二十七條ハ本職ニモ之ヲ適用ス

第六十條 病監ニ於テ治療中ノ未決患者ヲ看護スヘシ

第六十一條 作業器械及素品製品ノ受渡ヲ爲スヘシ

第五章 押丁ノ職務

第六十二條 看守ノ助手トナリ新ニ入監スル者ノ身體衣服ヲ搜檢スヘシ入監後監房ヲ出入スルトキモ
亦同シ

第六十三條 看守ノ指揮ヲ受ケ監外押發ノ在監人ニ戒具ヲ施シ又ハ控繩戒護ニ從事スヘシ

第六十四條 死刑者アルトキハ上官ノ指揮ヲ受ケ其執行方ニ從事スヘシ

第六十五條 看守ノ助手トナリ監房ノ検査ヲ爲スヘシ

第六十六條 看守ノ指揮ヲ受ケ監門及監房戸扉ノ開閉ヲ爲スヘシ

第六十七條 看守ノ立會ヒヲ受ケ食物ノ配與、獄衣其他給與品及差入品ノ受渡ヲ爲スヘシ

第六十八條 上官ノ指揮ヲ受ケ病監ニ於テ治療中ノ未決患者ヲ看護スヘシ

第六十九條 上官ノ指揮ヲ受ケ刑死者及死亡者ノ死體取片付方ニ從事スヘシ

第七十條 看守ノ立會ヒヲ受ケ作業器械及素品製品ノ受渡ヲナスヘシ

第七十一條 工場内其他ニアル諸器具其他ノ物件ヲ排列シ看守ノ點檢ニ供スヘシ

第七十二條 獄具及消防具等ヲ監守シ毀損紛亂セサル様注意スヘシ

第七十三條 在監人ノ頭髮身體衣服ニ注目シ若シ垢染破損セシ等ノモノアルトキハ直ニ看守ニ申告ス
ヘシ

第七十四條 獄則違犯者又ハ應禁物藏匿等アルト認知シタルトキハ直ニ看守ニ申告スヘシ

第七十五條 監内ニ異狀アルトキハ直ニ之ヲ上官ニ申告スヘシ在監人ヨリ密告ヲ得タルトキモ亦同シ
第七十六條 在監人ノ行狀ノ良否ヲ認知シタルトキハ之ヲ手帖ニ記シ置キ看守ニ申告スヘシ
第七十七條 炊場浴場等ニ於テハ火災ノ虞ナキ様注意スヘシ

第六章 授業者ノ職務

第七十八條 工業掛員ノ指揮ヲ受ケ農業工業等ヲ教授スヘシ
第七十九條 受業囚ヲ督勵シ科程ノ了否ヲ注視スヘシ
第八十條 授業上ニ要スル器械雜具ヲ整理シ取扱上及保存方ニ注意スヘシ
第八十一條 役業ノ科程及工錢料定上ニ付テハ意見ヲ工業掛ニ開申スヘシ
第八十二條 役業ノ廢設及改良方ニ付意見アルトキハ之ヲ典獄ニ具申スヘシ
第八十三條 役業ヲ怠ルカ又ハ指導ニ從ハサルモノアルトキハ速ニ看守長ニ申告スヘシ
第八十四條 器具ノ新調及修繕ヲ要スルトキハ其買入又ハ修繕方ヲ工業掛ニ申立ツヘシ
第八十五條 毎月受業囚ノ勤怠及技藝ノ優劣進否等ヲ調査シ之ヲ看守長ニ具申スヘシ

○刑事被告人及囚人ニ係ル費用ノ件 明治二十三年十月三十一日 内務省令第五號

重罪輕罪ノ公訴ノ判決ニ對シ控訴アリタル場合又ハ上告ニ由リ他ノ裁判所ニ移スノ言渡アリタル場合ニ於テ被告人拘禁中ノ費用並ニ裁判確定ノ後囚人ニ係ル費用ハ總テ最前裁判言渡アリタル地方ノ監獄費ヲ以テ支辨シ其費額ハ一人一日金二十錢トス
但裁判確定後ノ囚人ハ汽車又ハ汽船ニ依リ最モ押送ニ便ナル地方ニ在テハ原地方廳ノ請求ニ依リ送還スルコトヲ得此場合ニ於テハ護送官吏ノ旅費及囚人ニ屬スル費用ハ請求地方ノ負擔トス

○消防組規則 明治二十七年二月九日 勅令第十五號

朕消防組規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

消防組規則

第一條 府縣知事水火災警戒防禦ノ爲メ必要ノ地ニ消防組ヲ設置スルトキハ此ノ規則ニ定ムル所ノ條規ニ依ルヘシ
第二條 消防組ノ設置區域ハ市町村ノ區域ニ依ルヘシ
町村制第十六條第二項ニ依リ町村組合ヲ設ケタル場合ニ於テハ消防組ノ設置組織ハ其ノ組合ノ區域ニ依ルコトヲ得
府縣知事ハ土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ市町村内ノ一以上ノ大字若クハ區ヲ以テ消防組ノ設置區域ト爲スコトヲ得
第三條 消防組ハ組頭一人小頭若干人及消防手若干人ヲ以テ之ヲ組織ス
組頭及小頭ハ警部長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル警察署長之ヲ命免ス
消防手ハ警察署長之ヲ命免ス
第四條 組頭ハ警察官ノ命ヲ承ケ部下ノ指揮取締ニ任シ庶務ニ從事ス
小頭ハ組頭ヲ助ケ組頭差支アルトキハ之ニ代ルモノトス

- 第五條 消防組ハ府縣知事之ヲ數部ニ分ツコトヲ得
- 第六條 消防組ハ府縣知事ニ於テ指定シタル警察署長之ヲ指揮監督ス
消防組ハ警察官ノ指揮ニ從ヒ進退スヘシ但水火災ニ際シ警察官臨場ノ暇ナキトキハ組頭若クハ小頭之ヲ指揮ヲ爲スコトヲ得
- 第七條 消防組ハ其ノ區域外ノ水火災ト雖警察署長ノ指揮ニ從ヒ其ノ警防ニ應援スヘシ
危急ノ場合ニ於テ警察署長前項ノ指揮ヲ爲スノ暇ナキトキハ他ノ警察官警察署長ニ代テ其ノ指揮ヲ爲スコトヲ得
- 第八條 警部長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケテ其ノ地方全體ノ消防組ヲ指揮監督ス
消防組ハ水火災警防ノ爲メニアラサレハ集合若クハ運動スルコトヲ得ス但警部長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル警察署長ニ於テ儀式訓練及他ノ災害ノ爲メニ集合運動ヲ命シタル場合ハ此ノ限ニアラス
- 第九條 消防組ノ服務規律及懲戒ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ
- 第十條 消防組ノ舉動治安ニ妨害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ之ヲ解クコトヲ得
- 第十一條 府縣知事ニ於テ必要ト認ムルトキハ市町村又ハ町村組合ヲシテ消防組員ニ一定ノ手當並ニ被服等ヲ給セシムルコトヲ得
- 第十二條 消防組ノ使用ニ必要ナル器具及建物ハ府縣知事ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ市町村及町村組合ニ於テ之ヲ設備スヘシ
- 第十三條 消防組ニ關スル費用ハ其ノ市町村又ハ町村組合ノ負擔トス
- 第十四條 従来ノ市町村消防組ニシテ其ノ區域此ノ規則第二條ニ該當スルモノハ此ノ規則施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ於テ府縣知事此ノ規則ニ從テ其ノ組織ヲ改ムヘシ

- 消防組ニ關スル従来ノ市町村條例ハ前項ニ依リ組織ヲ改メタル日ヨリ之ヲ廢止ス
- 第十五條 前條ニ當ラサル従来ノ消防組ハ官ノ許可ヲ得タルト否トニ拘ラス此ノ規則施行ノ日ヨリ總テ廢止ス
- 第十六條 此ノ規則ヲ施行スル爲メニ必要ナル細則ハ内務大臣定ムル所ノ綱領ニ依リ府縣知事之ヲ定ム
- 第十七條 此ノ規則ハ沖繩縣及東京市ニ適用セス但第七條ハ東京市ニモ之ヲ適用ス
- 第十八條 北海道ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ北海道廳長官之ヲ行フ
- 第十九條 東京府郡部ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ警視總監之ヲ行ヒ警部長ノ職務ハ警察署長之ヲ行フ
- 第二十條 第八條及第十條ハ此ノ規則發布ノ日ヨリ施行シ従来ノ消防組ニシテ第十四條ニ依リ組織ヲ改ムヘキモノ及第十五條ニ依リ廢止セラルヘキモノニ適用ス

○消防組規則施行概則 明治二十七年二月十日 内務省令第一號

- 消防組規則施行概則 左ノ通之ヲ定ム
- 消防組規則施行概則
- 第一條 消防組並部ニハ細則ノ定ムル所ニ從ヒ一定ノ名稱ヲ附スヘシ
- 第二條 府縣知事(東京府ハ警視總監北海道ハ北海道廳長官以下倣之)ハ必要アリト認ムルトキハ消防組若クハ部ニ事務所ヲ設クルコトヲ得其設置、備品及執務章程等ハ細則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
- 第三條 消防組若クハ部ハ細則ノ定ムル所ニ從ヒ一定ノ人員ヲ以テ之ヲ編制スヘシ

第四條 消防手ハ年齢滿十八年以上ノ男子ニシテ平素行爲粗暴ニ涉ラス身體強壯ナル者ヲ選フヘシ
但組頭及小頭ハ消防手ノ中ヨリ選拔ス

第五條 前條組頭小頭及消防手ノ採用ニ關シ規定ヲ設クルノ必要アルトキハ細則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第六條 左ニ掲クル者ハ消防手トナルコトヲ得ス
一 公權褫奪若クハ停止中ノ者
二 禁治産中ノ者
三 公費ヲ以テ救助中ノ者
四 懲戒處分ニ依リ消防手ノ職務ヲ免セラレ滿三年ヲ經過セサル者

第七條 消防組員在職中前條各號ノ一ニ觸ル、者アルトキハ直チニ其職ヲ免スヘシ

第八條 前數條ニ掲載セルモノヲ除クノ外尙ホ消防組員ノ命免及辭職ノ手續等ニ關シテ規定ヲ設ルノ必要アルトキハ細則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第九條 水火災ノ信號及信號擔當者等ハ細則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十條 消防組規則第七條ノ場合ニ於テ消防組ヲシテ機敏ニ相應援セシムルノ規定ハ細則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十一條 消防組員ヲシテ參集又ハ現場ヘ出張ノ途中ハ勿論平常タリトモ他人ヘ對シ強迫カマシキ所爲又ハ粗暴ノ舉動ヲ爲サシメサル爲メ細則ヲ定ムヘシ

第十二條 消防組ハ期ヲ定メ演習ヲ爲スヘシ其方法等ハ細則ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 細則ノ定ムル所ニ從ヒ建物ヲ造設若クハ修繕スルノ必要アルトキハ警察署長ハ警部長ノ指揮ヲ受ケ市參事會、町村長ニ移牒シテ之ヲ爲サシムヘシ

第十四條 消防器具ノ種類、備置場、保存ノ方法等ハ細則ノ定ムル所ニ依ル

第十五條 組頭ハ細則ノ定ムル所ニ從ヒ器具ノ現況ヲ市參事會、町村長ニ報告スヘシ

第十六條 消防組ニハ組員名簿及消防器具目錄ヲ備置クヘシ

第十七條 地方ノ狀況ニ依リ消防組員ニ被服並月手當、出場手當、傷滅手當等ヲ給與スルノ必要アルトキハ細則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十八條 警部長ハ少クトモ毎年一回警察署長ハ少クトモ毎三月一回消防組ヲ巡檢シ紀律ノ保持、器具ノ完備等ヲ監査スヘシ

第十九條 懲戒ハ情況ノ輕重ニ從ヒ解職、停職、停給(月手當アル)及譴責トス

第二十條 停職ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス又停給ハ三箇月分ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十一條 懲戒處分ノ手續ハ細則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十二條 此概則ニ於テ市町村ト稱スルハ北海道ノ區ヲ包含スルモノトス
市町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ此概則ニ規定シタル市參事會、町村長ノ職務及關係ハ區長又ハ戶長ニ屬スルモノトス

○出版法 明治二十六年四月十三日

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル出版法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

出版法

第一條 凡ソ機械舎密其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖畫ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其ノ文書ヲ著述シ又ハ編纂シ若ハ圖畫ヲ作為スル者ヲ著作者ト云ヒ發賣預布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

第二條 新聞紙又ハ定期ニ發行スル雜誌ヲ除クノ外文書圖畫ノ出版ハ總テ此ノ法律ニ依ルヘシ但シ專ラ學術、技藝、統計、廣告ノ類ヲ記載スル雜誌ハ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得

第三條 文書圖畫ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達スヘキ日數ヲ除キ三日前ニ製本二部ヲ添ヘ内務省ニ届出ヘシ

第四條 官廳ニ於テ文書圖畫ヲ出版スルトキハ其ノ官廳ヨリ發行前ニ製本二部ヲ内務省ニ送付スヘシ

第五條 出版届ハ著作者又ハ其ノ相續者及發行者連印ニテ之ヲ差出スヘシ但シ非賣品ハ著作者又ハ發行者ノミニテ届出ルコトヲ得

版權ノ保護ナキ文書圖畫ヲ出版スルトキ若ハ著作者又ハ其ノ相續者ヲ知ルヘカラサルトキハ其ノ由ヲ記シ發行者ヨリ差出スヘシ

學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ハ其ノ學校、會社、協會等ヲ代表スル者發行者ト連印シテ之ヲ届出ヘシ

第六條 文書圖畫ノ發行者ハ文書圖畫ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル但シ著作者又ハ其ノ相續者ハ發行者ヲ兼スルコトヲ得

第七條 文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第八條 文書圖畫ノ印刷者ハ其ノ氏名、住所及印刷ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載シ住所ト印刷所ト同シカラサルトキハ印刷所ヲモ記載スヘシ

印刷所若數人ノ共有ニ係ルトキハ營業上其ノ印刷所ヲ代表スル者ヲ以テ印刷者トス

前二項ノ印刷所ニシテ若營業上慣行ノ名稱アルモノハ其ノ名稱ヲモ記載スヘシ

第九條 書簡、通信、報告、社則、塾則、引札、諸藝ノ番附諸種ノ用紙證書ノ類及寫眞ハ第三條第六條第七條第八條ニ據ルヲ要セス但シ第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ル、者ハ此ノ法律ニ依テ處分ス

第十條 文書圖畫ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其ノ都度第三條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ雜誌類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ經テ其ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ十二箇月間一回ヲモ發行セサルトキハ廢刊シタルモノト看做スヘシ

第十一條 一タヒ出版届ヲ爲シタル文書圖畫ノ再版ハ出版届ヲ要セスト雖若改正増減シ又ハ註解、附録、繪畫等ヲ加ヘタルトキハ仍第三條ニ依ルヘシ

第十二條 演說若ハ講義ノ筆記ハ演說者若ハ講義者ヲ以テ著作者トス但シ筆記者ニ於テ演說者若ハ講義者ノ承諾ヲ得テ自ラ之ヲ出版スルトキハ筆記者ヲ著作者ト看做スヘシ此ノ場合ニ於テ記載ノ事項第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ル、トキハ演說者若ハ講義者筆記者ト同ク其ノ罪ヲ論ス

公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ヲ新聞紙若ハ雜誌ノ通信者ニ於テ筆記シ其ノ新聞紙若ハ雜誌ニ記載シタルモノ及總テ演說者講義者ノ承諾ヲ經スシテ其ノ筆記ヲ出版シタルモノニ關シテハ演說者若ハ講義者ハ著作ノ責ニ任セス

公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ノ外ハ講義者又ハ演說者ノ承諾ヲ經ルニ非サレハ他人ニ於テ其ノ筆記

ヲ出版スルコトヲ得ス但シ本項ニ違フ者ハ版權法ニ據リ其ノ責ニ任セシム
第十三條 二種以上ノ著作若ハ演說講義ノ筆記ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲ストキハ編纂者ヲ著作ト看
做スヘシ

前條第一項ノ末段及第二項第三項ハ本條ニ適用スヘシ

第十四條 翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作ト看做スヘシ

第十五條 學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ハ其ノ出版届ニ署名シタル
代表者ヲ以テ著作ト看做スヘシ

第十六條 罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑事ニ觸レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ若ハ賞恤スルノ文書ヲ出
版スルコトヲ得ス

第十七條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ス
傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ事項ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十八條 外交軍事其ノ他官廳ノ機密ニ關シ公ニセサル官ノ文書及官廳ノ議事ハ當該官廳ノ許可ヲ得
ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十九條 安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ内務大臣
ニ於テ其ノ發賣頒布ヲ禁シ其刻版及印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖畫ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル
トキハ内務大臣ハ其ノ文書圖畫ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其ノ印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 軍事ノ機密ニ關スル文書圖畫ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得

ス

第二十二條 第三條ノ届出ヲ爲サシテ文書圖畫ヲ出版シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第六條ヲ犯ス者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 發行者自己ノ氏名、住所又ハ發行ノ年月日又ハ印刷者ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ
其ノ發行スル文書圖畫ニ記載セス其ノ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰
金ニ處ス

第二十五條 印刷者自己ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ印刷スル所ノ文書圖畫ニ記載セス若ハ
之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ罰前條ニ同シ
住所ト印刷所ト同シカラサルトキ及印刷所ニシテ營業上慣行ノ名稱アルトキ印刷所及名稱ヲ記載セ
サル者亦前項ニ同シ

第二十六條 政體ヲ變壞シ國憲ヲ紊亂セムトスル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作、發行者、印刷
者ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十七條 風俗ヲ壞亂スル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作、發行者ヲ十一日以上六月以下ノ輕
禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第十六條第十七條第十八條第二十一條ニ觸ル、文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作、發
行者ヲ十一日以上一年以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第二十條ニ依リ發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖畫ヲ發賣頒布シタル者罰前項ニ同シ其ノ未
タ發賣頒布セサル文書圖畫ハ之ヲ沒收ス

第三十條 第二十六條第二十七條第二十八條ノ場合ニ於テ刻版及印本ハ檢事ニ於テ假ニ之ヲ差押フ

ルコトヲ得

第三十條 前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其差押フヘキ部分ト他ノ部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ分割スルコトアルヘシ

第三十一條 文書圖書ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ノ證明ヲ許スコトヲ得若シテ證明シタルトキハ其ノ罪ヲ免ス損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第三十二條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用非ス

第三十三條 此ノ法律ニ關ル公訴ノ時効ハ一年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第三十四條 此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ其ノ記載ノ事項第二條ノ範圍外ニ涉ルトキハ内務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ出版スルコトヲ差止ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ一箇年ヲ經ルニ非サレハ更ニ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得ス

第三十五條 文書圖書ヲ印刷スルトキハ直ニ發賣頒布セスト雖其ノ目的發賣頒布ニ在ルモノハ總テ此ノ法律ニ依ル

○版權法

明治二十六年四月十三日
法律第十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル版權法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

版權法

第一條 凡ソ文書圖書ヲ出版シテ其ノ利益ヲ專有スルノ權ヲ版權ト云ヒ版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ其ノ文書圖書ヲ翻刻スルヲ僞版ト云フ

第二條 出版法ニ依リ文書圖書ヲ出版スル者及出版法又ハ新聞紙法ニ依リ雜誌ヲ發行スル者ハ總テ此ノ法律ニ依リ其ノ版權ノ保護ヲ受クルコトヲ得

第三條 版權ノ保護ヲ受ケムト欲スル者ハ發行前登錄料トシテ製本六部ノ定價ヲ添へ版權登錄ヲ内務省ニ願出ヘシ但シ六部ノ定價合シテ五十錢ニ滿サルモノハ五十錢トシ十圓ヲ超ユルモノハ十圓トス版權登錄ノ文書圖書ニハ其ノ定價ヲ記載スヘシ版權登錄後定價ヲ增加スルモノハ其ノ未納額ヲ内務省ニ追納スヘシ但シ追納額ハ最初ノ納額ト通算シテ十圓ニ至テ止ム

第四條 官廳ニ於テ文書圖書ヲ出版シ版權ノ登錄ヲ得ムト欲スルトキハ其ノ由ヲ内務省ニ通知スヘシ

第五條 版權登錄ノ文書圖書ニハ其ノ保護年限間ハ版權所有ノ四字ヲ記載スヘシ其ノ記載セサルモノハ登錄ノ效ヲ失フモノトス

第六條 内務省ニ於テハ版權登錄簿ヲ備置キ登錄ノ願出アル毎ニ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付スヘシ

第七條 版權ハ著作ニ屬シ著作死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス講義若ハ演說ヲ筆記シタルモノ、版權亦同シ但シ公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ヲ筆記シテ出版スルモノハ版權侵害ト認ムルノ限ニ在ラス

翻譯書ノ版權ハ翻譯者ニ屬シ翻譯者死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス
官廳、學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ノ版權ハ其ノ官廳、學校、會社、協會等ニ屬スルモノトス

版權法

二種以上ノ著作若ハ講義演説ノ筆記ヲ編纂シタル文書圖書ノ版權ハ編纂者ニ屬シ編纂者死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス但シ其ノ原著作及原筆記ニ別ニ版權所有者アルトキハ其ノ所有主ノ承諾ヲ經タル後ニ非サレハ其ノ部分ニ付本項ヲ適用セス

書畫ノ版權ハ其ノ原本ノ所有者ニ屬スルモノトス

第八條 版權ハ制限ヲ附シ若ハ附セスシテ賣渡シ又ハ讓渡スコトヲ得

第九條 版權登錄證書ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ事由ヲ記シ其ノ再度下付ヲ内務省ニ願出ルコトヲ得但シ手数料トシテ五十錢ヲ納ムヘシ

版權登錄證書ニ認認アリタルトキハ其ノ理由ヲ記シ其ノ更正ヲ内務省ニ願出ルコトヲ得但シ其ノ誤謬官ニ在ル場合ノ誤ハ手数料トシテ五十錢ヲ納ムヘシ

第十條 版權保護ノ年限ハ著作者ノ終身ニ五年ヲ加ヘタルモノトス若版權登錄ノ月ヨリ死亡ノ月マテヲ計算シ之ニ五年ヲ加ヘ仍三十五年ニ足ラサル時ハ版權登錄ノ月ヨリ三十五年トス

數人ノ合著ニ係ルモノ、版權年限ハ最終ニ死亡シタル者ニ據リテ計算ス

官廳又ハ學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書并ニ著作者死亡ノ後ニ出版スル文書圖書ノ版權年限ハ版權登錄ノ月ヨリ計算シ三十五年トス

第十一條 冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル文書圖書ノ版權年限ハ每號其ノ出版ノ月ヨリ起算ス但シ其ノ都度第三條ノ手續ヲナスヘシ

雜誌ノ類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ得テ第三條ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第十二條 版權ノ保護ハ其ノ文書圖書ヲ改正増減シ又ハ註解、附録、繪圖等ヲ加ヘ又ハ製本ノ式ヲ改メ又ハ冊數ヲ分合スルカ爲變更スルコトナカルヘシ

版權登錄ヲ得タル文書圖書ニ挿入シタル寫真ニシテ特ニ其ノ文書圖書ノ爲ニ寫シタルモノハ其ノ文書圖書ト共ニ版權ノ保護ヲ受クルモノトス

第十三條 版權年限ヲ經過スルモ版權所有者ノ願出ニ依リ内務大臣ニ於テ必要ト見做ストキハ仍十年間版權保護ノ期限ヲ延スコトアルヘシ

第十四條 文書圖書ノ版權年限中所有者死亡シ他人ニ於テ其ノ版權相續者ナキコトヲ確信シ之ヲ出版セムト欲スルトキハ其ノ由ヲ官報及東京ノ四社以上ノ重ナル新聞紙並ニ其ノ所有者居住地ノ新聞紙ニ七日以上廣告シ最終ノ廣告日ヨリ六箇月内ニ版權相續者ノ出テサルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ出版シ版權ヲ繼續スルコトヲ得

著作者又ハ相續者ヲ知ルヘカラサル著作ニシテ未タ出版セサルモノ亦前項ノ手續ニ依リ出版シ版權ノ保護ヲ受クルコトヲ得

第十五條 新聞紙ニ於テ二號以上ニ涉リ記載シタル論説、記事又ハ小説及二號以上ニ涉ラスト雖特ニ一欄ヲ設ケ冒頭ニ禁轉載ト記シタルモノハ其ノ編輯者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ刊行ノ月ヨリ二年内ニ之ヲ他ノ新聞紙若ハ雜誌ニ轉載シ又ハ之ヲ編纂シテ出版スルコトヲ得ス其ノ二年ヲ經ルト雖已ニ一部ノ書ト爲シ版權登錄ヲ經タルモノハ原文ニ就テ更ニ編纂スルコトヲ得ス

第十六條 版權所有ノ文書圖書ヲ僞版シタル者ハ其ノ版權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ其ノ寫本ヲ發賣シテ版權ヲ犯ス者亦同シ

第十七條 僞版ノ訴アリタルトキ裁判官ハ出訴者ノ情願アルニ於テハ假ニ其ノ發賣願布ヲ差止ムルコトヲ得但シ審理ノ末僞版ニ非スト判決セラレタルトキハ出訴者ニ於テ其ノ差止ヨリ生スル損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第十八條 偽版ニ關ル損害賠償ノ責ハ偽版者ノ相續者ニ及フモノトス
 第十九條 版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ版權所有ノ文書圖畫ヲ翻譯シ増減シ註解、附録、繪圖等ヲ加ヘ若ハ其ノ未タ完結セサル部分ヲ續成シテ出版スル者及第十五條ニ違フ者ハ偽版ヲ以テ論ス
 他人ノ講義又ハ公開ナラサル席ニ於テ爲シタル他人ノ演說ヲ筆記シ其ノ承諾ヲ經スシテ出版スル者亦前項ニ同シ

第二十條 翻譯書ノ版權ハ其ノ翻譯者ニ屬スト雖其ノ原書ニ就キ別ニ翻譯スル者ニ向ヒ偽版ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス但シ其ノ既ニ出版スル所ノ翻譯ヲ剽竊シタルコトヲ證明スルモノハ此ノ限ニ在ラス
 第二十一條 世人ヲ欺瞞スル爲故ラニ版權所有ノ文書圖畫ノ題號ヲ冒シ或ハ摸擬シ又ハ氏名、社號、屋號等ノ類似シタルモノヲ湊合シテ他人ノ版權ヲ妨害スル者ハ偽版ヲ以テ論ス

第二十二條 著作人又ハ其ノ相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル文書圖畫ヲ出版シ又ハ非賣ノ文書圖畫ヲ翻刻スルモノ亦偽版ヲ以テ論ス所有者ノ承諾ヲ經スシテ書畫ヲ出版スルモノ亦同シ
 第二十三條 文書圖畫ヲ寫眞ト爲シ因テ其ノ版權ヲ犯スモノハ偽版ヲ以テ論ス
 第二十四條 内國ニテ版權所有ノ文書圖畫ヲ外國ニ於テ偽版シタルモノヲ輸入販賣スル者ハ偽版ヲ以テ論ス

第二十五條 偽版ノ訴アリテ其ノ偽版タルヤ否ヲ決シ難キトキハ其ノ訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ三名以上ノ鑑定者ヲ選ヒ之ヲ鑑定セシムルコトアルヘシ

第二十六條 偽版ニ關ル損害賠償ノ時效ハ其ノ原書ノ版權年限終ルノ後三年ヲ經過スルニ因テ成就ス
 第二十七條 偽版者及情ヲ知ルノ印刷者、販賣者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮若ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

偽版ニ係ル刻版及印本ハ其ノ何人ノ手ニ在ルヲ問ハス之ヲ沒收シ其ノ既ニ販賣シタルモノハ其ノ賣得金ヲ沒收シテ併セテ被害者ニ下付ス

第二十八條 版權ヲ所有セサル文書圖畫ト雖之ヲ改竄シテ著作人ノ意ヲ害シ又ハ其ノ表題ヲ改メ又ハ著作人ノ氏名ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作ト詐稱シテ翻刻スルヲ得ス違フ者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ著作人又ハ發行者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第二十九條 第三條ノ手續ヲ爲サスシテ版權所有ノ字ヲ記載シタル文書圖畫ヲ出版スル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス

第三十一條 此ノ法律ニ關ル公訴ノ時效ハ二年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第三十二條 従前ノ出版條例ニ據リ免許ヲ得タル者ノ版權年限ハ従前ノ條例ニ依リ計算スルモノトス

○脚本樂譜條例 明治二十年十二月二十八日 勅令第七十八號

朕脚本樂譜條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

脚本樂譜條例

第一條 演劇脚本及樂譜ハ出版條例及版權條例ニ據リ之ヲ出版シ及版權ヲ所有スルコトヲ得
 第二條 演劇脚本若クハ樂譜ヲ出版シテ版權ヲ所有スル者ハ版權年限中ハ其興行權（即チ利益ノ爲メ公衆ノ前ニ演スルノ權）ヲ併セ有スルコトヲ得但興行權ヲ有セントスルトキハ其脚本又ハ樂譜ニ與

行權所有ノ五字ヲ記載スヘシ

第三條 演劇脚本及樂譜ノ興行權ハ制限ヲ付シ若クハ付セスシテ之ヲ賣渡シ讓渡スコトヲ得

第四條 演劇脚本若クハ樂譜ノ興行權ヲ犯シタル者ハ興行權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ著作者又ハ其相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル脚本若クハ樂譜ヲ興行スル者亦同シ

第五條 興行ニ關スル損害賠償ノ責ハ其興行權ヲ犯シタル最終ノ月ヨリ一年ヲ以テ期滿得免ノ期トナス

○寫真版權條例

明治二十年十二月二十八日 勅令第七十九號

朕寫真版權條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

寫真版權條例

第一條 凡ソ光線ト藥品トノ作用ニヨリ人物器物景色其他物象ノ眞形ヲ寫シタルモノヲ寫真ト云ヒ寫真ヲ發行シテ其利益ヲ專有スルノ權ヲ寫真版權ト云フ

第二條 寫真版權ハ寫真師ニ屬シ寫真師死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス但他人ノ囑托ニ係ルモノ、寫真版權ハ囑托者ニ屬シ囑托者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

囑托ニ係ル寫真ノ種板ニシテ現存スルモノハ版權所有者ニ於テ之ヲ寫真師ヨリ受取ルコトヲ得ルモノトス

第三條 寫真版權ノ保護ヲ受ント欲スル者ハ發行前寫真一版ニ付見本二葉及六葉ノ定價ヲ添ヘ版權登

録ヲ内務省ニ願出ヘシ但人物ノ寫真ハ登錄ヲ待タズシテ其保護ヲ受クルモノトス

第四條 版權登錄ノ寫真ニハ其保護年限間ハ版權所有者ノ氏名住所版權登錄ノ年月ヲ記載スヘシ其記載セサル者ハ登錄ノ効ヲ失フモノトス

第五條 内務省ニ於テハ寫真版權登錄簿ヲ備ヘ置キ登錄ノ願出アリタルトキハ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付スヘシ

寫真版權登錄證書ノ取扱ハ總テ文書圖書ノ版權登錄證書ニ準スルモノトス

第六條 寫真版權保護ノ年限ハ登錄ノ月ヨリ十年トス

第七條 寫真版權ハ制限ヲ付シ若クハ付セスシテ賣渡讓渡スコトヲ得

第八條 版權ノ保護ヲ受ル寫真ハ之ヲ複寫シ若クハ機械又ハ舍密ノ作用ニヨリ多數ヲ増製シ得ヘキ方法ヲ以テ寫真術ト類似ノ摸寫ヲ爲シ及寫真師ニ於テ本人又ハ其相續者ノ承諾ヲ受ケスシテ囑托ニ係ル寫真ヲ増製スルコトヲ得ス

第九條 第三條ノ手續ヲナサズシテ版權登錄ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第八條ニ違フ者ハ版權條例ニ據リ偽版ヲ以テ論シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ及損害賠償ノ責ニ任セシム

損害賠償ノ責ハ其原寫真ノ版權年限終ルノ後一年ヲ以テ期滿得免ノ期トス

第十一條 此條例ニ關スル公訴ノ期限ハ一年トシ其犯罪ト認メラレタル寫真又ハ摸寫物作爲ノ時ヨリ起算シ其發賣セルモノハ最後ニ發賣シタル時ヨリ起算ス

第十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用キス

○出版及版權ニ關スル願届手續 明治二十六年四月廿日 内務省令第七號

出版及版權ニ關スル願届手續等左ノ通り之ヲ定ム
出版及版權ニ關スル願届手續

- 第一條 凡願届書ニ署名スル者ハ各住所ヲ詳記シ實印ヲ捺シ内務大臣宛ニテ差出ス可シ
- 第二條 出版法第七條第八條ニ依リ文書圖書ノ末尾ニ記載スル文字ハ總テ楷書タルヘシ
- 第三條 他人ノ書畫ヲ臨寫シ若クハ摹寫シ又ハ他人ノ詩文歌ヲ書寫シテ出版スル者ハ其紙面中ニ臨寫若クハ摹寫者誰又ハ書者誰ト記載スヘシ
- 第四條 出版法第十條第一項但書ニ依リ許可ヲ得タル雜誌ハ製本中見易キ場所ニ於テ(何年月日内務省許可)ト記載スヘシ但明治二十年^{十二}勅令第七十六號出版條例第九條但書ニ依リ許可ヲ得タルモノ亦同シ
- 第五條 版權法第十一條第二項ニ依リ版權登錄願ノ手續ヲ省略セント欲スル者ハ豫メ大約一箇年内出版ノ分隨意取束ネ版權登錄ヲ願出ツルコトヲ得
- 第六條 外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版スル者ハ原書ノ題名著者ノ氏名出版ノ地名及年號ヲ原字ヲ以テ認メ届書ニ添付ス可シ
- 第七條 出版届ハ第一書式再(三)版届ハ第二書式版權登錄願ハ第三書式雜誌版權登錄願ハ第四書式寫真版權登錄願ハ第五書式版權登錄再度下付願ハ第六書式ニ依ル可シ
- 第八條 出版法及版權法ニ於テ他人ノ許諾ヲ得ヘキモノニシテ其許諾ヲ得テ出版届出又ハ版權登錄願出ルトキハ其旨ヲ届書又ハ願書ニ記スヘシ

非賣ノ文書圖書ヲ出版スル者ハ其届書並製本中ニ非賣品ト記スヘシ

- 第九條 專ラ學術技藝統計廣告ノ類ヲ記載スル雜誌ニシテ出版法第二條但書ニ從ヒ同法ニ依ラント欲スル者ハ第七書式同法第十條第一項ノ但書ニ依リ届出ノ手續ヲ省略セント欲スル者ハ第八書式ニ依ル可シ
- 第十條 版權登錄願ヲ許可スルトキハ第九書式寫真版權登錄願ヲ許可スルトキハ第十書式ノ證書ヲ下付ス可シ但毀損紛失等ニ依リ再度下付スル證書ハ第十一書式ニ依ル
- 第十一條 此省令ハ出版法版權法施行ノ日ヨリ之ヲ施行シ明治二十一年一月一内務省令第一號明治二十三年^三同省令第一號明治二十五年^三同省令第三號ハ同日ヨリ之ヲ廢ス
(書式略ス)

○舊出版條例ニ依リ版權免許ヲ得タル者免狀毀損紛失等ニ關スル件

明治二十一年四月二日 内務省令第三號

- 第一條 舊出版條例ニ依リ版權免許ヲ得タル者其免許狀ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ其事由ヲ記シ證明書ノ下付ヲ内務省ニ願出ルコトヲ得但手数料トシテ金五拾錢ヲ同省ニ納ム可シ
- 第二條 舊出版條例ニ依リ版權免許ヲ得未タ出版セサル圖書ニシテ自今出版ノモノハ其製本ニ何年月日版權免許ト記載シ改正出版條例第三條ニ依リ届出ヲナスト同時ニ舊出版條例第二十條ノ免許料ヲ内務省ニ納ムヘシ
- 第三條 (二十五年三月省令^三第三號ヲ以テ削除)

出版及版權ニ關スル願届手續

舊出版條例ニ依リ版權免許ヲ得タル者免狀毀損等ニ關スル件

○新聞紙條例 明治二十年十二月廿八日 勅令第七十五號

朕新聞紙條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

新聞紙條例

第一條 新聞紙ヲ發行セントスル者ハ發行ノ日ヨリ二週日以前ニ發行地ノ管轄廳東京府ハハヲ經由シテ内務省ニ届出ヘシ

第二條 新聞紙發行ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 題號

二 記載ノ種類

三 發行ノ時期

四 發行所及印刷所

五 發行人、編輯人及印刷人ノ氏名年齢

編輯人ハ二人以上アルトキハ其主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者タルヘシ但紙面ニ部門ヲ分チ其各部門ニ主任編輯人ヲ設クルコトヲ得

第三條 届出ヲ爲シタル後、題號、記載ノ種類又ハ發行人ヲ變更セントスルトキハ二週日以前ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

發行ノ時期、發行所、印刷所、編輯人、印刷人ニ變更アリタルトキハ一週日以内ニ第一條ノ手續ニ從ヒ

届出ヘシ

第四條 發行人死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルトキハ一週日以内ニ發行人ヲ定メ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ其届出ヲナスマテハ假發行人ノ名義ヲ以テ發行スルコトヲ得

第五條 發行ノ届出ヲナシタル日又ハ發行休止ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサルトキハ其届出ノ効ヲ失フモノトス

第六條 内國人ニシテ滿二十歳以上ノ男子ニ非サレハ發行人、編輯人、印刷人トナルコトヲ得ス 公權ヲ剝奪セラレタル者及公權ヲ停止セラレタル者其停止間發行人、編輯人、印刷人トナルコトヲ得ス

第七條 編輯人、印刷人ハ五ニ相兼ヌルコトヲ得ス

第八條 發行人ハ保證トシテ左ノ金額ヲ届書ト共ニ管轄廳東京府ハハニ納ムヘシ

一 東京ニ於テハ千圓

一 京都大阪横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓

一 其他ノ地方ニ於テハ三百五十圓

一 一月三回以下發行スルモノハ各前記ノ半額 保證金ハ時價ニ準シタル公債證書又ハ國立銀行ノ預手形ヲ以テ之ヲ納ムルコトヲ得

第九條 保證金ハ新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ其發行ヲ禁止セラレタルトキハ之ヲ還付ス 學術、技藝、統計、官令又ハ物價報告ニ關スル事項ノミヲ記載スルモノハ本條ノ限ニアラス

第十條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メシテ發行スルモノハ正當ノ届出ヲナシ又ハ保證金ヲ納ムルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差

新聞紙條例